

インテリジエント モニタリング ソフトウェア

ユーザーガイド
ソフトウェアバージョン 1.6.5 以降

RealShot Manager Advanced

IPELA

目次

著作権について	6
---------------	---

第 1 章 はじめに

RealShot Manager Advanced の特長	7
動作環境	8
ソフトウェアについて	9
RealShot Manager Advanced (Server) と RealShot Manager Lite	9
RealShot Manager Lite の機能制限について	10
RealShot Manager Advanced (Client) から NSR-500 シリーズに 接続する際の機能制限について	10
システム構成例	11
構成例 1	11
構成例 2	12
構成例 3	13
エンドユーザーライセンス契約	14
MPEG-4 Visual Patent Portfolio License について	15

第 2 章 基本操作

概要	16
アプリケーションを起動する／終了する	16
起動する	16
終了する	17
画面の基本操作	18
パスワードを変更する	20
ログオフする	21
バージョン情報を見る	21

第 3 章 管理メニュー

概要	22
「管理メニュー」を表示する	22
「セットアップメニュー」で初期設定を変更する	23
「セットアップメニュー」を表示する	23
設定項目の詳細	23
サーバーに関する設定をする	26
構成データを保存／復元する	28
構成データを保存する	28
構成データを復元する	29
システム情報をエクスポートする	30

第4章 各種設定

アラームとイベントについて.....	32
設定画面を表示する.....	33
デバイスを登録する.....	34
自動検索されたカメラを選択して一括登録する.....	34
手動でデバイスを登録する.....	35
登録内容を変更する.....	36
デバイスを削除する.....	37
SNC-CS20/CM120/DS10/DM110/DS60/DM160 を使用する場合に 必要な設定.....	37
デバイスグループを登録する.....	39
各画面の詳細.....	40
カメラの映像設定をする.....	44
カメラの動作設定をする.....	48
プリセット位置を設定する.....	48
カメラツアーを設定する.....	50
シャドーツアーを設定する.....	52
マスク（レコーダー）を設定する.....	52
マスク（カメラ）を設定する.....	55
アナログカメラのコントロールプロトコルを設定する.....	57
ネットワークカメラのコントロールを設定する.....	57
オーディオを設定する.....	58
モニタリングに関する設定をする.....	59
モニターレイアウトの設定をする.....	59
モニターフレームにカメラを割り当てる.....	66
セカンドモニターを設定する.....	66
レイアウトツアーを設定する.....	67
動体検知の設定をする.....	68
RealShot Manager Advanced の動体検知機能を使う（VMD （レコーダー））.....	69
カメラの動体検知機能を使う（VMD（カメラ））.....	71
メタデータによる動体検知を行う（VMF）.....	74
カメラ妨害検知と音圧検知の設定をする.....	79
Edge Storage の設定をする.....	80
ストレージに関する設定をする.....	81
ストレージの設定をする.....	81
記録データの削除に関する設定をする.....	85
記録スケジュールを設定する.....	88
手動でスケジュールを設定する.....	88
アラーム記録／イベント記録を設定する.....	90
センサー入力の設定をする.....	96
RealShot Manager Advanced に論理的センサー入力端子を追加する.....	96
カメラのセンサー入力端子の設定を変更する.....	97
Barionet のセンサー入力端子の設定を変更する.....	97
RealShot Manager Advanced に作成した論理的センサー入力端子を 削除する.....	98
[センサー入力] タブの設定項目.....	98

アラーム出力の設定をする	99
カメラのアラーム出力端子の設定を変更する	99
Barionet のアラーム出力端子の設定を変更する	99
[アラーム出力] タブの設定項目	100
アクションの設定をする	102
マニュアルアクション	102
イベント／アラームアクション	105
メール通知の設定をする	110
システムアラートの設定をする	111
緊急イベントの設定をする	113
ユーザーを登録する	113
ユーザーレベルと権限について	113
ユーザーを登録する	114
ユーザーの設定内容を変更する	114
ユーザーを削除する	115
[ユーザー] タブの設定項目	115
クイック再生時の巻き戻し時間を設定する	117
緊急イベントをダイアログで通知する	118

第 5 章 日常の運用

モニタリングする	119
ライブ画像をモニタリングする	119
レイアウトツアーでモニタリングする	120
メイン画面の機能と使いかた	121
クリックアクションが設定されている場合	126
2 番目のモニター（モニター 2）	126
モニターフレーム	126
カメラをコントロールする	127
パン、チルト、ズームの操作をする	127
ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの画像を コントロールする	128
カメラのプリセットを使う	129
カメラツアーを実行する	130
画像を記録・検索・再生する	130
ライブ画像を記録する	130
記録画像を再生する	131
記録画像を検索する	131
検索結果から記録画像を再生する	133
「検索」画面の詳細	133
記録画像を削除する	137
記録画像を保護する	138
記録画像をエクスポートする	139
記録画像をエクスポートする	139
静止画としてエクスポートする	141
システムの管理をする	142
エラーステータスを監視する	142
ログファイルをエクスポートする	143

ソフトウェアをアンインストールするには	145
RealShot Manager Advanced をアンインストールする	145
PostgreSQL をアンインストールする	145
データを削除する	145
トラブルシューティング	146
ログについて	146
エラーメッセージ	146
その他	147
索引	149

商標について

“IPELA” および **IPELA** は、ソニー株式会社の商標です。
Microsoft、Windows、DirectX は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel および Pentium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションの登録商標です。
なお、本文中では、®、™ マークは明記していません。

著作権について

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよびユーザーガイドの内容の全部または一部を複製すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負い兼ねます。このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

その他、各種 Copyright については、RealShot Manager Advanced のインストールフォルダーの下の「copyright」フォルダーにある「Copyright.pdf」をご覧ください。

本書の内容は、製品の仕様変更などで予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

RealShot Manager Advanced の特長

RealShot Manager Advanced は、ネットワークカメラ（IPカメラ）用の多地点モニタリングシステムソフトウェアです。RealShot Manager Advanced をコンピューターにインストールして簡単な設定をするだけで、ネットワークを介して複数台のカメラを管理し、画像のモニタリングや記録の検索・再生、カメラの操作などが行えます。

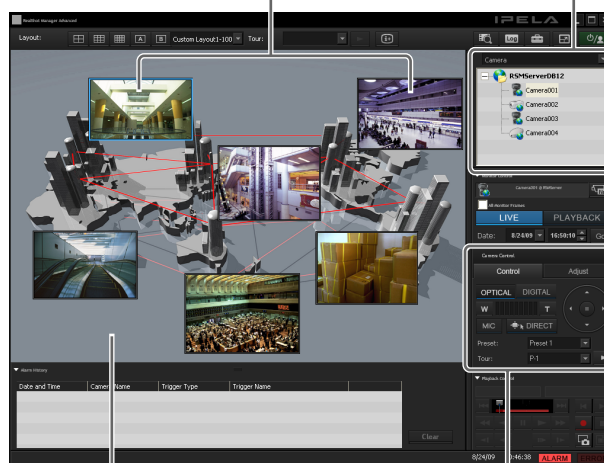
RealShot Manager Advanced には、以下の特長があります。

複数台のネットワークカメラの画像を同時に表示

RealShot Manager Advanced の画面には、複数台のネットワークカメラの画像を同時に表示できます。使用環境や目的に応じて、RealShot Manager Advanced の画面に表示するモニターフレームの数や大きさ、配置などのレイアウトを自由に設定でき、画面の背景には、地図やフロアの間取り図などの既存のデータを取り込んで利用することもできます。パン、チルト、ズームなどのカメラの操作は、モニターフレームからカメラに個別にアクセスして行います。

各カメラの画像を記録できます。

複数台のカメラの画像を同時に表示できます。



ウィンドウの数や大きさ、配置、背景などのレイアウトが可能です。

カメラのパン、チルト、ズームを遠隔管理できます。

詳細な記録スケジュール機能と多彩な記録モード

カメラ1台ごと、または複数台のカメラをまとめて記録スケジュールを設定し、画像を記録できます。動体検知や外部センサーなどのアラーム発生により記録を開始させることもできます。また、モニターフレームから手動でカメラの画像を記録することも可能です。記録した画像は、ビデオやDVDプレーヤーなど同様の操作で再生でき、記録中の画像を追いかけ再生することができます。

詳細なカメラ設定やカメラの管理、コントロールが可能

カメラを設置している地域やフロアごとにカメラグループを設定し、効率良く管理できます。カメラ1台ごとに、画質や解像度などが設定でき、アラーム発生時やイベント時には、パン、チルト、ズームなどのカメラの操作を直接行うことができます。また、カメラ位置をプリセットしておく、必要ときに呼び出すこともできます。

ソフトウェアによる動体検知機能を搭載

RealShot Manager Advanced による動体検知が可能です。動体検知の設定を時間ごとに切り替えるようにスケジュールを設定できるので、夜間と昼間とで自動的に設定を切り替えるなど、様々な運用が可能です。

また、カメラの動体、または不動体検知機能にも対応しています。

カメラからのメタデータを用いたフィルタリング機能

カメラから配信される画像処理結果である物体情報のメタデータを用いた各種フィルタリングを行うことによって、高度なアラーム処理が可能となりました。記録済みのメタデータに対してもフィルタリングが可能のため、記録後に、気になる部分について検索できます。

その他の機能

- JPEG、MPEG4 または H.264 に対応しています（ただし、カメラが対応しているビデオコーデックに依存します）。
- カメラのマイクや音声入力用デバイスからの音声のモニタリングや記録、再生ができます。
- カメラごとに、記録の保存場所を指定できます。
- 再生開始時刻を指定して、複数の記録データを同時に再生できます。
- 運用を止めることなく、自動的にデータベースの最適化が行われるため、長期にわたる連続運用が可能です（本バージョンの RealShot Manager Advanced では、データベースに PostgreSQL を使用しています）。
- RealShot Manager Advanced では、ネットワークが切断したり、サーバーが異常終了して VIDEO LOSS が生じた場合に、カメラの Edge Storage に画像を記録し、復帰後に記録データを Edge Storage から取得できます。

ご注意

- RealShot Manager Advanced は、システムコントローラー RM-NS1000 に対応しています。
- RealShot Manager Lite では、機能や接続できるカメラ台数などに制限があります。詳しくは、「RealShot Manager Lite の機能制限について」（10 ページ）をご覧ください。
- RealShot Manager Advanced (Server) では、ライセンスによりカメラを 32 台まで接続できますが、ハードウェアの性能や使用環境によってパフォーマンスに影響がありますので、必ず試用してから運用するようにしてください。
- ライセンスは、RealShot Manager Advanced (Server) をインストールして使用するコンピューターの固定ライセンスとなっています。必ず使用するコンピューターを決めてから、ライセンスを購入してください。なお、ライセンスの取得後にハードウェア構成を変更した場合、ライセンスファイルが無効になることがあります。その場合は、ライセンスをご購入いただいた「ソニー業務用商品」の特約店にご相談ください。
- 本ソフトウェアをご使用になる際は、接続するネットワークの安全性を確保してください。

動作環境

RealShot Manager Advanced の動作環境や対応機器については、ソフトウェアのリリースノートをご覧ください。

ソフトウェアについて

RealShot Manager Advanced には、用途に応じて、以下のソフトウェアが用意されています。

- **RealShot Manager Advanced (Server)**

サーバーとして動作し、ネットワークを介して最大 32 台のカメラを管理します。画像のモニタリングや記録の検索・再生、カメラの操作など、RealShot Manager Advanced のすべての機能が使用できます。なお、コンピュータにインストールした RealShot Manager Advanced (Server) には、接続するカメラの台数に応じたライセンスが必要です。

- **RealShot Manager Lite**

サーバーとして動作し、画像のモニタリングや記録の検索・再生、カメラの操作など、基本的な機能は備えていますが、一部の機能や接続できるカメラ台数などに制限があります。詳しくは、「RealShot Manager Lite の機能制限について」(10 ページ)をご覧ください。RealShot Manager Lite は、ライセンスの購入は必要ありません。

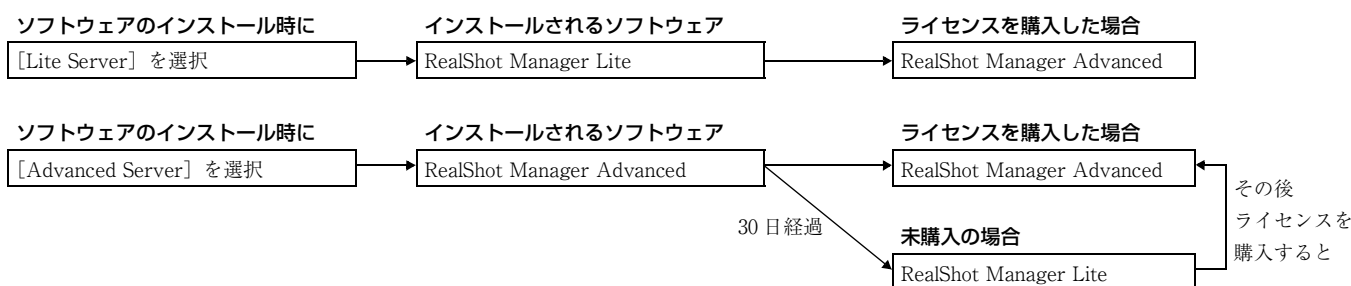
- **RealShot Manager Advanced (Client)**

RealShot Manager Advanced (Server) や RealShot Manager Lite、NSR-1000 シリーズ、NSR-500 シリーズのリモートクライアントとして使用します。RealShot Manager Advanced (Client) は、ライセンスの購入は必要ありません。

RealShot Manager Advanced (Server) と RealShot Manager Lite

ソフトウェアのインストール時にどちらをインストールするかを選択しますが、RealShot Manager Lite をインストールした後も、RealShot Manager Advanced (Server) にアップグレードできます。

ソフトウェアをインストールした後の RealShot Manager Advanced (Server) と RealShot Manager Lite の関係は、次のようになります。



メモ

- RealShot Manager Advanced (Server) をインストールした後、30日経過して RealShot Manager Lite になった場合、カメラ数や機能に制限が発生します。詳しくは、「RealShot Manager Lite の機能制限について」(10 ページ)をご覧ください。
- RealShot Manager Lite から RealShot Manager Advanced (Server) にアップグレードした場合でも設定は引き継がれます。

- ライセンスのご購入については、お近くの「ソニー業務用製品」を取り扱っている特約店へご相談ください。インストール後、30日以内に購入されることをおすすめします。

RealShot Manager Lite の機能制限について

RealShot Manager Lite には、以下の機能に制限があります。

機能	RealShot Manager Lite	RealShot Manager Advanced (Server)
カメラ数 (最大)	9	32
対応カメラ	ソニー製のカメラのみ ¹⁾	ソニー製以外のカメラにも対応 ¹⁾
セントラルサーバーモード ²⁾ (マスター/スレーブ)	×	○
Video Motion Detection (レコーダー)	×	○
Video Motion Filter (メタデータによる動体検知)	×	○
オブジェクト検索 ³⁾	×	○
アラーム出力	×	○
マニュアルアクション	×	○
ネットワークドライブ	×	○
Edge Storage	×	○

○：対応 ×：非対応

- 1) RealShot Manager Lite は、カメラを含む他社製デバイスに対応しておりません。音声デバイスなど、他社製のデバイスを使用する場合は、RealShot Manager Advanced をお使いください。
- 2) 複数台のサーバー (NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズ、RealShot Manager Advanced (Server)) で共通のユーザー管理を行いたい場合や、RealShot Manager Advanced (Client) から接続したい場合に使用する機能です。
- 3) すでに記録されている画像に対して、Video Motion Detection (レコーダー) の動体検知機能や Video Motion Filter の機能を使って行う検索です。

RealShot Manager Advanced (Client) から NSR-500 シリーズに接続する際の機能制限について

NSR-500 シリーズ本体側に機能が備わっていないため、以下の設定および機能が使用できません。

設定・機能

- Video Motion Filter (VMF) 設定¹⁾
- Video Motion Detection (VMD) (レコーダー) 設定
- マスク設定
- オブジェクト検索
- ノーマル検索の一部²⁾

- 1) VMF 検知機能を持つカメラで VMF 設定をカメラ側で行った場合、VMD (カメラ) の VMF 設定でその VMF 検知をトリガーとして使用することは可能です。
- 2) アラーム記録およびイベント記録で、VMF、VMD (レコーダー) は検索できません。

システム構成例

RealShot Manager Advanced では、規模や用途に合わせて、次のようにシステムを構成します。

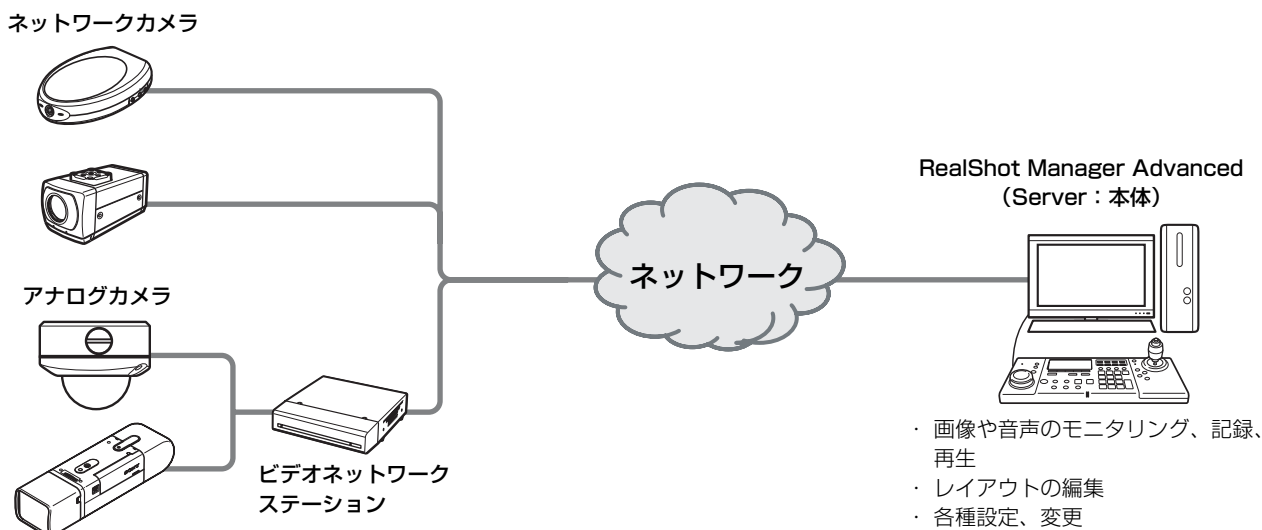
本書では、RealShot Manager Lite 固有の内容についてのみ「RealShot Manager Lite」と明記しています。共通の内容については、「RealShot Manager Advanced」と記載しています。

ご注意

RealShot Manager Advanced に登録して運用しているカメラに対して、ほかの RealShot Manager Advanced や NSR-1000 シリーズ、NSR-500 シリーズから登録したり、ほかの Web ブラウザから接続したりしないでください。

構成例 1

以下は、最も基本的な構成例です。
RealShot Manager Advanced (Server) がインストールされたコンピューターですべての設定や操作を行います。

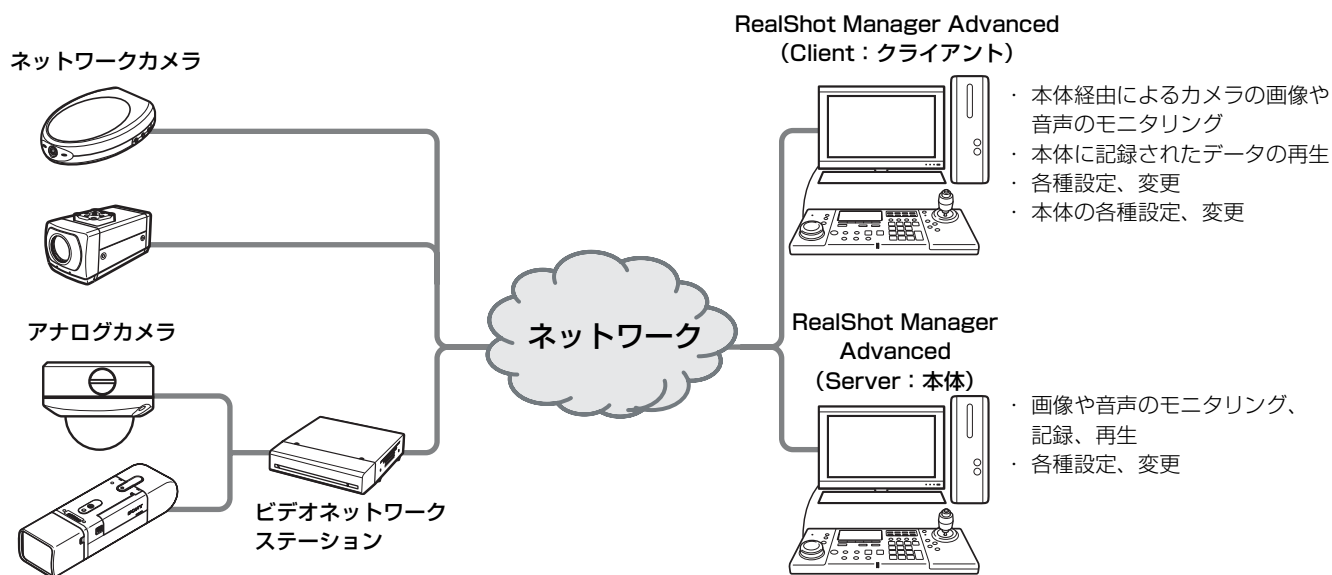


メモ

- 1台のカメラに接続できる RealShot Manager Lite または RealShot Manager Advanced (Server) の数は1つです。
なお、RealShot Manager Advanced (Server) には、接続するカメラの台数に応じたライセンスが必要です。
- RealShot Manager Advanced は、システムコントローラー RM-NS1000 に対応しています。

構成例 2

複数のコンピューターに、用途に応じた RealShot Manager Advanced をインストールし、複数のコンピューターでモニタリングするカメラや記録データを共有します。

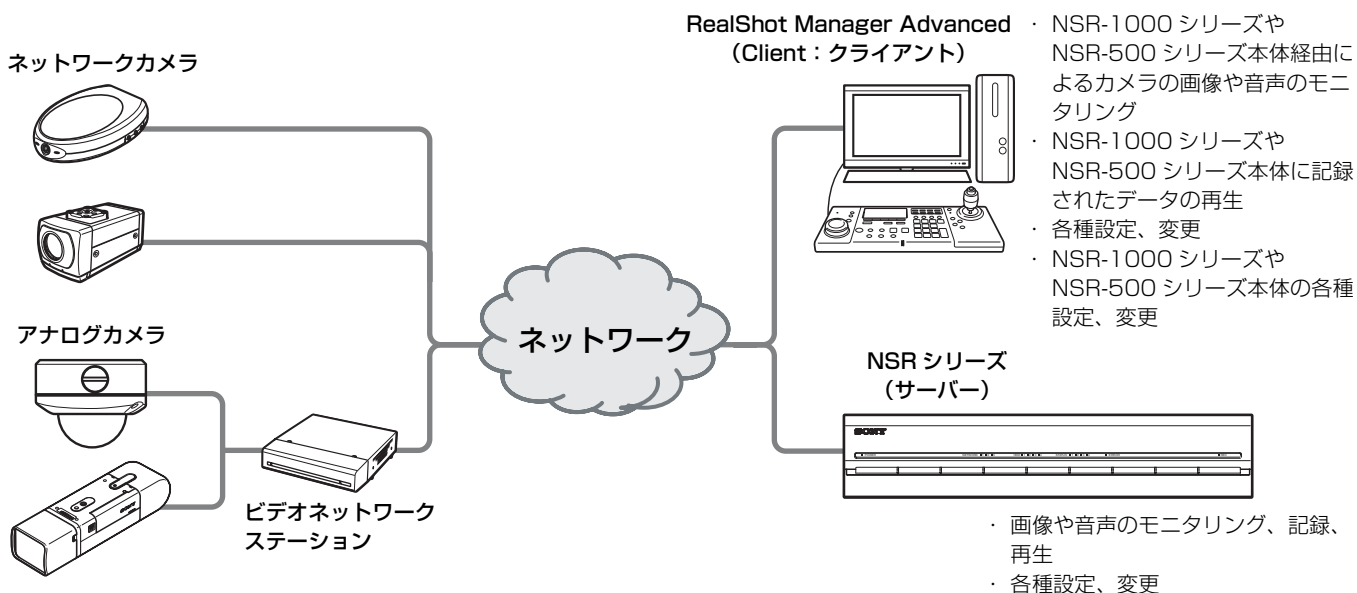


メモ

- 同一ネットワーク上に RealShot Manager Advanced (Server) がインストールされているコンピューターが必要です。
- コンピューターにインストールした RealShot Manager Advanced (Server) には、接続するカメラの台数に応じたライセンスが必要です。
- RealShot Manager Advanced (Server) と RealShot Manager Advanced (Client) の構成で使用する場合は、RealShot Manager Advanced (Server) でマスターサーバーの設定とユーザーの作成が必要です。必要な設定については、「サーバーに関する設定をする」(26 ページ)、「ユーザーを登録する」(113 ページ) をご覧ください。
- RealShot Manager Advanced (Server) に接続するクライアントの数が増えると、サーバーの負荷が高くなります。
- RealShot Manager Advanced は、システムコントローラー RM-NS1000 に対応しています。

構成例 3

NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズのリモートクライアントとして RealShot Manager Advanced を使用する場合の例です。リモートクライアントとして使用するコンピューターに RealShot Manager Advanced (Client) をインストールし、マスターサーバーとなる NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズとモニタリングするカメラや記録データを共有します。



メモ

NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズのリモートクライアントとして RealShot Manager Advanced を使用する場合は、NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズでマスターサーバーの設定とユーザーの作成が必要です。必要な設定については、NSR-1000 シリーズまたは NSR-500 シリーズの『設置説明書』および『ユーザーガイド』をご覧ください。

エンドユーザーライセンス契約

(注) 以下は英文版の「End User License Agreement」の参考訳であり、英文版の「End User License Agreement」が正式な契約文書となります。

以下に定めるエンドユーザーライセンス契約（以下、「本契約」といいます）は、ソニー株式会社（以下、「弊社」といいます）とお客様の間での法的な契約です。本契約に基づき、お客様は、弊社のネットワークカメラ用インテリジェントモニタリングソフトウェア「Real Shot Manager Advanced」（以下、「許諾ソフトウェア」といいます）の使用が可能になります。

エンドユーザーライセンス契約

第1条（使用権）

1. 本契約の条件に従って、ソニーは、お客様に対して、許諾ソフトウェアの非独占的かつ譲渡不能かつ再許諾不能な使用権を許諾します。
2. お客様は、1台のコンピュータにおいてのみ、許諾ソフトウェアをインストールすることができます。

第2条（権利の制限）

許諾ソフトウェアの使用許諾にあたっては、弊社が認める場合もしくは適用される法令で明示的に許されている場合を除いて、以下の制限を受けるものとします。

お客様は、

- ① 許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写することはできません。
- ② 態様の如何を問わず、許諾ソフトウェアを改変し、追加し、編集し、削除し、その他変更することはできません。
- ③ 許諾ソフトウェアにつき、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行うことはできません。
- ④ 許諾ソフトウェアの使用権を、有償無償を問わず、第三者に譲渡、転貸その他処分することはできません。
- ⑤ 許諾ソフトウェアにつき、有償無償を問わず、譲渡、再許諾、再配布、担保設定その他処分することはできません。
- ⑥ 許諾ソフトウェアに付されている著作権表示を削除、除去することはできません。

第3条（機能追加）

お客様は、ソニーに別途指示された金額を支払うことにより、許諾ソフトウェアに付された機能の制限解除もしくは許諾ソフトウェアへの機能追加をする権利を許諾された場合には、本契約の条件は、当該機能制限解除部分もしくは追加機能部分にも適用されるものとします。

第4条（権利）

許諾ソフトウェアに関する権利及び著作権は、ソニー及び／又はソニーに許諾ソフトウェアの使用もしくは再許諾を許諾した第三者に所有及び／又は管理されるものとします。本契約に基づき明確に許諾していない使用権以外の権利は、ソニーもしくは当該第三者が引き続き保有するものとします。

第5条（責任の制限）

1. 許諾ソフトウェアは、現状有姿の状態を提供されます。ソニーは、お客様または第三者に対して、許諾ソフトウェアにエラー、瑕疵、あるいは不正確な点がないこと、または許諾ソフトウェアが完全に動作することの表明及び保証を行わないものとします。ソニーは、許諾ソフトウェアについて明示的、黙示的または法的な保証（商品性および特定の用途への適合性を含むがこれに限られない）を行わず、すべての黙示的保証から免責されるものとします。
2. ソニーは、許諾ソフトウェアの使用により、第三者が所有する知的財産権を侵害しない、もしくは侵害を引き起こさないことを保証するものではありません。
3. 許諾ソフトウェアを使用するコンピュータのセキュリティに関する責任は、お客様が負うものとします。
4. ソニーは、許諾ソフトウェアを使用することによりお客様及び／又は第三者に生じた損害について、お客様及び／又は第三者に対して、賠償したり、損害を与えないようにしたり防御したりしないものとします。
5. ソニーは、お客様の許諾ソフトウェアの使用に起因する間接的、偶発的、結果的、特別もしくは懲罰的損害（得べかりし事業上もしくは個人の財産の喪失、データの喪失を含むがこれに限られない）に対する一切の責任を、たとえソニーが当該損害の可能性を認識していたとしても、負わないものとします。

第6条（終了）

1. お客様が本契約の条項のいずれかに違反した場合、ソニーは本契約を直ちに解除することができるものとします。この解除は、ソニーがお客様に対して、損害賠償またはその他救済を請求する権利に何ら影響を与えるものではありません。
2. 本契約が終了する場合、お客様は許諾ソフトウェアのすべての使用を中止し、そのすべてを廃棄するものとします。

3. 本契約が終了した場合でも第4条、第5条、第6条、第7条は引き続き効力を有するものとします。

第7条 (一般条項)

1. 本契約は、日本国法に従い解釈されるものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアに適用される一切の輸出管理規制に関する法律、規則及び条約に従うことに同意するものとします。
3. 本契約の条件は、分割可能なものです。本契約のいずれかの条項が、本契約が実施されるある管轄において無効もしくは執行不能とされた場合であっても、当該条項以外は有効に存続し、執行可能なものとします。

MPEG-4 Visual Patent Portfolio License について

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：

- (i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual 規格に合致したビデオ信号（以下、MPEG 4 VIDEO といいます）にエンコードすること。
- (ii) MPEG-4 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ ([HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com)) をご参照ください。

概要

本章では、アプリケーションの起動と終了、画面の基本操作、パスワードの変更など、以下の基本操作について説明します。

- アプリケーションを起動する／終了する (16 ページ)
- 画面の基本操作 (18 ページ)
- パスワードを変更する (20 ページ)
- ログオフする (21 ページ)
- バージョン情報を見る (21 ページ)

メモ

デバイスやスケジュール、センサー入力、アラーム出力などの設定については第4章「各種設定」(32 ページ)を、モニタリングや記録の検索／再生については第5章「日常の運用」(119 ページ)を参照してください。

アプリケーションを起動する／終了する

ご注意

この取扱説明書では、画面に表示される項目の一部を日本語で説明しています。

起動する

- 1 [スタート]メニューをクリックし、[すべてのプログラム] - [RealShot Manager Advanced] - [RealShot Manager Advanced] をクリックする。

設定によって、表示される画面が異なります。以降では、ログオン画面が表示されたときの手順を説明します。

メモ

- 自動ログオンするように設定されているときは、メイン画面が表示されます。
- 「カメラ自動登録」画面が表示されたときは、カメラを探索して自動登録するかどうかを選択します。「カメラ自動登録」については、『インストレーションガイド』(PDF)をご覧ください。

- 2 ログオンする。

RealShot Manager Advanced (Server) と RealShot Manager Advanced (Client) とでは表示される画面が異なります。

RealShot Manager Advanced (Server) の場合

ユーザー名とパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。

初期設定ユーザー：admin

初期パスワード：admin



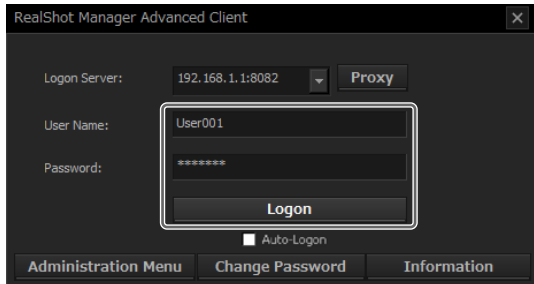
RealShot Manager Advanced (Client) の場合

次の項目を入力し、[ログオン] をクリックします。

ログオンサーバー：マスターサーバーの IP アドレス
 ポートはサーバーで設定されたセントラルサーバーの値を指定してください。
 なお、初期値は「8082」です。
 サーバーの IP アドレスが 192.168.1.1 の場合には、下図のように「192.168.1.1:8082」で指定します。

ユーザー名：サーバーで設定されているユーザー名

パスワード：サーバーで設定されているパスワード



- [自動ログオン] にチェックマークを付けた状態でログオンすると、次回アプリケーション起動時からログオン画面が表示されず、自動でログオンが行われます。
- ログオンするユーザーを変更する場合は、メイン画面で、いったんログオフしてください。
- 自動ログオン機能を有効にするには、「管理メニュー」の「セットアップメニュー」から設定してください。

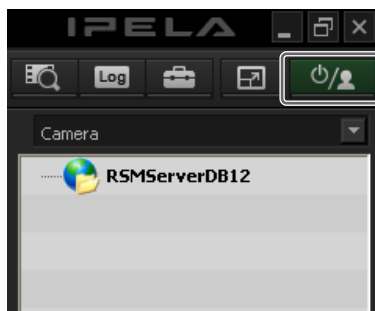
ご注意

チェックマークの状態は、ログオンすることにより反映されます。

チェックマークを外した場合にも、一度ログオンが必要です。

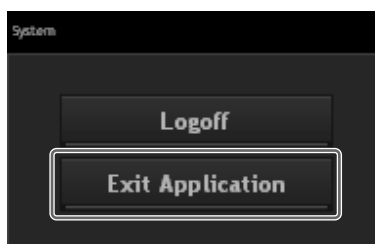
終了する

- 1 メイン画面右上の  をクリックする。



次の画面が表示されます。

- 2 [アプリケーション終了] をクリックする。



RealShot Manager Advanced が終了します。

ご注意

ユーザー管理を行っている場合、RealShot Manager Advanced を終了できるのは、「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーだけになります。ユーザー管理を行っている場合は、「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーでログオンしてから終了してください。「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーがない場合は、RealShot Manager Advanced を終了できませんので注意してください。

画面の基本操作

ここでは、各画面共通の基本操作について大まかに説明します。

RealShot Manager Advanced には、画像をモニタリングするメイン画面と各種設定を行う設定画面、RealShot Manager Advanced に関する設定や操作を行う「管理メニュー」画面があります。



メモ

RealShot Manager Advanced (Client) では、[サーバー設定] は表示されません。

メモ

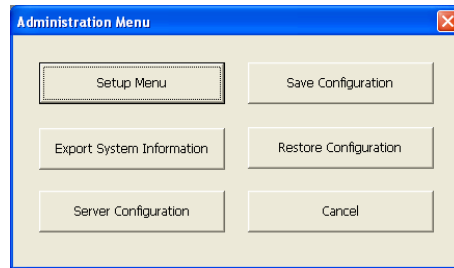
RealShot Manager Advanced (Client) では、「レコーダー設定」画面は表示されません。

メモ

[自動記録設定] や [簡単設定] を選択すると、簡単な操作でカメラの登録や設定が行えます。自動記録設定と簡単設定については、『インストールガイド』(PDF) をご覧ください。

「管理メニュー」画面

ログイン画面で「管理メニュー」をクリックすると、「管理メニュー」画面が表示されます。各ボタンをクリックすると、RealShot Manager Advanced に関する設定や操作が行えます。



「管理メニュー」で行える設定については、第3章「管理メニュー」（22ページ）をご覧ください。

メイン画面

メイン画面では、各モニターフレームでライブ画像のモニタリングや記録画像の検索／再生が行えます。ライブ画像と記録画像の再生を切り替えるには、表示させたいモニターフレームをクリックして選択し、画面右側にある[LIVE] または [PLAYBACK] をクリックします。

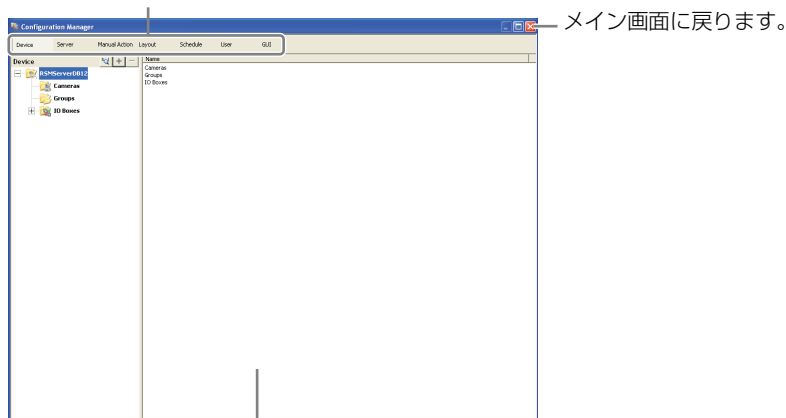


モニタリングや記録の検索／再生のしかたについては、第5章「日常の運用」（119ページ）を参照してください。

設定画面

カメラの登録やスケジュールの設定、ユーザーの登録など、RealShot Manager Advanced を使用するための設定が行えます。

設定したい項目のボタンをクリックします。



クリックしたボタンに応じて、設定項目などが表示されます。

設定項目や設定方法については、第4章「各種設定」（32ページ）をご覧ください。

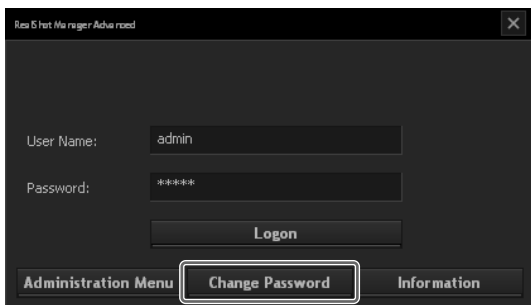
パスワードを変更する

RealShot Manager Advanced にログオンするためのパスワードを変更できます。

メモ

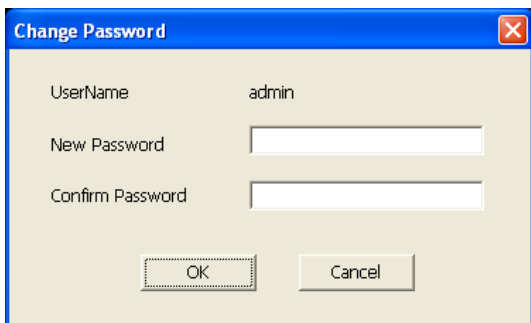
- パスワードは、セキュリティにおいて大変重要です。購入後初めて RealShot Manager Advanced にログオンしたら、モニターや各種設定を行う前に必ずパスワードを変更してください。また、パスワードは厳重に管理してください。
- システムコントローラー（RM-NS1000）で操作する場合は、ユーザー名とパスワードを数字のみで設定してください。

- 1 ログオン画面で、ユーザー名とパスワードを入力し、[パスワードの変更] をクリックする。



[パスワードの変更] ダイアログが表示されます。

- 2 新しいパスワードを入力し、[OK] をクリックする。



[確認パスワード] には、同じパスワードをもう一度入力してください。

パスワードが変更されます。


メモ

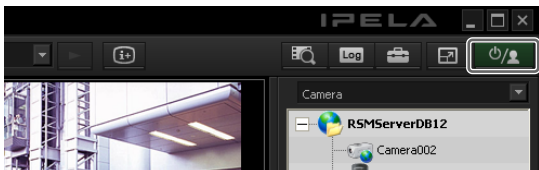
[自動ログオン] が有効な場合は、アプリケーション起動時にログオン画面が表示されず、自動でログオンが行われます。[自動ログオン] が有効な場合にパスワードを変更するには、メイン画面で一旦ログオフしてください。

ご注意

管理者「admin」または「ユーザー管理」権限のあるユーザーのパスワードを変更した場合は、変更したパスワードを忘れないようにしてください。

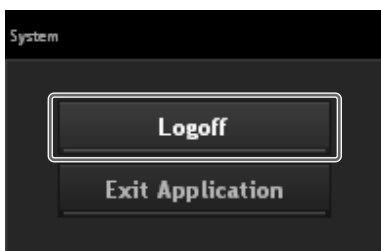
ログオフする

- 1 メイン画面で、 をクリックする。



次の画面が表示されます。

- 2 [ログオフ] をクリックする。



RealShot Manager Advanced からログオフし、ログオン画面が表示されます。

再度ログオンするには、ユーザー名とパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。

バージョン情報を見る

- 1 ログオン画面で、ユーザー名とパスワードを入力し、[情報] をクリックする。



バージョン情報が表示されます。



メモ

- バージョン情報画面では、バージョン情報以外にも、ライセンスの申請時に必要となるシリアル番号の情報や接続されるカメラ数の情報が表示されます。
- RealShot Manager Advanced をインストールし、ライセンスを購入していない場合は、30日間経過すると RealShot Manager Lite に移行して機能が制限されますが、RealShot Manager Advanced の全機能が使える期限の日時もここに表示されます。

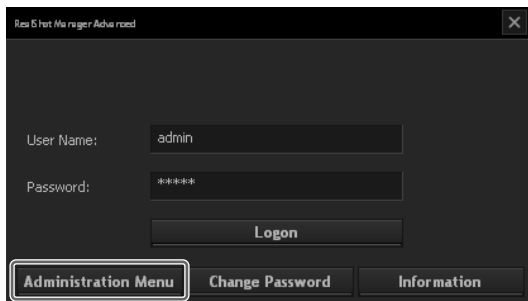
概要

「管理メニュー」では、RealShot Manager Advanced に関する設定や操作が行えます。
本章では、「管理メニュー」の以下の設定や操作について説明します。


- 「管理メニュー」を表示する (22 ページ)
- 「セットアップメニュー」で初期設定を変更する (23 ページ)
- サーバーに関する設定をする (26 ページ)
- 構成データを保存/復元する (28 ページ)
- システム情報をエクスポートする (30 ページ)

「管理メニュー」を表示する

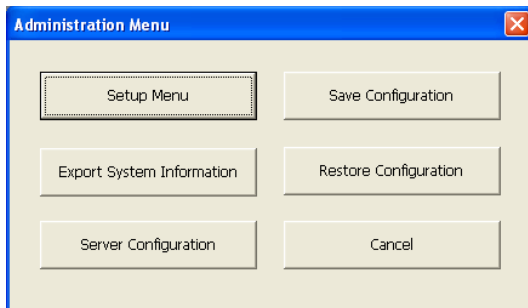
- 1 ログオン画面で、ユーザー名とパスワードを入力し、「管理メニュー」をクリックする。



メモ

すでに RealShot Manager Advanced にログオンしているときは、メイン画面右上の  をクリックし、表示されるダイアログでログオフすると、ログオン画面が表示されます。

「管理メニュー」画面が表示されます。



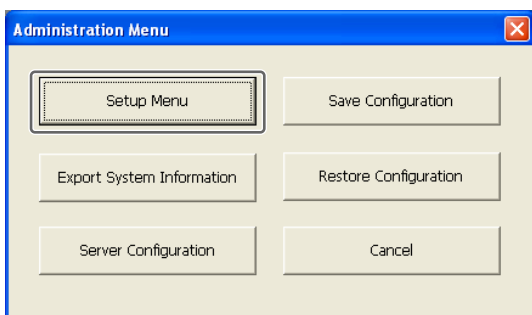
「セットアップメニュー」で初期設定を変更する

「セットアップメニュー」では、以下の設定を変更できます。

- 画面の表示言語
- モニターを2台接続して使用する
- サーバー名
- 自動ログオン機能の有効/無効
- カメラ自動登録機能の有効/無効
- ネットワークドライブの設定

「セットアップメニュー」を表示する

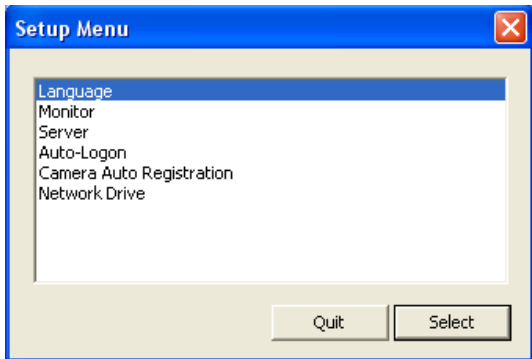
- 1 「管理メニュー」で、[セットアップメニュー] をクリックする。



「管理メニュー」の項目は、サーバー、クライアントによって異なります。

「セットアップメニュー」画面が表示されます。

- 2 設定したい項目を選択し、[選択] をクリックする。



項目に応じた画面が表示されます。

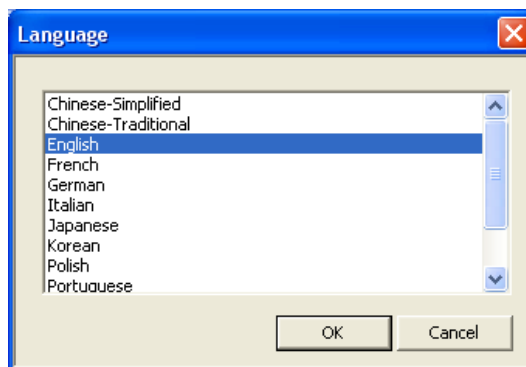
メモ

RealShot Manager Advanced (Client) では、[Server]、[Camera Auto Registration]、[Network Drive] は表示されません。

設定項目の詳細

「Language」画面の設定項目

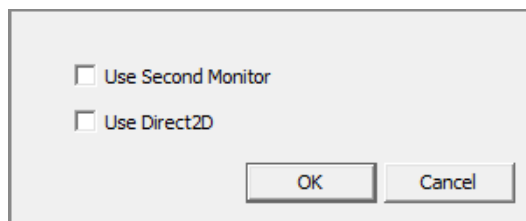
画面に表示する言語を選択し、[OK] をクリックします。



「Monitor」画面の設定項目

Windows OS 上でセカンドディスプレイを有効に設定している場合に、セカンドディスプレイ上にモニターフレームのホットスポットモニターを表示することが可能となります。

モニターを2台接続して使用するとき [セカンドモニターを使用する] にチェックマークを付けます。



60FPS など高フレームレートの描画がスムーズに行われないう場合、Direct2D 機能を使用することによって、描画性能の改善を図ることができます。Direct2D 機能を有効にするときに [Direct2D を使用する] にチェックマークを付け、[OK] をクリックします。

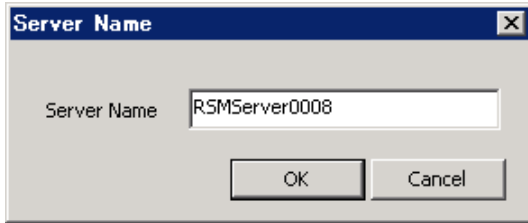
ご注意

- Direct2D 機能のない環境で実行している場合は、このチェックボックスは表示されません。
- ご使用の環境によっては、このオプションを有効にしても効果が出なかったり、パフォーマンスに影響を与えたりする可能性があります。運用を開始する前に、必ずテストを行ってください。

「Server Name」画面の設定項目

(RealShot Manager Advanced (Client) では表示されません。)

RealShot Manager Advanced (Server) のサーバー名を入力し、[OK] をクリックします。クライアントからサーバーへ接続した場合、リモートサーバー名として、この設定名が表示されます。

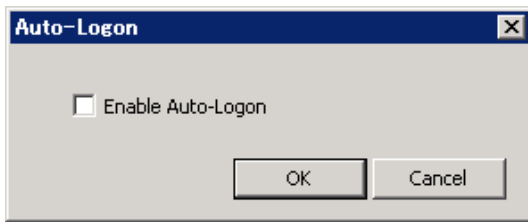


メモ

サーバー名を設定しない場合は、初期値として、RealShot Manager Advanced がインストールされているコンピューターの MAC アドレスの下 4 桁が末尾に付与された「R5MServerDB12」などの名称が設定されています。

「Auto Logon」画面の設定項目

自動ログオン機能を有効にするときに [自動ログオン有効] にチェックマークを付け、[OK] をクリックします。

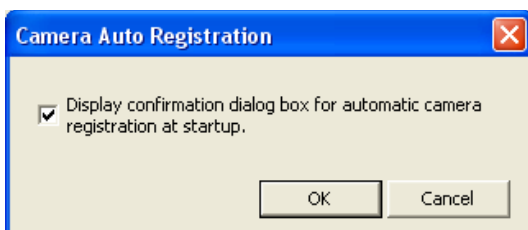


「Camera Auto Registration」画面の設定項目

(RealShot Manager Advanced (Client) では表示されません。)

カメラ自動登録機能を有効にするときに [起動時にカメラを自動登録するか確認する] にチェックマークを付け、[OK] をクリックします。

ここにチェックマークを付けると、RealShot Manager Advanced の起動時に「カメラ自動登録」画面が表示されます。



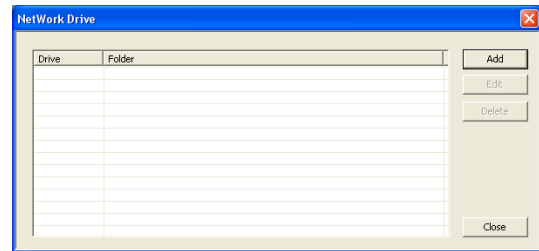
「Network Drive」画面の設定項目

(RealShot Manager Advanced (Client) では表示されません。)

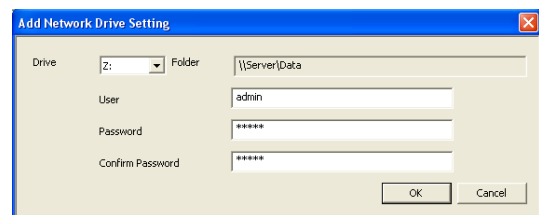
記録データの保存先としてネットワークドライブを使用するときは、次のようにネットワークドライブの設定を行います。ネットワークドライブの設定を行うと、[サーバー設定] の [ストレージ] タブで、ネットワークドライブにストレージを設定できるようになります。

この設定作業を行うには、あらかじめ Windows で「ネットワークドライブの割り当て」を行っておく必要があります。また、「ストレージ設定」や RealShot Manager Advanced (Server) 上で記録のエクスポートを行うときは、Windows で [ログオン時に再接続する] オプションをチェックマークを付け、該当するネットワークドライブが割り当てられている必要があります。

- ① [追加] をクリックする。



- ② 各項目を設定し、[OK] をクリックする。



Drive

ネットワークドライブを割り当てるドライブ文字を選択します。

ネットワークドライブのうち、まだ「Network Drive」画面に登録されていないドライブを選択することができます。

このドライブは、記録データへのアクセスに使われるため、後から別のフォルダーに割り当て直すことはできません。

Folder

ドライブに割り当てられている共有フォルダー名が表示されます。

ユーザー

フォルダーにアクセスするためのユーザー名を入力します。

そのフォルダーに対して、サブフォルダーを作ったり、記録を読み書きしたりするのに十分なアクセス権を持つユーザー名を設定してください。

個人のアカウントではなく、永続的に使用できる専用のアカウントを設定することをおすすめします。

パスワード

フォルダーにアクセスするためのパスワードを入力します。

パスワード確認

同じパスワードをもう一度入力します。

メモ

ネットワークドライブのアクセスのためのパスワードが変更されたときは、「Network Drive」画面の「編集」をクリックし、パスワードを変更してください。

ネットワークドライブの使用に際して

- ローカルドライブと比較して、ネットワークドライブは、記録や再生の安定性が使用するネットワーク環境に影響を受けます。実際の運用に入る前に、ネットワークの帯域や安定性などについて十分に確認のうえ、導入してください。
- システムアラートの設定で、ディスク容量を通知する設定にしておくことをおすすめします。これにより、ネットワーク異常などでストレージへの接続ができなくなったときに、通知を受け取ることができるようになります。システムアラートについては、「システムアラートの設定をする」(111 ページ)をご覧ください。
- ネットワークドライブの設定は、再起動を行った後に反映されます。

ご注意

RealShot Manager Advanced を Windows XP または Windows Server 2003 でお使いの場合は、RealShot Manager Advanced のサービスアカウントを変更する必要があります。以下の設定を行ってください。

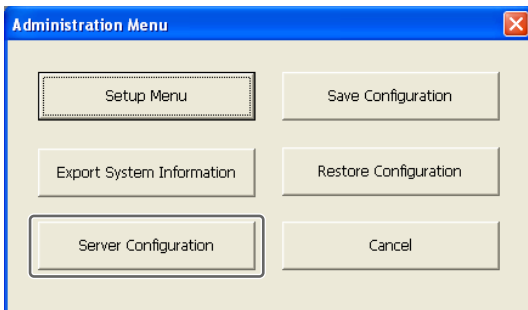
- ① 管理者権限のあるアカウントを作成する。
- ② 「コントロールパネル」の「管理ツール」から「サービス」を開く。
- ③ 「RSM Record Server」をクリックして開き、[ログイン] タブで管理者権限のあるアカウントを設定する。
- ④ コンピューターを再起動する。

サーバーに関する設定をする

(RealShot Manager Advanced (Client) では表示されません。)

ユーザーのネットワーク環境に合わせてネットワークの設定を変更したい場合や、複数のサーバーを共に使用し、ユーザー管理を一元化したい場合などに設定します。

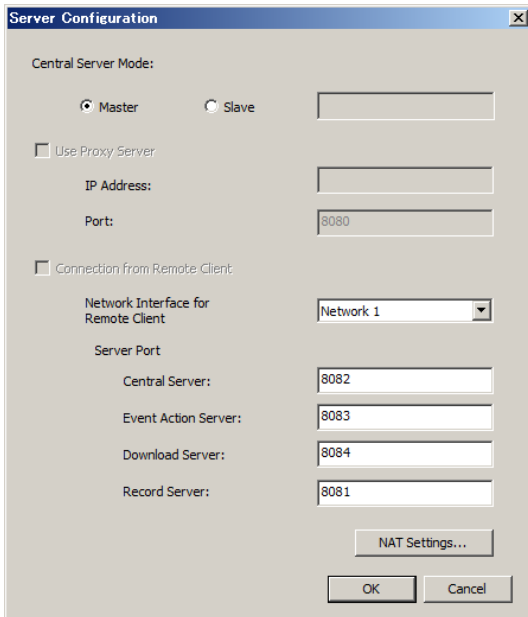
- 1 [管理メニュー] 画面で、[サーバー設定] をクリックする。



[管理メニュー] メニューの項目は、サーバー、クライアントによって異なります。

[サーバー設定] 画面が表示されます。

- 2 各項目を設定し、[OK] をクリックする。



セントラルサーバーモード

(RealShot Manager Lite では表示されません。)

複数台のサーバーを1つのシステムとして管理したい場合¹⁾ に設定します。

複数のサーバーでシステムを構成する場合、ユーザーなどを一元管理するマスターサーバーは1台だけ、残りのサーバーはすべてスレーブサーバーとして設定する必要があります。

- 1) 複数のサーバーで共通のユーザー管理を行いたい場合や、RealShot Manager Advanced (Client) から接続したい場合

[マスター] または [スレーブ] を選択します。

[スレーブ] を選択したときは、接続するマスターサーバーのアドレスを入力してください。

マスターからスレーブに変更すると、そのサーバーで設定していたユーザー情報は破棄され、マスターのユーザー情報が利用されます。

この設定を変更する場合は、基本的にインストール直後に行ってください。

変更を行うと、コンピューターが再起動します。

プロキシサーバー設定

セントラルサーバーのスレーブサーバーとマスターサーバーとの接続にプロキシサーバーを使用するときにチェックマークを付けます。

IPアドレス

プロキシサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。

ポート

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

リモートクライアントからの接続

リモートクライアントとのネットワークインターフェイス

リモートクライアントとの接続に使用するネットワークを選択します。

サーバーポート

セントラルサーバー

セントラルサーバーのポート番号を設定します。

イベントアクションサーバー

イベントアクションサーバーのポート番号を設定します。

ダウンロードサーバー

ダウンロードサーバーのポート番号を設定します。

記録サーバー

記録サーバーのポート番号を設定します。

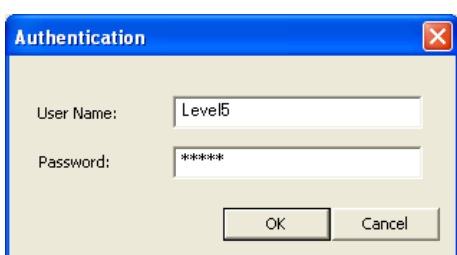
NAT 設定

「NAT 設定」ダイアログ (27 ページ) が表示されます。

ブロードバンドルーターを介して、インターネット経由などの外部のネットワークに接続したクライアントからサーバーに接続する場合に設定します。

セントラルサーバーモードで [スレープ] を選択した場合は、以下のダイアログが表示されます。

- 3 マスターサーバーに接続するため、ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。



ご注意

- [スレープ] に変更する際は、マスターサーバーに「admin」以外のユーザーを登録しておき、そのユーザー名とパスワードを入力して、[スレープ] に変更してください。ユーザーのレベルは「Level5」である必要があります。
- セントラルサーバーモードやサーバーポートを変更した場合は、メッセージが表示され、システムが再起動します。
- リモートクライアントとのネットワークインターフェースを変更したときは、再起動が必要です。サーバーモードを変更する場合には、事前にネットワークインターフェースの設定を変更し、再起動を行ってください。

「NAT 設定」ダイアログの設定項目

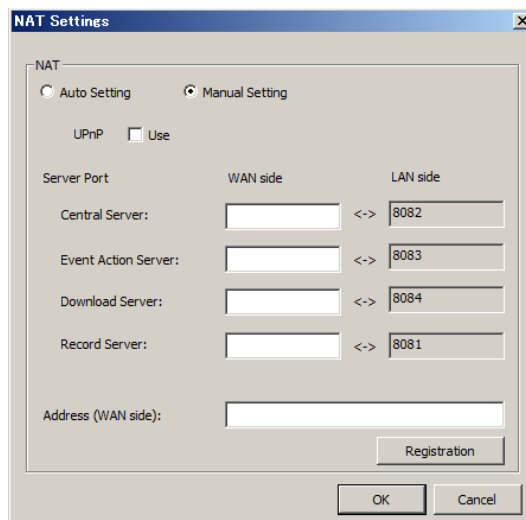
ブロードバンドルーターのポートフォワードに関する設定を行います。

ルーターが UPnP 機能を持っている場合は、UPnP 機能を使用してルーターに設定できます。

- [自動設定] を選択した場合は、UPnP を使用して、すべて項目が自動設定されます。ポート番号を指定したい場合は、[手動設定] を選択してください。
- [自動設定]、[手動設定]にかかわらず、UPnP を使用すると、ルーターでの設定作業が不要となります。

- [手動設定] で UPnP を使用しない場合は、ルーター側で設定作業を行い、その内容を本ダイアログの各項目に入力してください。

本ダイアログは、「サーバー設定」画面 (26 ページ) で [NAT 設定] をクリックすると表示されます。各項目を設定したら、[OK] をクリックします。



自動設定

ルーターに対して自動で設定を行います。

UPnP

[自動設定] を選択した場合は、[使用する] に自動的にチェックマークが付きます。

手動設定

ポート番号やグローバル IP アドレスを指定します。ここを選択したときは、[サーバーポート] や [アドレス (WAN 側)] の各項目を入力してください。

UPnP

UPnP 機能を使用する場合は、[使用する] にチェックマークを付けます。

サーバーポート

セントラルサーバー、イベントアクションサーバー、ダウンロードサーバー、記録サーバーの WAN 側のポート番号を入力します。

LAN 側のポート番号は表示のみで、設定できません。

アドレス (WAN 側)

グローバル IP アドレスを入力します。

登録

設定を登録します。

メモ

クライアントから接続する場合は、クライアントのログオンサーバーとして、上記の [アドレス] と [サーバーポート] の [セントラルサーバー] に表示されているポート番号を使用します。

ご注意

- インターネット側 (WAN 側) からのセキュリティを保つ場合、ルーターなどのファイアウォール機能によって、設定したポートのセキュリティが保たれていることを確認してください。¹⁾
- ルーターなどによってセキュリティが保たれていない場合は、WAN 側のポートから RealShot Manager Advanced (Server) にアクセスされるおそれがあります。セキュリティを向上させるため、定期的にパスワードを変更するなどして、他者からのログオンから守るための設定を行ってください。²⁾ パスワードの変更については、「パスワードを変更する」(20 ページ) をご覧ください。
- RealShot Manager Advanced (Server) にログオンされた場合、以下のようなおそれがあります。³⁾
 - RealShot Manager Advanced (Server) の設定を変更される。
 - カメラからの画像や記録画像が閲覧されたり、操作されたりしてしまう。
- お使いのルーターや環境によっては、外部ネットワークから接続できない場合があります。

- ルーターのセキュリティ設定については、ルーターの取扱説明書を参照するか、各ルーターメーカーにお問い合わせください。
- パスワードの変更は、必ずしも他者からログオンされないことを保証するものではありません。
- ソニー株式会社は、このような不利益がお客様に発生した場合、一切の責任を負いかねます。自己の責任において設定を行ってください。

構成データを保存／復元する

RealShot Manager Advanced の構成データを外部メディアに保存したり、保存されている構成データを復元したりすることができます。

メモ

構成データには、RealShot Manager Advanced の各種設定が含まれます。コンピューターが故障してしまって再インストールしたときなどに、構成データを復元することによって、簡単に設定を行うことができます。設定を変更した場合や、バージョンアップをした後など、定期的に構成データを保存しておくことをおすすめします。

構成データを保存する

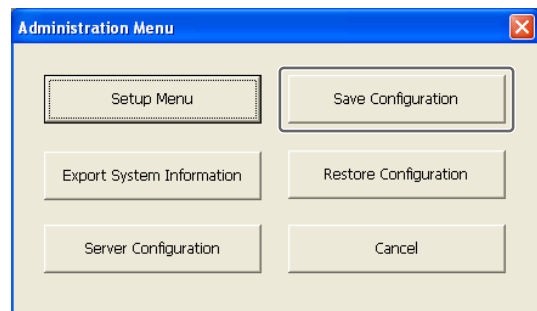
保存される構成データは、基本的にログオン画面の「管理メニュー」の「サーバー設定」画面で設定した内容と、ログオン後の設定画面で設定した内容になります。

ご注意

以下の情報は保存されませんので、注意してください。

- 記録レコード
- ログ情報

- 「管理メニュー」画面で、「構成データの保存」をクリックする。

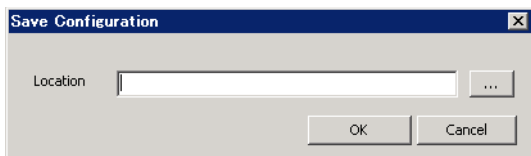


「管理メニュー」メニューの項目は、サーバー、クライアントによって異なります。

「構成データの保存」画面が表示されます。

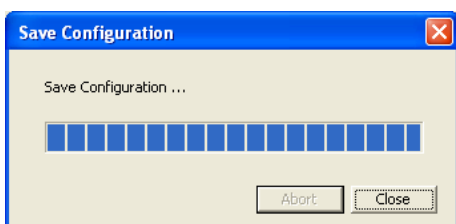
- 2 構成データを保存する場所を指定し、[OK] をクリックする。

フォルダ名は、半角英数字、一部の記号 (. (ピリオド)、- (ハイフン)、_ (アンダーバー)) で入力します。



構成データのバックアップ中はプログレスバーが表示され、終了すると構成データが保存されます。

- 3 [閉じる] をクリックする。



メモ

構成データの保存が終了すると、保存先に以下のファイルが作成されます。

```
version.item
gui.dump
rec.dump
cs.dump
eac.dump
eas.dump
rsmsystem.conf
syslog.conf
```

構成データを復元する

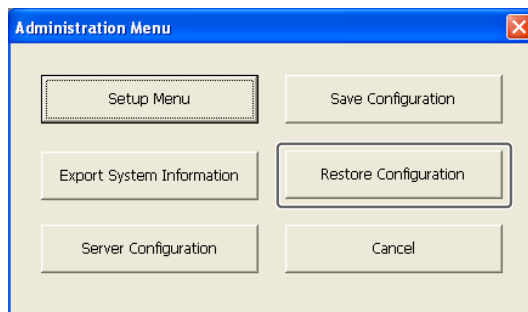
で注意

- 以下の情報は復元されませんので、注意してください。
 - 記録レコード
 - ログ
- 現在のソフトウェアバージョンの上位2桁 (例:「.」で区切られた"a.b.c"の".b"の部分) が構成データの保存時と異なっている場合は、復元できません。また、構成保存時よりも古いバージョンに復元した場合の動作は保証していません。

保存時	復元時	復元の可否
バージョン 1.1.0	バージョン 1.1.1 または 1.1.2	OK
バージョン 1.1.0	バージョン 1.2.0	NG
バージョン 1.1.0	バージョン 2.0.0	NG

- 構成データを復元した際には、それまで動作していた記録動作が自動的に停止します。記録スケジュールを設定していた場合は、復元後、自動的に記録が再開します。マニュアル記録を行っていた場合は、再度マニュアル記録を開始する必要があります。

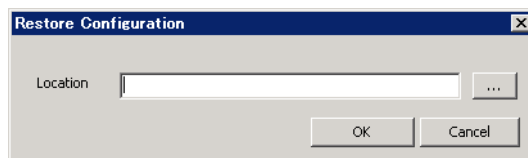
- 1 [構成データの復元] をクリックする。



「管理メニュー」メニューの項目は、サーバー、クライアントによって異なります。

「構成データの復元」画面が表示されます。

- 2 構成データが保存されている場所を選択して、[OK] をクリックする。



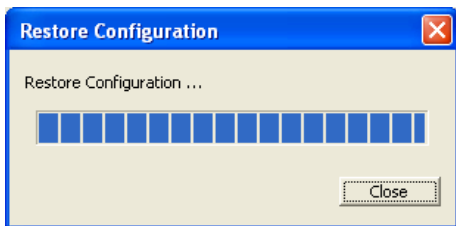
確認メッセージが表示されます。

- 3 [OK] をクリックする。



構成データの復元中はプログレスバーが表示されます。

- 4 [閉じる] をクリックする。



構成データが復元され、アプリケーションが再起動されます。

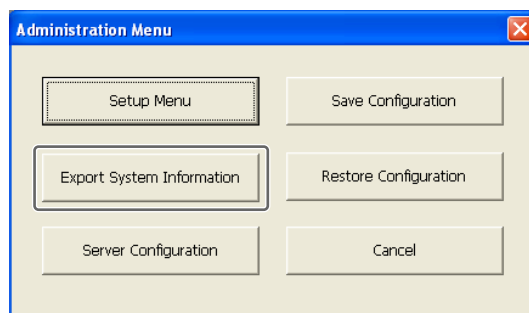
システム情報をエクスポートする

RealShot Manager Advanced のシステム情報をファイルとして外部メディアに保存できます。

メモ

システム情報には、RealShot Manager Advanced のシステム構成情報やログが含まれます。

- 1 「管理メニュー」画面で、[システム情報エクスポート] をクリックする。

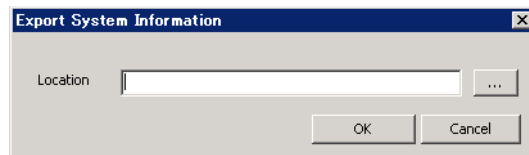


[管理メニュー] メニューの項目は、サーバー、クライアントによって異なります。

[システム情報エクスポート] 画面が表示されます。

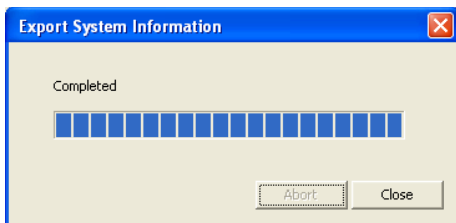
- 2 システム情報を保存する場所を指定し、[OK] をクリックする。

フォルダ名は、半角英数字、一部の記号 (. (ピリオド)、- (ハイフン)、_ (アンダーバー)) で入力します。



システム情報のエクスポート中はプログレスバーが表示され、終了するとシステム情報が保存されます。

3 [閉じる] をクリックする。



アラームとイベントについて

RealShot Manager Advanced では、センサー入力や VMD、マニュアルアクションなどのトリガーをアラームまたはイベントとして設定することで、記録やアクションを行うことができます。アラームとイベントの機能は同等ですが、重要度の高いトリガーをアラームに設定することによって、以下の運用が可能となります。

- 記録の検索の際に、イベント記録と区別して検索できます。
- メイン画面のアラーム履歴のリストにログが表示され、メイン画面の ALARM ランプが点灯します。
- アラームのトリガーとなっているカメラのモニターフレームに赤い枠が表示されます。
- アラームのトリガーとなっているカメラの映像がホットスポットに表示されます。
- イベント／アラームログで、イベントと区別して確認できます。

以下の表のように、トリガーとなるソースに対して記録やアクションを設定できます。また、設定される記録・アクションにより、トリガーはアラームとして扱われます。

イベント/ アラームの トリガーと なるソース	イベント／アラームに応じた記録、アクション			
	記録の設定		アクションの設定	
	イベント 記録	アラーム 記録	カメラア クション I/O	クライアント アクション
センサー入力	○ (イベント)	○ (アラーム)	○ (アラーム)	○ (イベント)
VMD • VMD (カメラ) • VMD (レコーダー) • VMF	○ (イベント)	○ (アラーム)	○ (アラーム)	○ (イベント)
システム アラート	-	-	○ (アラーム)	○ (イベント)
マニュアル アクション	-	-	○ ¹⁾	○ ¹⁾
妨害検知	○ ²⁾	○ ²⁾	○ ²⁾	○ ²⁾
音声検知	○ ²⁾	○ ²⁾	○ ²⁾	○ ²⁾

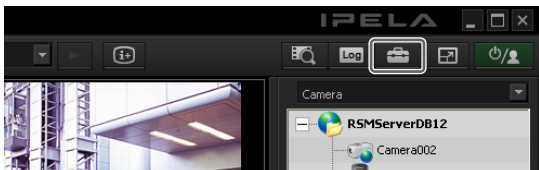
イベント/ アラームの トリガーと なるソース	イベント／アラームに応じた記録、アクション			
	記録の設定		アクションの設定	
	イベント 記録	アラーム 記録	カメラア クション I/O	クライアント アクション
人感センサー	○ ²⁾	○ ²⁾	○ ²⁾	○ ²⁾

- 1) アクションは行われますが、イベントにもアラームにもなりません。
- 2) 本機能を持つカメラのみ。

設定画面を表示する

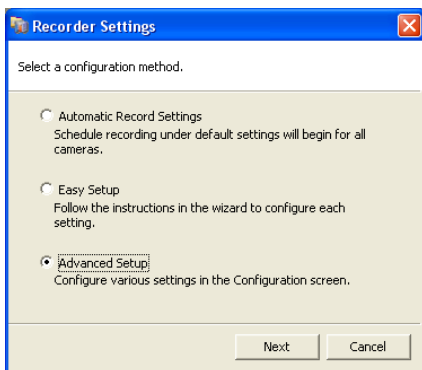
各種設定は設定画面で行います。

- 1 メイン画面右上にある  (設定) をクリックする。



「レコーダー設定」画面が表示されます。

- 2 [詳細設定] を選択し、[次へ] をクリックする。

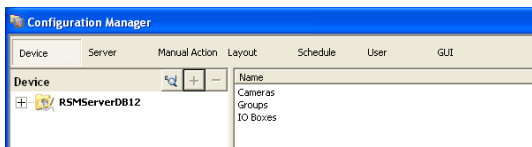


メモ

[自動記録設定] や [簡単設定] を選択すると、簡単な操作でカメラの登録や設定が行えます。自動記録設定と簡単設定については、『インストールガイド』(PDF)をご覧ください。

設定画面が表示されます。

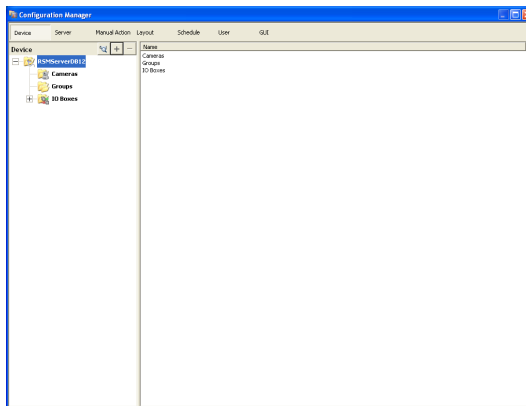
- 3 画面上部にある、設定したい項目のボタンをクリックする。



ボタンに応じた設定画面が表示されます。

例) [デバイス] をクリックしたとき

「デバイス設定」画面が表示されます。



RealShot Manager Advanced (Client) では、[設定] をクリックすると、「デバイス設定」画面が表示されます。「レコーダー設定」画面は表示されません。

メモ

マスター/スレーブが構築されている場合、ユーザー情報などの一部の情報はマスターサーバーで管理されます。

そのため、マスターサーバーが停止しているときは、一部の設定情報の更新ができません。

デバイスを登録する

RealShot Manager Advanced で管理するデバイスを登録したり、デバイスの動作を詳細に設定できます。

デバイスの登録のしかたには、以下の方法があります。

• 簡単設定で登録する

ネットワーク上のカメラを自動登録します。簡単設定については、『インストールガイド』をご覧ください。

• 自動検索されたカメラを選択して一括登録する (34 ページ)

RealShot Manager Advanced がインストールされているコンピュータと同一セグメントのネットワークに存在するデバイスを自動検出し、登録するカメラを選択して一括登録します。

• 手動でデバイスを登録する (35 ページ)

デバイスの IP アドレスを指定して、個別に登録します。

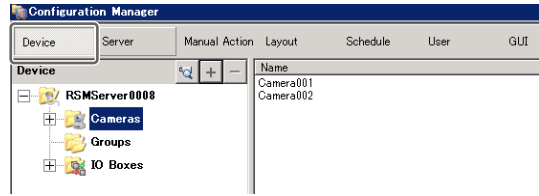
メモ

- 他社製の IP カメラ（ネットワークカメラ）や ONVIF（Open Network Video Interface Forum）準拠のカメラは、簡単設定での登録や自動検索での一括登録はできません。手動で登録してください。
- アナログカメラのパン、チルト、ズームコントロールをお使いになるには、コントロールプロトコルの設定が必要です。「アナログカメラのコントロールプロトコルを設定する」（57 ページ）をご覧ください。
- カメラの自動登録は、サーバー上でのみ可能です。クライアントからは実行できません。

自動検索されたカメラを選択して一括登録する

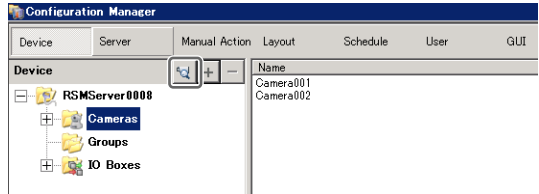
RealShot Manager Advanced と同一セグメントのネットワークに存在するデバイスを自動検出し、登録するカメラを選択して一括登録できます。また、登録時には、カメラの IP アドレスとポート番号を設定することもできます。カメラの管理者 ID とパスワードを入力することで、デバイスの登録が可能になります。

1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



「デバイス設定」画面が表示されます。

2 カメラツリーで「カメラ」を選択して、 (一括登録) をクリックする。



「カメラ登録」ダイアログが表示されます。

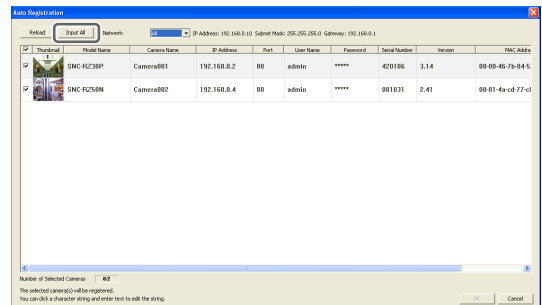
「カメラ登録」ダイアログには、自動検索の結果が一覧表示されます。

デバイスの管理者ユーザー名、パスワード、IP アドレスなどを設定するときは、手順 4 に進んでください。自動検索されたままの情報で登録するときは、手順 5 に進んでください。

3 各項目を設定する。

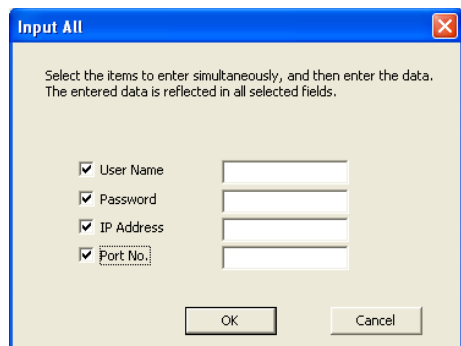
管理者ユーザー名とパスワードを入力します。個別に入力することもできますが、以下では、同一の設定値を複数のデバイスに一括して入力する方法を示します。

- ① 設定値を入力したいデバイスにチェックマークを付け、[一括入力] ボタンをクリックする。



「一括入力」ダイアログが表示されます。

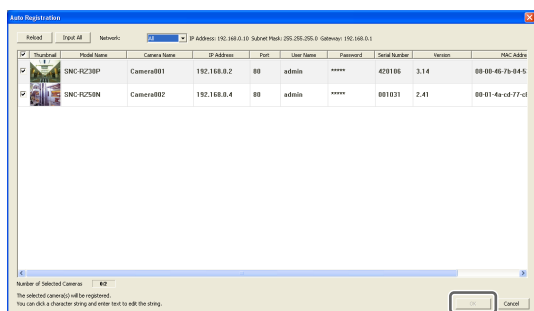
- ② 入力したい項目にチェックマークを付けて、必要事項を入力し、[OK] をクリックする。



各項目の詳細は、「[一括入力] ダイアログの設定項目」(42 ページ) をご覧ください。

ダイアログが閉じ、「カメラ一括登録」ダイアログに戻ります。

- 4 登録したいデバイスにチェックマークを付け、[登録] をクリックする。

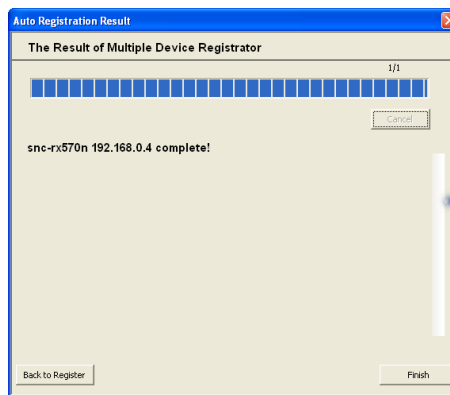


で注意

[再読み込み] をクリックすると、再度自動検索が行われます。管理者のユーザー名とパスワードを除き、それまでに入力した値が自動検索で取得した結果に置き換わりますので、注意してください。

登録が完了すると、以下の画面が表示されます。

- 5 [完了] をクリックする。

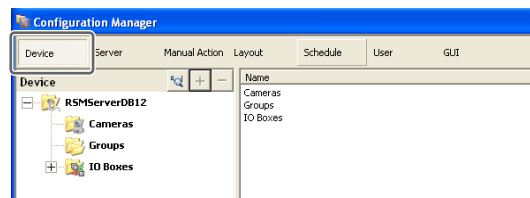


デバイスが RealShot Manager Advanced に登録されません。

手動でデバイスを登録する

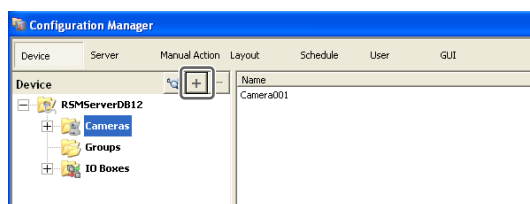
デバイスの IP アドレスを指定して、個別に登録します。

- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



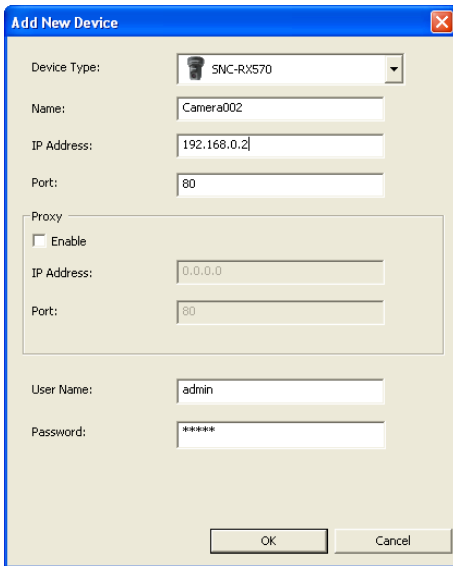
「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 + (追加) をクリックする。



「デバイスの追加」ダイアログが表示されます。

3 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

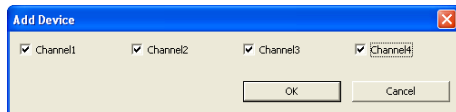


各項目の詳細は、「[デバイスの追加] ダイアログの設定項目」(43 ページ)をご覧ください。

カメラサーバー (SNT シリーズなど) を登録する場合

以下のダイアログが表示されます。

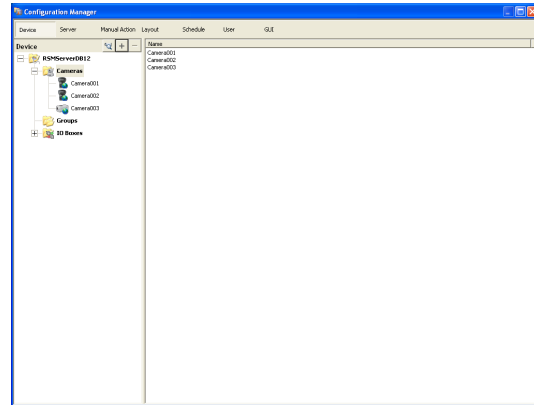
利用するチャンネルを選択し、[OK] をクリックしてください。



メモ

- 処理の際に登録台数の制限を超えているかどうかをチェックし、超えている場合はその旨を伝える警告メッセージを表示して処理を中止します。
- カメラの登録に失敗する場合は、Web ブラウザを起動して直接カメラに接続し、カメラからの画像が見えることを確認してください。また、カメラの IP アドレスは、Web ブラウザに入力した IP アドレスを使用してください。

RealShot Manager Advanced にデバイスが登録され、一覧に追加されます。



で注意

すでに登録されているデバイスと重複する IP アドレスおよびポート番号を指定した場合は、警告が表示され、登録できません。

登録内容を変更する

ここでは、「デバイス設定」画面の [一般] タブの設定内容を変更する手順を説明します。

[一般] タブの項目は、複数のカメラを同時に設定することもできます。

メモ

1つのカメラの設定を行う場合と複数のカメラを設定を同時に行う場合とでは、一部の設定項目が異なります。

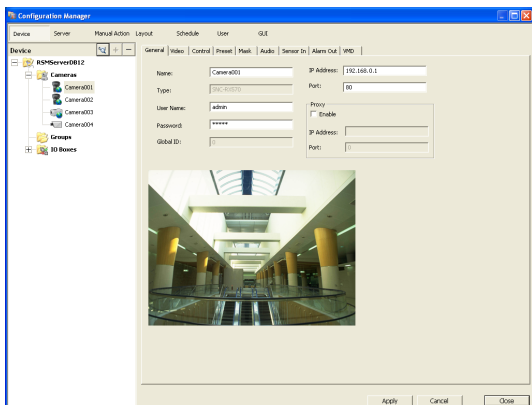
- カメラごとに設定状態が異なる設定項目は、空欄になります。そのまま保存した場合は、各カメラの該当設定項目は変更されません。リストを選択しなおすか、数値を入力しなおすことにより、複数のカメラすべてに新しい設定値が設定されます。
- 複数のカメラに対して共通の値が設定できない場合は、その設定項目は設定不可状態となります。選択するカメラの組み合わせを変更して設定を行ってください。

1 「デバイス設定」画面で、登録内容を変更したいカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

カメラの登録内容が表示されます。

- 2 [一般] タブをクリックし、変更したい項目を設定しなおす。




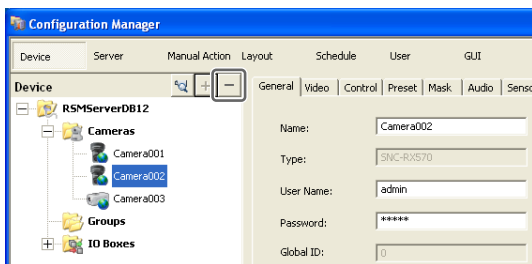
各項目の詳細は、「[一般] タブの設定項目」(40 ページ) をご覧ください。
SNC-CS20/CM120/DS10/DM110/DS60/DM160 の場合は、「SNC-CS20/CM120/DS10/DM110/DS60/DM160 を使用する場合に必要の設定」(37 ページ) をご覧ください。

- 3 各項目を設定したら、[適用] をクリックする。

設定が変更されます。

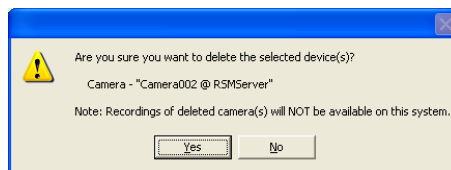
デバイスを削除する

- 1 「デバイス設定」画面で、削除したいカメラを選択し、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のデバイスを選択することもできます。
- 2  (削除) をクリックする。



確認メッセージが表示されます。

- 3 [はい] をクリックする。



デバイスが削除されます。

で注意

- カメラを削除した場合、レイアウトではモニターフレームが「No Camera」になります。デフォルトレイアウトの場合は、カメラを登録した際、空いている（「No Camera」状態の）モニターフレームから順番にカメラが割り当てられます。
- カメラを削除すると、そのカメラの記録されたデータは検索できなくなります。このとき記録データは削除されません。記録データはストレージの記録削除またはデータ上書きの条件に合致した時点で、削除対象となります。詳細については、「ストレージに関する設定をする」(81 ページ) をご覧ください。

SNC-CS20/CM120/DS10/DM110/DS60/DM160¹⁾ を使用する場合に必要の設定

以下の6機種¹⁾のカメラでは、使用する機能の設定値によって他の機能が制限されます。各種設定を行う前に、優先して使用したい機能の選択を行う必要があります。

- SNC-CS20
- SNC-DS10
- SNC-DS60
- SNC-CM120
- SNC-DM110
- SNC-DM160

SNC-CS20/CM120/DS10/DM110/DS60/DM160¹⁾ を使用する時の流れ

上記のカメラを使用する際は、まず使用する機能の組み合わせを選択し、その後各種設定を行います。機能の組み合わせを選択した時点で、自動的に各項目で設定できる値の範囲が決まります。そのため、運用に合わせた機能の組み合わせを選択することが重要になります。

1 使用する機能の組み合わせを選択する



2 各設定画面で、必要な設定を行う



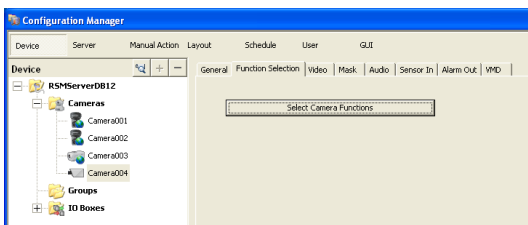
3 運用を開始する

- 1) 今後発売されるカメラにおいても、設定の制限がカメラに存在する場合があります。[機能選択] タブが表示されるカメラについては、上記のカメラと同様に機能の組み合わせの設定を行ってください。

ご注意

- 機能の組み合わせによっては、設定可能な値の範囲や項目が変わります。必ず運用に合わせた設定を行ってください。
 - 例 1) あるコーデックを使用すると動体検知ができない場合、そのコーデックを使用する組み合わせを選択すると、動体検知の設定ができなくなります。
 - 例 2) 設定可能な値の範囲が 1 ~ 50 の機能を使用する組み合わせを選択した場合、カメラで設定可能な値の範囲が 1 ~ 100 であっても、各設定画面で選択できる範囲は 1 ~ 50 になります。
- 必ず使用する機能の組み合わせを選択してから、各種設定を行ってください。設定を始めてから機能の組み合わせを選択したり変更すると、設定可能な値の範囲が変わり、先に設定した内容が別の値に変更されてしまう可能性があります。
 - 例) 設定可能な値の範囲が 1 ~ 100 で 70 に設定し、その後組み合わせを変更したところ、設定可能な値の範囲が 1 ~ 50 に変わってしまい、設定値が 25 に変更されてしまった。
- 設定を変更した後は、必ず運用前に全設定を確認してください。変更した値が設定可能範囲内であれば問題ありませんが、範囲外の場合は自動的に範囲内の値に変更されます。

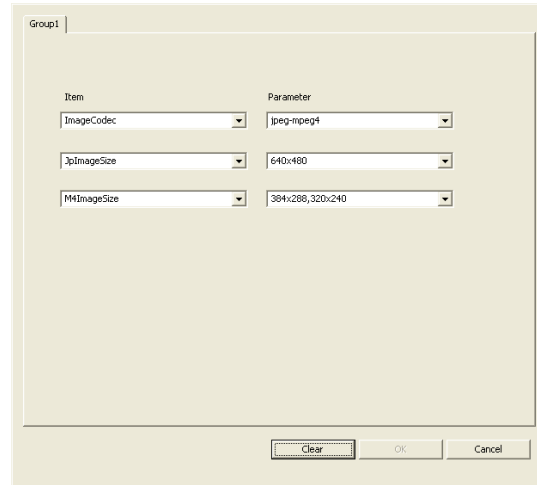
- 1 「デバイス設定」画面の [機能選択] タブで、[Camera 機能の選択] をクリックする。



カメラで使用する機能の組み合わせを選択するための画面が表示されます。

- 2 左上から順に 1 行ずつ機能の組み合わせを選択し、[OK] をクリックする。

[項目] で設定したい機能を選択し、[パラメータ] で設定値を選択します。



メモ

- 項目を選択した順番やパラメータによって、制御範囲が絞り込まれ、次の行で選択できる項目や値が変動します。
- 選択済みの行を変更すると、それより下の行が未選択の状態に戻ります。ここで選択した組み合わせによって、各設定画面で設定できる値の範囲が決まりますので注意してください。

- 3 [一般] のその他の項目を設定する。

必要に応じて、各画面でも設定を行います。

- 4 設定が終わったら、全設定をチェックし、適切な値が設定されているか確認する。

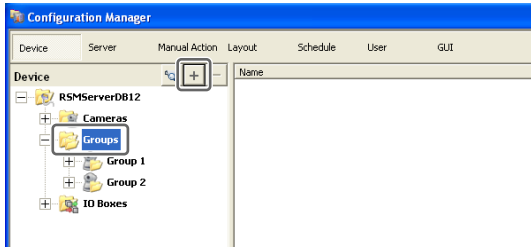
- 5 運用を開始する。

デバイスグループを登録する

デバイスを設置しているフロアや地域ごとにデバイスグループを設定し、効率よく管理できます。また、デバイスグループごとに、ユーザーやユーザーグループが操作できる権限を設定することもできます。

デバイスグループを登録する

「デバイス設定」画面の左側のツリーで「グループ」を選択し、**+**（追加）をクリックすると、グループが追加されます。



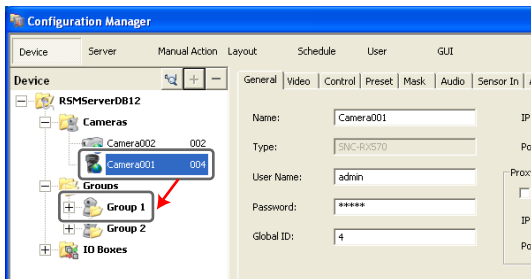
メモ

- グループの下にサブグループを作りたいときは、上位のグループを選択し、**+**（追加）をクリックします。
- グループの名前を変更するときは、ツリー上でグループ名を選択した状態でクリックすると、グループ名を入力しなおすことができます。

続いて、デバイスグループにデバイスを追加します。

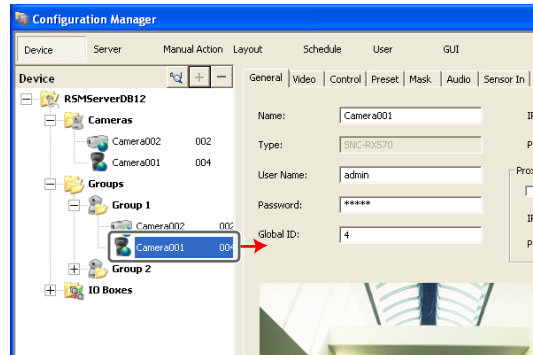
グループにデバイスを追加する

ツリー内で、グループに所属させたいデバイスをグループのアイコンにドラッグ&ドロップすると、グループにデバイスが追加されます。



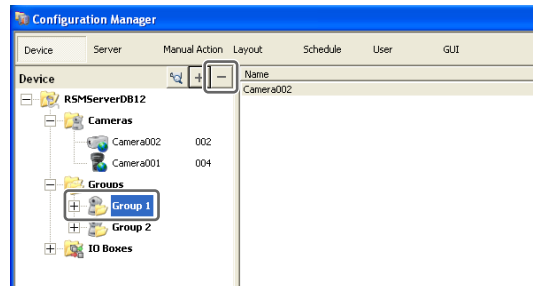
グループからデバイスをはずすには

グループからはずしたいデバイスのアイコンをツリーの外にドラッグします。



グループを削除するには

ツリーで、削除したいグループを選択し、**-**（削除）をクリックすると、グループが削除されます。

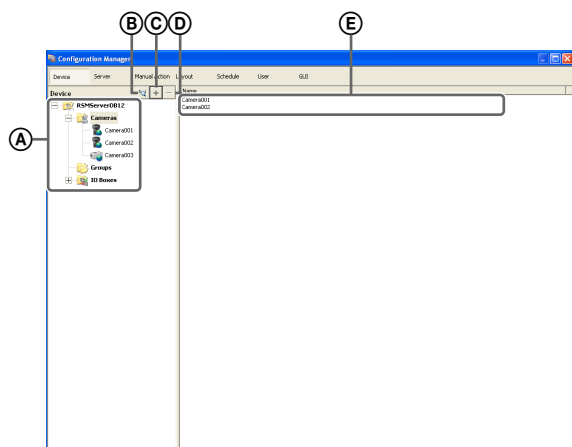


各画面の詳細

「デバイス設定」画面の設定項目

RealShot Manager Advanced に登録されているデバイスの一覧が表示されます。

本画面は、設定画面で [デバイス] をクリックすると表示されます。



① ツリー

RealShot Manager Advanced に登録されているデバイスがツリー形式で表示されます。

ツリーからデバイスを選ぶと、⑤ のエリアに選んだデバイスに応じた項目が表示されます。

② (カメラ自動登録)

ネットワークに接続されているカメラを自動検索して登録するための「カメラ自動登録」ダイアログ (34 ページ) を表示します。

③ + (追加)

デバイスを手動で登録するための「[デバイスの追加] ダイアログの設定項目」 (43 ページ) を表示します。

④ - (削除)

デバイスを削除します。

ツリーまたはデバイスリストから削除したいデバイスを選択し、このボタンをクリックすると、デバイスが削除されます。

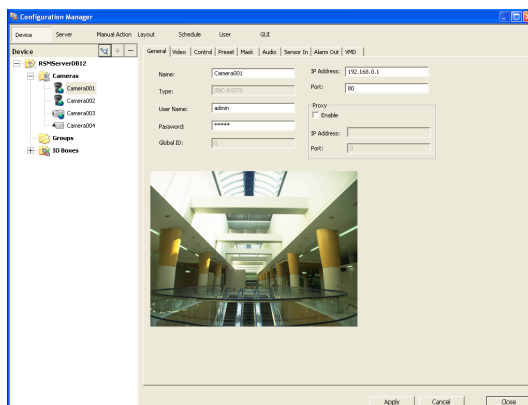
⑤ デバイスリスト

左側のツリーで選択したデバイスグループに所属しているデバイスが一覧表示されます。

【一般】 タブの設定項目

左側のツリーで選択したデバイスの設定内容を変更できます。

各項目を設定したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



名前

追加するデバイスに付ける名前を、¥ / : ; * ? " < > | [] 以外の ASCII 文字またはマルチバイト文字で、32 文字以内で入力します。

種別

デバイスの種類が表示されます。この項目は変更できません。

ユーザー

あらかじめデバイスに設定している認証用のユーザー名を入力します。

パスワード

あらかじめデバイスに設定している認証用のパスワードを入力します。

ご注意

RealShot Manager Advanced からは、デバイス側のユーザー名やパスワードの変更はできません。変更する場合は、Web ブラウザから直接デバイスにアクセスして行います。RealShot Manager Advanced に登録されているデバイスのユーザー名やパスワードを変更した場合は、RealShot Manager Advanced 側の設定も変更する必要があります。

グローバル ID

グローバル ID を半角数字で入力します。

NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズ、RealShot Manager Advanced では、接続されているカメラに個別に ID を割り振って管理しています。

複数台のサーバーを使用するシステムにおいても、各サーバーに接続されているすべてのカメラに対して、システムとして一意に ID が割り振られます。リモートクライアントの RealShot Manager Advanced から、各サーバーを意識せずに直接、グローバル ID でカメラを指定してモニタリングを行うことが可能です。

IP アドレス

カメラの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

で注意

ホスト名で指定する場合は、ホスト名が解決できるように DNS などの設定を行ってください。

ポート

カメラと接続するときのカメラ側のポート番号を入力します。デフォルトでは「80」が設定されています。

プロキシ

プロキシサーバーを経由してカメラにアクセスする場合に設定します。

有効

チェックマークを付け、以下の項目を設定します。

IP アドレス

プロキシサーバーの IP アドレスを入力します。

ポート

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

プレビュー

カメラからの画像が表示されます。

適用

設定を保存します。

キャンセル

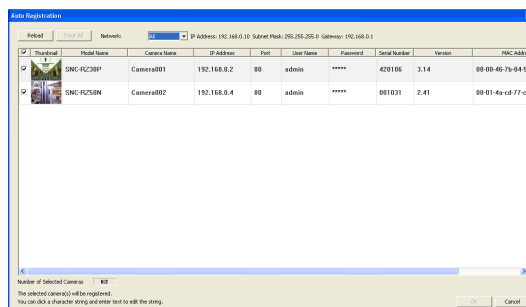
設定の変更をキャンセルします。

「カメラ一括登録」ダイアログの設定項目

自動検索の結果が一覧表示され、検索されたデバイスを一括して登録できます。

本ダイアログは、「カメラ自動登録」ダイアログ（34 ページ）で「カメラ一括登録画面を開く」を選択し、[OK] をクリックすると表示されます。

各項目を設定したら、「登録」をクリックします。



ネットワーク

ドロップダウンメニューで選択したネットワークに接続されているデバイスがリストに表示されます。

再読み込み

再度自動検索が行われます。

管理者のユーザー名とパスワードを除き、それまでに入力した値が自動検索で取得した結果に置き換わりますので、注意してください。

一括入力

「一括入力」ダイアログ（42 ページ）が表示されます。

表示

デバイスリストに表示されるデバイスを以下の条件で絞り込んで表示できます。

未設定カメラ

まだ RealShot Manager Advanced に登録されていないデバイスだけを表示します。

設定済みカメラ

すでに RealShot Manager Advanced に登録されているデバイスだけを表示します。

全カメラ

自動検索されたすべてのデバイスを表示します。

デバイスリスト

自動検索されたデバイスが一覧表示されます。

対象

RealShot Manager Advanced に登録するデバイスにチェックマークを付けます。

サムネール

カメラのサムネールが表示されます。
映像が表示されない場合もあります。

モデル名

デバイスの種類が表示されます。

カメラ名

デバイスの名前が表示されます。

IP アドレス

デバイスの IP アドレスが表示されます。

ポート

デバイスと接続するときのデバイス側のポート番号が表示されます。
デフォルトでは「80」が設定されています。

ユーザー名

デバイスに接続するためのユーザー名を入力します。

パスワード

デバイスに接続するためのパスワードを入力します。

シリアル番号

デバイスのシリアル番号が表示されます。

バージョン

カメラのファームウェアバージョンが表示されます。

Mac address

デバイスの MAC アドレスが表示されます。

ネットワーク

デバイスが接続されているネットワークが表示されます。

ご注意

RealShot Manager Advanced からは、デバイス側のユーザー名やパスワードの変更はできません。変更する場合は、Web ブラウザから直接デバイスにアクセスして行います。詳しくは、ご使用になるデバイスの取扱説明書をご覧ください。RealShot Manager Advanced に登録されているデバイスのユーザー名やパスワードを変更した場合は、RealShot Manager Advanced 側の設定も変更する必要があります。

登録

チェックマークが付いているデバイスを RealShot Manager Advanced に登録し、ダイアログを閉じます。

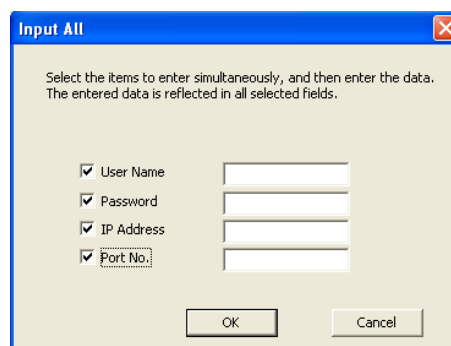
キャンセル

登録をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「一括入力」ダイアログの設定項目

自動検索されたデバイスを登録するときに、選択した複数のデバイスに対して、以下の項目を一括で同じ値に設定できます。

本ダイアログは、「カメラ一括登録」ダイアログ（41 ページ）で「一括入力」をクリックすると表示されます。設定したい項目にチェックマークを付け、設定内容を入力して、[OK] をクリックします。



ユーザー名

デバイスに接続するためのユーザー名を 32 文字以内の半角英数字で入力します。

パスワード

デバイスに接続するためのパスワードを 32 文字以内の ASCII 文字（大小英数字、記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~)）で入力します。

IP アドレス

デバイスの IP アドレスを入力します。
複数のデバイスを一括して登録する場合は、入力した IP アドレスを開始アドレスとして、順番に設定されます。

ポート

デバイスと接続するときのデバイス側のポート番号を入力します。
デフォルトでは「80」が設定されています。

OK

設定内容を「カメラ一括登録」ダイアログのデバイスリストに反映し、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

「デバイスの追加」ダイアログの設定項目

手でデバイスを登録するときに設定内容を入力します。本ダイアログは、「デバイス設定」画面（40 ページ）で

+（追加）をクリックすると表示されます。

各項目を設定したら、[OK] をクリックします。

ご注意

アナログカメラでは、名前以外の設定はできません。

デバイス種別

カメラのモデル名を選択します。

通常は「Auto Connect」を選択してください。

手で設定した場合に、モデル名を選択してください。

名前

追加するカメラに付ける名前を、¥ / . ; * ? " < > ! [] 以外の文字で、32 文字以内で入力します。

IP アドレス

カメラの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

ポート

カメラと接続するときのカメラ側のポート番号を入力します。デフォルトでは「80」が設定されています。

プロキシ

プロキシサーバーを経由してカメラにアクセスする場合に設定します。

有効

チェックマークを付け、以下の項目を設定します。

IP アドレス

プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

ポート

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

ユーザー

デバイスに接続するためのユーザー名を 32 文字以内の半角英数字で入力します。

パスワード

デバイスに接続するためのパスワードを 32 文字以内の ASCII 文字（大小英数字、記号 (! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [\] ^ _ ` { | } ~) で入力します。

OK

設定した内容でデバイスを登録し、ダイアログを閉じます。

キャンセル

登録をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

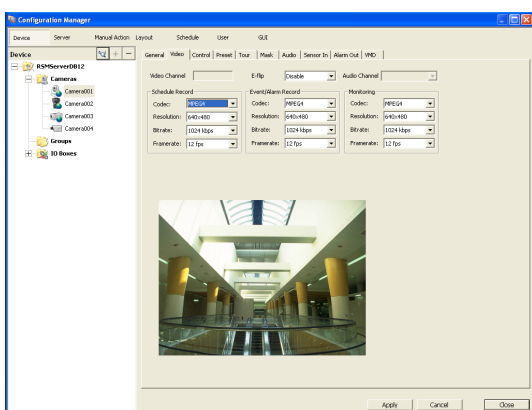
カメラの映像設定をする

カメラから取り込む画像に関する設定が行えます。カメラによって設定項目や選択できる値が異なります。また、設定によっては、制限される機能があります。詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。

1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックし、取り込む画像の設定をしたいカメラを選択する。

選択したカメラの登録内容が表示されます。

2 [映像] タブをクリックし、各項目を設定する。



各項目の詳細は、「[映像] タブの設定項目」(44 ページ)をご覧ください。

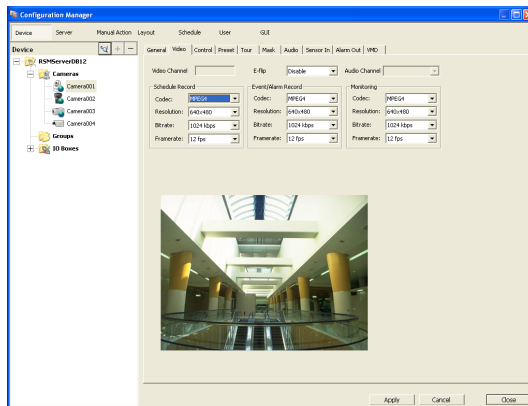
3 [適用] をクリックする。

設定が変更されます。

[映像] タブの設定項目

左側のツリーで選択したカメラから取り込む画像に関する設定を変更できます。

各項目を設定したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



メモ

- カメラによって設定項目や選択できる値が異なります。
- SNC-xx600 シリーズ (xx: アルファベット 2 文字) の場合は、「[映像] タブの設定項目 (SNC-xx600 シリーズ (xx: アルファベット 2 文字) の場合)」(46 ページ) をご覧ください。

ご注意

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合は、以下の制限があります。

- 設置状態 (天井設置、卓上設置、壁設置) は、事前にカメラ側の設定画面 (Web ブラウザ上) で設定しておいてください。後から変更することはできません。
- カメラから送られてくる画像は、常に全方位画像として扱われます。

映像チャンネル

複数のチャンネルを持つカメラサーバー (SNT シリーズなど) の場合に、利用する映像チャンネルを表示します。

E-Flip

カメラからの画像出力を上下反転させる E-Flip 機能を有効にするときに設定します。

E-Flip (レコーダー) は、RealShot Manager Advanced 自身が持つ映像反転機能です。E-Flip (カメラ) は、カメラによる映像反転機能です。

ご注意

E-Flip (カメラ) の設定変更によりカメラ映像を反転させた場合、表示領域が変わります。マスク設定、動体検知設定、プリセット位置の再設定を行ってください。

音声チャンネル

アナログカメラと紐付けるアナログカメラ音声チャンネルを選択します。1 つの設定を複数のアナログカメラに対して適用することも可能です。

スケジュール記録

スケジュール記録時の画像に関する設定を行います。

コーデック

カメラの画像コーデックを設定します。

画像サイズ

カメラの解像度を選択します。

画質（JPEG の場合）

カメラの画質を選択します。

ビットレート（MPEG4 または H.264 の場合）

カメラのビットレートを選択します。

フレームレート

カメラのフレームレートを選択します。

アラーム／イベント記録

アラーム記録時やイベント記録時の画像に関する設定を行います。

コーデック

カメラの画像コーデックを設定します。

画像サイズ

カメラの解像度を選択します。

画質（JPEG の場合）

カメラの画質を選択します。

ビットレート（MPEG4 または H.264 の場合）

カメラのビットレートを選択します。

フレームレート

カメラのフレームレートを選択します。

モニタリング

モニタリング時の画像に関する設定を行います。

コーデック

カメラの画像コーデックを設定します。

画像サイズ

カメラの解像度を選択します。

画質（JPEG の場合）

カメラの画質を選択します。

ビットレート（MPEG4 または H.264 の場合）

カメラのビットレートを選択します。

フレームレート

カメラのフレームレートを選択します。

ライトファンネル

ライトファンネル機能を持つカメラの場合に使用するモードを選択します。

メモ

ライトファンネル機能は、条件によっては利用できない場合があります。詳しくは、カメラの取扱説明書でご確認ください。

切換レベル

ナイトモードに切り替わるときの明るさを選択します。

保持時間

明るさの変化に反応する時間を選択します。

View-DR/Wide dynamic range

View-DR 機能を持つカメラの場合に、View-DR 機能のオン／オフを選択します。

View-DR 機能をオンにすると、速いシャッターの画像と通常の画像を組み合わせることにより、逆光下のようなコントラストの強い状況でも、白とびや黒つぶれの発生を軽減させた画像が得られます。

Visibility Enhancer

Visibility Enhancer 機能を持つカメラの場合に、輝度とコントラストを自動調整する度合いを [High]、[Middle]、[Low]、[Off] から選択します。

Visibility Enhancer 機能を使うと、画素ごとにコントラストが最適化され、光の強い部分の白とびや、光が弱く黒く沈んだ部分の明るさが補正されます。逆光状態など、明暗差の大きい環境下でも、鮮明な映像が得られます。

Visibility Enhancer 機能を使用しないときは、[Off] を選択してください。

XDNR

XDNR 機能を持つカメラの場合に、画像ノイズを低減するためのノイズリダクション・フィルターの強さを [High]、[Middle]、[Low]、[Off] から選択します。

XDNR 機能を使うと、映像内の動きのない領域と動きのある領域に発生したノイズに対して、それぞれ適したノイズリダクションが行われ、鮮明な画像が得られます。低照度の環境などで効果を発揮します。

XDNR 機能を使用しないときは、[Off] を選択してください。

IR 照射

IR 照射機能を持つカメラの場合に、赤外線照射器の動作を設定します。

動作モード

[デイ/ナイト連動] または [オフ] を選択します。
[デイ/ナイト連動] を選択すると、デイ/ナイトの切り替わりに連動して赤外線照射器が動作します。
赤外線照射器を動作させないときは、[オフ] を選択してください。

最大強度

赤外線の最大強度を選択します。
最大強度は6段階あり、1が最も弱く、6で最も強くなります。

Edge Storage

Edge Storage 機能を持つカメラの場合に、カメラの Edge Storage 保存されている画像をダウンロードする機能を使用するときにチェックマークを付けます。
この機能を使用すると、記録スケジュールの期間中に VIDEO LOSS が生じた場合、またはサーバーを再起動した場合に、カメラの Edge Storage に画像を記録し、復帰後に記録データを Edge Storage から取得できます。
また、この機能を設定すると、カメラに対して自動的に以下の設定が行われます。

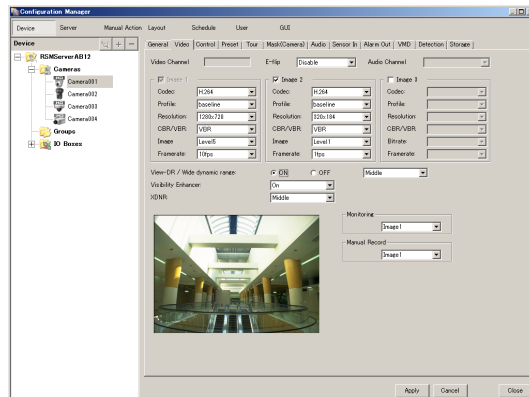
設定	内容
Edge Storage	オン
上書き設定	オフ
映像記録	映像 1 または映像 2
音声記録	オフ
記録時間	映像 1 の場合：アラーム/イベント開始前 1 秒、アラーム/イベント終了後 10 秒 映像 2 の場合：アラーム/イベント開始前 0 秒、アラーム/イベント終了後 10 秒
記録モード	アラーム記録、条件：1、1：ネットワーク切断、監視 IP：サーバーの IP アドレス
有効時間帯	常時

ご注意

- 本機能を使用するには、記録スケジュールの設定が必要です。
- 映像設定は、カメラのリリースノートの推奨値を参照してください。

[映像] タブの設定項目 (SNC-xx600 シリーズ (xx: アルファベット 2 文字) の場合)

[映像 1] ~ [映像 3] の各項目を設定し、モニタリングとマニュアル記録で、それぞれどのビデオコーデックを使用するかを指定します。
各項目を設定したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



メモ

- カメラによって設定項目や選択できる値が異なります。また、設定によっては、制限される機能があります。詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。
- サポートカメラ情報は、リリースノートをご確認ください。

映像チャンネル

複数のチャンネルを持つカメラサーバー (SNT シリーズなど) の場合に、利用する映像チャンネルを表示します。

E-Flip

カメラからの画像出力を上下反転させる E-Flip 機能を有効にするときに設定します。

E-Flip (レコーダー) は、RealShot Manager Advanced 自身が持つ映像反転機能です。E-Flip (カメラ) は、カメラによる映像反転機能です。

ご注意

E-Flip (カメラ) の設定変更によりカメラ映像を反転させた場合、表示領域が変わります。マスク設定、動体検知設定、プリセット位置の再設定を行ってください。

音声チャンネル

アナログカメラと紐付けるアナログカメラ音声チャンネルを選択します。

1つの設定を複数のアナログカメラに対して適用することも可能です。

映像 1 ～映像 3

[映像 1] ～ [映像 3] の画像に関する設定をそれぞれ行います。

メモ

[映像 2]、[映像 3] を設定できないカメラがあります。詳しくは、カメラの取扱説明書をご確認ください。

コーデック

カメラの画像コーデックを設定します。JPEG または H.264 から選択します。

プロファイル

選択したコーデックが H.264 の場合、プロファイルとして baseline/main/high を選択します。

画像サイズ

カメラの解像度を選択します。

CBR/VBR

ビットレートの種類を CBR（固定ビットレート）または VBR（可変ビットレート）から選択します。

ビットレート

カメラのビットレートを選択します。

この項目は、[コーデック] を [H.264] に設定し、かつ [CBR/VBR] で [CBR] に設定した場合に選択できます。

画質設定

カメラの画質を選択します。

この項目は、[コーデック] を [H.264] に設定し、かつ [CBR/VBR] で [VBR] に設定した場合、または [コーデック] を [JPEG] に設定した場合に選択できます。

フレームレート

カメラのフレームレートを選択します。

View-DR/Wide dynamic range

View-DR 機能を持つカメラの場合に、View-DR 機能のオン/オフを選択します。

View-DR 機能をオンにすると、速いシャッターの画像と通常の画像を組み合わせることにより、逆光下のようなコントラストの強い状況でも、白とびや黒つぶれの発生を軽減させた画像が得られます。

Visibility Enhancer

Visibility Enhancer 機能を持つカメラの場合に、輝度とコントラストを自動調整する度合いを選択します。

Visibility Enhancer 機能を使うと、画素ごとにコントラストが最適化され、光の強い部分の白とびや、光が弱く黒く沈んだ部分の明るさが補正されます。逆光状態など、明暗差の大きい環境下でも、鮮明な映像が得られます。

Visibility Enhancer 機能を使用しないときは、[Off] を選択してください。

XDNR

XDNR 機能を持つカメラの場合に、画像ノイズを低減するためのノイズリダクション・フィルターの強さを選択します。

XDNR 機能を使うと、映像内の動きのない領域と動きのある領域に発生したノイズに対して、それぞれ適したノイズリダクションが行われ、鮮明な画像が得られます。低照度の環境などで効果を発揮します。

XDNR 機能を使用しないときは、[Off] を選択してください。

モニタリング

モニタリング時のビデオコーデックを選択します。

マニュアル記録

マニュアル記録時のビデオコーデックを選択します。

メモ

スケジュール記録時のビデオコーデックは、「スケジュール設定」画面で選択します。

カメラの動作設定をする

RealShot Manager Advanced では、カメラの動作について、以下の設定ができます。

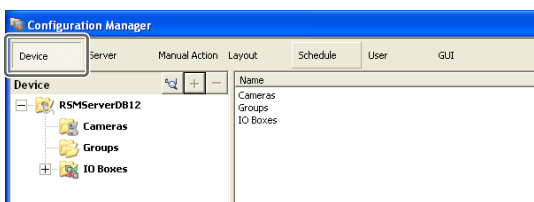
- プリセット位置を設定する (48 ページ)
カメラにプリセット位置を設定できます。
- マスク (レコーダー) を設定する (52 ページ)
カメラにマスクする領域を設定できます。
- アナログカメラのコントロールプロトコルを設定する (57 ページ)
アナログカメラでパン、チルト、ズームのコントロールをするときに設定します。

プリセット位置を設定する

カメラのプリセット位置を設定します。プリセット位置の設定機能を持つカメラのみ設定できます。プリセット位置設定ができないカメラの場合、[プリセット] タブの項目やボタンは選択できません。ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合は、「プリセット位置を設定/変更するには (ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合)」(49 ページ) をご覧ください。

新規にプリセット位置を設定するには

- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

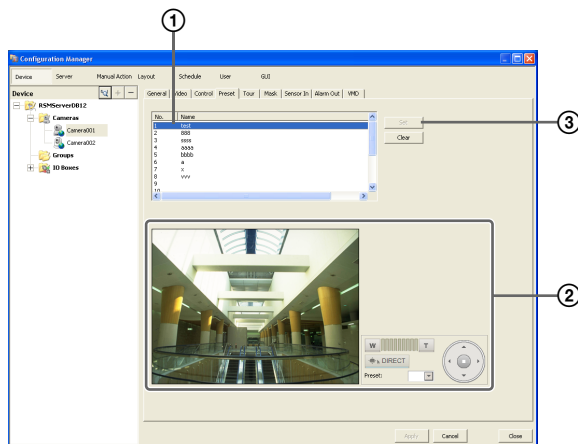


「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 プリセット位置を設定したいカメラを選択し、[プリセット] タブをクリックする。

プレビューにカメラの画像が表示されます。

- 3 各項目を設定する。



- ① プリセットを作成する位置 (ポジション番号) の欄を選択し、プリセット名を入力する。
- ② プレビューで画像を確認しながらパン/チルト、ズームを操作して、カメラの位置を調整する。プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。
- ③ [プリセットを設定] をクリックする。
現在のカメラ位置がプリセット位置として記憶されます。
複数のプリセットを作成するときは、手順①～③を繰り返します。

メモ

プリセットの数は、カメラの種類に依存します。詳しくは、ご使用になるカメラのユーザーガイドをご覧ください。

- 4 設定が終了したら、[適用] をクリックする。

プリセットの設定内容を変更するには

- 1 プリセット位置を変更したいカメラを選択し、[プリセット] タブをクリックする。
- 2 プリセット名を変更するときは、画面上部のリストでプリセット名を入力しなおす。
- 3 プリセット位置を変更するときは、パン/チルト、ズームを操作して、カメラの位置を調整する。
- 4 [プリセットを設定] をクリックする。
設定内容が変更されます。

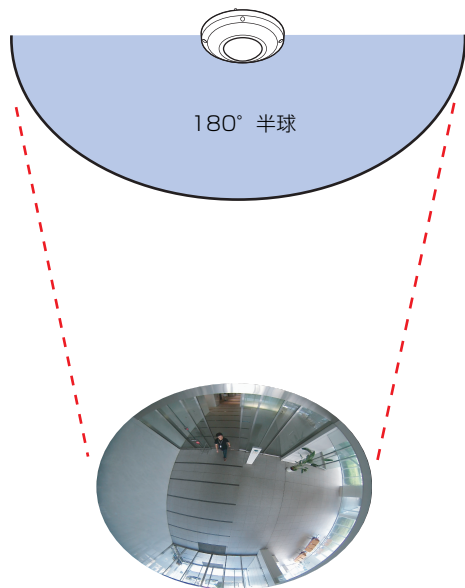
プリセット位置を設定／変更するには（ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合）

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合は、カメラの登録時に自動的に、以下のディスプレイモードのプリセットが作成されます。

- R-1（リージョナルビュー×1）

初期状態では、終端までズームアウトした全方位画像です。任意の位置にズームインして利用できます。

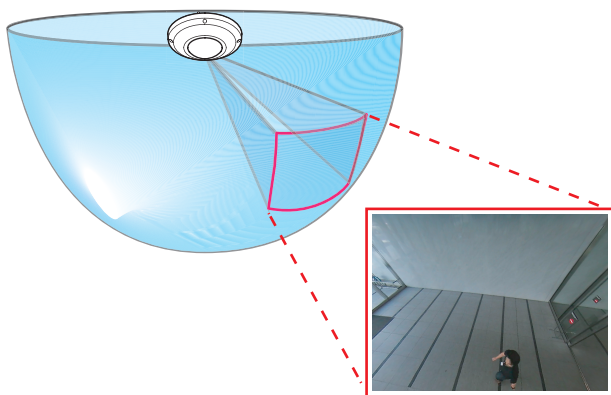
画像例)



- R-2～R-5（各リージョナルビュー×1）

初期状態では、四方位にズームインした画像です。任意の位置にズームインして利用できます。

画像例)

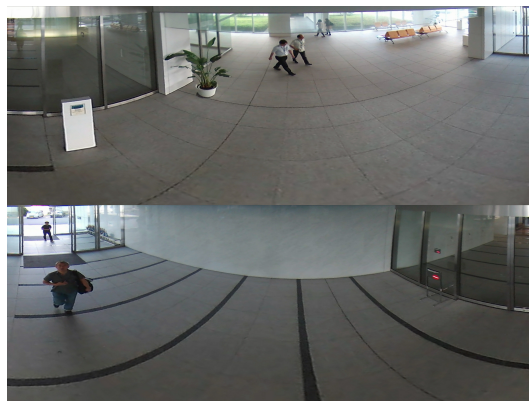


- P-1（パノラマビュー）

天井または卓上設置の場合は2枚のパノラマ画像に、壁設置の場合は1枚のパノラマ画像になります。

画像例)

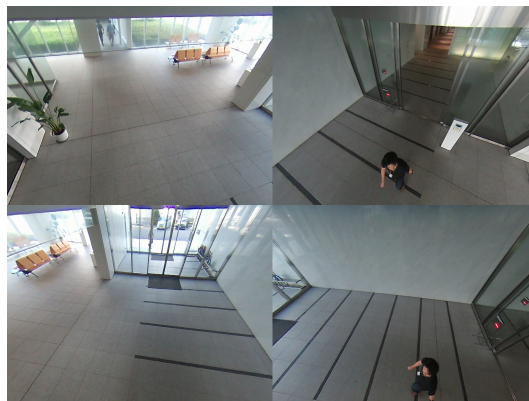
天井設置の場合



- R×41（リージョナルビュー）

初期状態では、R-2 から R-5 までを表示します。

画像例)

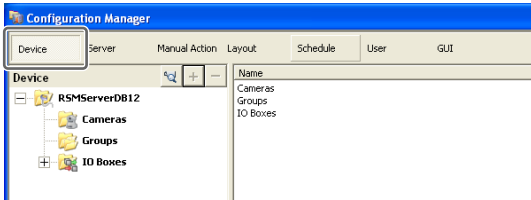


メモ

R のビューサイズ（画像表示サイズ）は、カメラ側での設定が適用されます。

必要に応じて、自動作成されたプリセットの名前やアングルなどを変更したり、新規にプリセット位置を作成できます。

1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

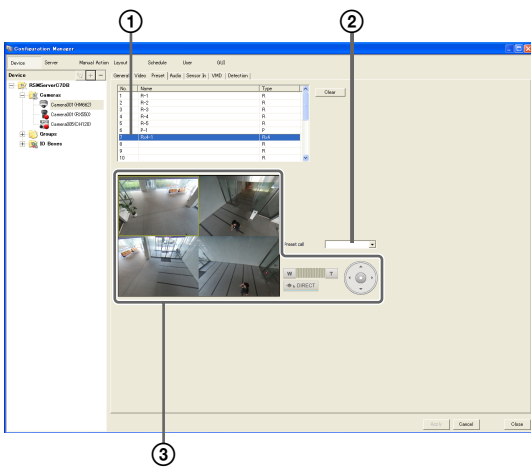


「デバイス設定」画面が表示されます。

2 プリセット位置を設定したいカメラを選択し、[プリセット] タブをクリックする。

プレビューにカメラの画像が表示されます。

3 各項目を設定する。



① ポジション番号を選択する。

- プリセット名を変更したいときは、リストで名前を入力しなおします。
- ディスプレイモードを変更したいときは、[Type] でディスプレイモードを選択します。[Type] を変更すると、アングルは初期状態にリセットされます。

② 既存のプリセット位置を呼び出したい場合は、[プリセット呼び出し] で、プレビューに表示させるアングルを選択する。

[プリセット呼び出し] は、リージョナルビューを選択しているとき¹⁾にのみ実行できます。この手順を省略し、手順③に進んでも構いません。

1) [Type] が「R」または「R×4」のとき

③ プレビューで画像を確認しながらパン／チルト、ズームを操作して、カメラの位置を調整する。パノラマビューの場合は、センターポジションを決めます。

メモ

- プリセットは、20個まで作成できます。
- カメラをドラッグ&ドロップするなど、プリセットを指定せずに行う操作では、プリセットの先頭が使われます。
- プリセット名やアングルを変更すると、変更中を示す「*」が表示されます。「*」は、[適用] または [キャンセル] をクリックすると消えます。
- パノラマビューのセンターポジションを移動しても、ほかのプリセットの位置は変更されません。

4 設定が終了したら、[適用] をクリックする。

ご注意

記録画像にプリセット情報は含まれません。記録後にプリセットを変更または削除すると、記録時のプリセットで再生することはできません。

プリセットを削除するには

1 プリセット位置を削除したいカメラを選択し、[プリセット] タブをクリックする。

2 画面上部のリストで、削除するプリセットを選択し、[クリア] をクリックする。

プリセットが削除されます。

3 [プリセットを設定] をクリックする。

カメラツアーを設定する

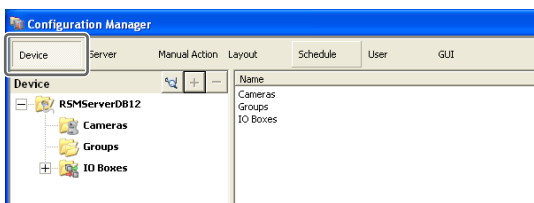
プリセットに指定されているパン、チルト、ズーム位置にカメラを順に移動させるカメラツアーを設定できます。

メモ

このツアーは、カメラのツアー機能を利用しています。そのため、設定したツアーの情報は、カメラに保存されます。

新規にツアーを設定するには

- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

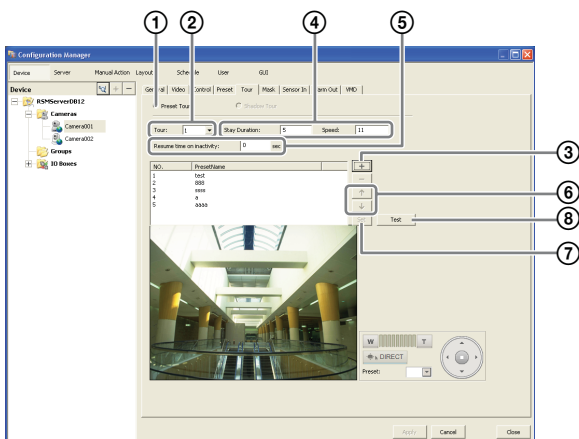


「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 ツアーを設定したいカメラを選択し、[ツアー] タブをクリックする。

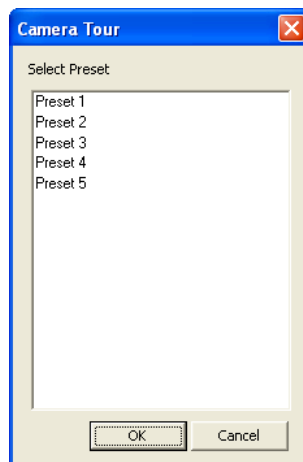
プレビューにカメラの画像が表示されます。

- 3 各項目を設定する。



- ① [プリセットツアー] を選択する。
- ② 設定したいツアー番号を選択する。

- ③ **+** (追加) をクリックし、表示される「プリセットの選択」ダイアログで追加するプリセットを選択し、[OK] をクリックする。



リストにプリセットが追加されます。

- ④ [滞在時間] でカメラがその位置に留まる時間を入力し、[速度] にカメラが移動する速度 (レベル) を入力する。
カメラの速度 (レベル) については、お使いになるカメラの取扱説明書をご覧ください。
- ⑤ [再開時間] で、操作によってツアーが中断された後の再開時間を設定する。
- ⑥ プリセットの順序を変更したいときは、リストでプリセットを選択し **↑** (ツアーのプリセットを一つ上に) または **↓** (ツアーのプリセットを一つ下に) をクリックする。
- ⑦ プリセットの設定が終了したら、[Set] をクリックする。
- ⑧ [テスト] をクリックし、設定したツアーを表示して確認する。

カメラツアーの動作について

RealShot Manager Advanced では、カメラのプリセットで指定された各ポジションに対して同一の「滞在時間」と「速度」を設定することにより、カメラツアー機能を実現しています。

メモ

- 設定した「滞在時間」はすべてのプリセット位置に対して、「速度」はすべてのプリセット間の移動に対して適用されます。

- カメラツアーは、メイン画面の [カメラコントロール] ペインの [ツアー] リストに P-1 ~ という名前が表示されます。

で注意

カメラの速度 (レベル) に設定する値が同じでも、カメラの機種によって実際の速度が異なる場合があります。ツアーの設定を行う際は、必ずツアーのテストを行って動作を確認してください。

設定内容を変更するには

- 「デバイス設定」画面で、登録内容を変更したいカメラを選択する。
- [ツアー] タブをクリックし、変更したい項目を設定しなおす。
- [ツアーの設定] をクリックする。
設定が変更されます。

シャドーツアーを設定する

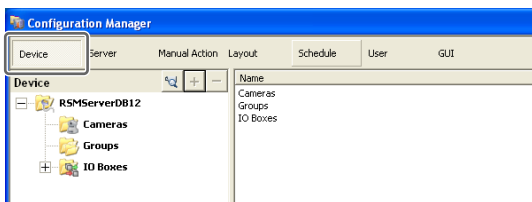
シャドーツアー機能を持つカメラの場合に、マウスやジョイスティックなどを使って操作したカメラの動作を記録し、シャドーツアーとして設定できます。
ツアー動作は、4種類まで (S-1 ~ S-4) 設定できます。

メモ

このツアーは、カメラのツアー機能を利用しています。そのため、設定したツアーの情報は、カメラに保存されます。

新規にツアーを設定するには

- 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

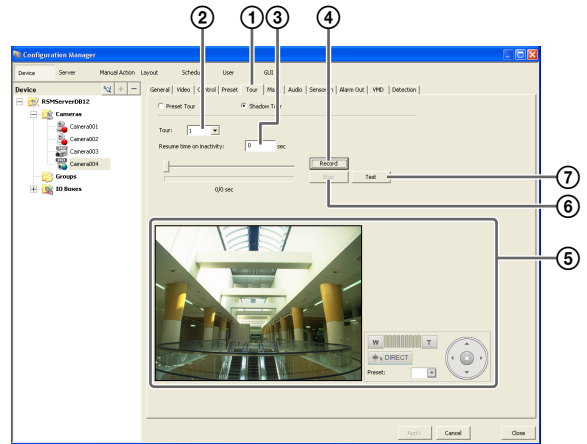


「デバイス設定」画面が表示されます。

- ツアーを設定したいカメラを選択し、[ツアー] タブをクリックする。

プレビューにカメラの画像が表示されます。

- 各項目を設定する。



- [シャドーツアー] を選択する。
- 設定したいツアー番号を選択する。
- [再開時間] で、操作によってツアーが中断された後の再開時間を設定する。
- [記録] をクリックして、記録を開始する。
- プレビューで画像を確認しながらパン/チルト、ズームを操作して、カメラの位置を調整する。プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。
- [停止] をクリックして、記録を終了する。
- [テスト] をクリックし、設定したツアーを表示して確認する。

メモ

- カメラの仕様により記録時間に制限があります。
- カメラで登録できる時間を過ぎると、[停止] をクリックする前に記録が停止します。
- シャドーツアーは、メイン画面の [カメラコントロール] ペインの [ツアー] リストに S-1 ~ S-4 という名前が表示されます。

マスク (レコーダー) を設定する

RealShot Manager Advanced が持つマスク機能を使って、モニターしているカメラ画像の中で特定の領域を覆い隠すためのマスクを設定できます。マスクは、カメラのパン、チルト、ズームの動作に連動して、設定した場所を常に覆い隠すように動作する機能です。

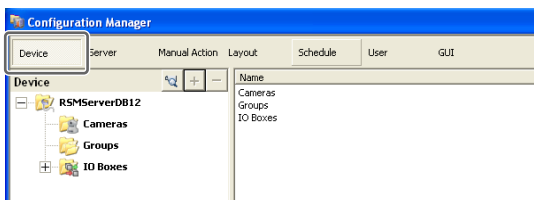
マスクがカメラのパン、チルト、ズームの動作に連動するのはソニーのネットワークカメラのみとなります。

ご注意

記録中のカメラに対してマスクを変更しても、現在行われている記録ファイルについては反映されません。マスクの設定を変更する場合は、記録を開始する前に行ってください。

メモ

- パン・チルトを持つカメラに対して設定したマスク領域は、パン・チルトまたはズーム操作を行うとずれる場合があります。マスクをかけたい対象物の周り上下左右に、画像サイズの10%程度の余裕を持って設定してください。また、パン・チルト機能を持つカメラでマスクの設定を行う場合は、マスクをかける対象物がモニター画面の中央にくる状態にしてから行ってください。
- クライアントからマスクの設定を行う場合は、いったん設定のプレビューを適用してから行ってください。

1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

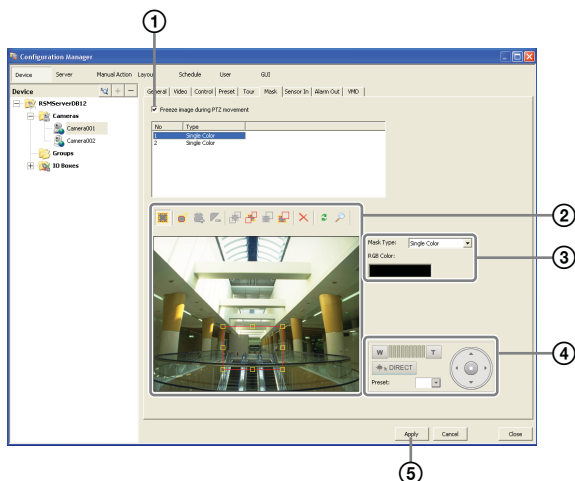
「デバイス設定」画面が表示されます。

2 マスクを設定したいカメラを選択し、[マスク] タブをクリックする。

プレビューにカメラの画像が表示されます。

3 各項目を設定する。


最大10個のマスクを設定できます。各項目の詳細は、「[マスク (レコーダー)] タブの設定項目」(53ページ)をご覧ください。



① 必要に応じて、[PTZ 動作中は描画を停止する] にチェックマークを付け、パン、チルト、ズーム中は描画を停止させる。

② プレビューで画像を確認しながら、各ボタンを使ってマスクを作成・編集する。

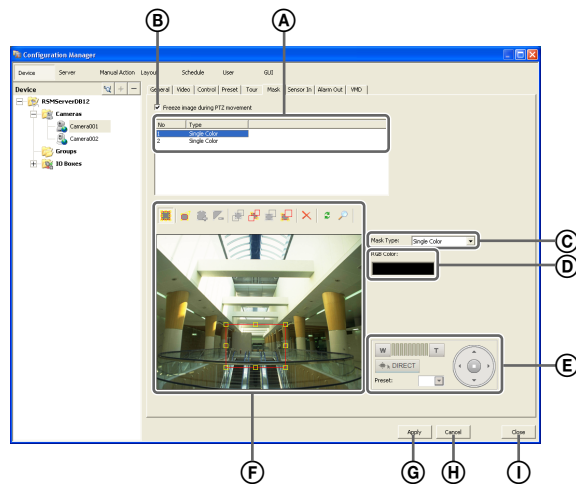
③ マスクの表示のしかたを選択する。
マスクは、単色またはパターンで塗ることができます。

④ パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合は、各ボタンを使ってカメラのパン/チルトやズームをコントロールし、設定した領域を隠すようにカメラが正しく移動するか確認する。
プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。
このツールバーは、 をクリックすると表示されます。

⑤ [適用] をクリックする。
作成したマスクがリストに追加されます。
複数のマスクを作成するときは、手順②～⑤を繰り返します。

[マスク (レコーダー)] タブの設定項目

各項目を設定したら、[適用] をクリックします。

**A マスクリスト**

ツリーで選択したデバイスに設定されているマスクが一覧表示されます。

B PTZ 動作中は描画を停止する

パン、チルト、ズーム中の描画を停止させるときにチェックマークを付けます。

マスク領域を設定しているときにパン、チルト、ズーム操作を行った場合、それに応じてマスクも移動しますが、マ

スクの移動がパン、チルト、ズームの動きよりも少し遅れることがあります。ここにチェックマークを付けると、パン、チルト、ズーム中に描画が行われなため、確実にマスクすることができます。

㉔ マスクの種類

マスクの表示のしかたを選択します。

マスクは、単色またはパターンで塗ることができます。

- [単色] を選択したときは、表示されるダイアログで、マスクの塗り色を選択します。
- [ランダムノイズ] を選択した場合は、マスキングのレベルも設定できます。

で注意

[ガウスぼかし] と [モザイク] では、ズームに応じてぼかしのサイズ (ピクセル) は変化しませんので、ズームを最大にして設定してください。ズームを最大にしないで設定し、マスクが読めないときは、ズームインすると読めるようになります。


㉕ データ

マスクの種類に応じたパラメーターが表示されます。

例) Single color	Select the color with color bar
Gaussian blur	Radius
Mosaic	Delta X/Delta Y
Random noise	Amplitude

㉖ パン、チルト、ズームツールバー

パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合に使用できます。

このツールバーは、 をクリックすると表示されます。各ボタンを使ってカメラのパン／チルトやズームをコントロールし、設定した領域を隠すようにカメラが正しく移動するか確認します。

プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。

で注意

パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合、パン、チルト、ズーム操作をしたときに、設定した領域がずれる場合があります。マスクをかけたい対象物の上下左右 10% 程度の余裕を持って領域を設定してしてください。

㉗ プレビューとツールボタン

プレビューで画像を確認しながら、各ボタンを使ってマスクを作成・編集します。

(エリアの作成・移動)

マウスをドラッグして長方形のマスクを作成したり、マスクを移動するときに使います。

(ポイントの編集)

ポイントを追加／削除して、複雑な形状のマスクを作成するときに使います。

(ポイントの追加)

辺を特定の位置で分割するときに使います。

辺の上で Ctrl キーを押しながらかlickすると、マスクに編集ポイントが追加されます。

(ポイントの削除)

辺の数を 1 つ減らすときに使います。

編集ポイントの上で Ctrl キーを押しながらかlickすると、マスクの編集ポイントが削除されます。

(最前面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりが一番上に移動します。

(最背面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりが一番下に移動します。

(前面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりの上 1 つ上に移動します。

(背面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりの上 1 つ下に移動し

(エリアの削除)

選択したマスクを削除します。

(画像のリフレッシュ)

すべてのマスクを含む静止画を更新します。

マスク領域の塗りつぶしがクリアされて枠線だけの状態になり、編集を続けることができます。

(プレビュー)

マスクを含むカメラのライブ映像を表示します。

設定した領域でどのように表示されるかを確認できます。

㉘ 適用

設定を保存します。

㉙ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

㉚ 閉じる

画面を閉じます。

マスク（カメラ）を設定する

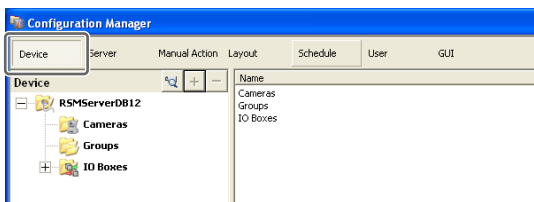
カメラが持つマスク機能を使って、モニターしているカメラ画像の中で特定の領域を覆い隠すためのマスクを設定できます。マスクは、カメラのパン、チルト、ズームの動作に連動して、設定した場所を常に覆い隠すように動作する機能です。

マスク（カメラ）機能を使用できるのは、SNC-xx600 シリーズ（xx：アルファベット2文字）でカメラマスクに対応したソニーのネットワークカメラのみとなります。

メモ

- パン・チルトを持つカメラに対して設定したマスク領域は、パン・チルトまたはズーム操作を行うとずれる場合があります。マスクをかけたい対象物の周り上下左右に、画像サイズの10%程度の余裕を持って設定してください。また、パン・チルト機能を持つカメラでマスクの設定を行う場合は、マスクをかける対象物がモニター画面の中央にくる状態にしてから行ってください。
- クライアントからマスクの設定を行う場合は、いったん設定のプレビューを適用してから行ってください。

1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



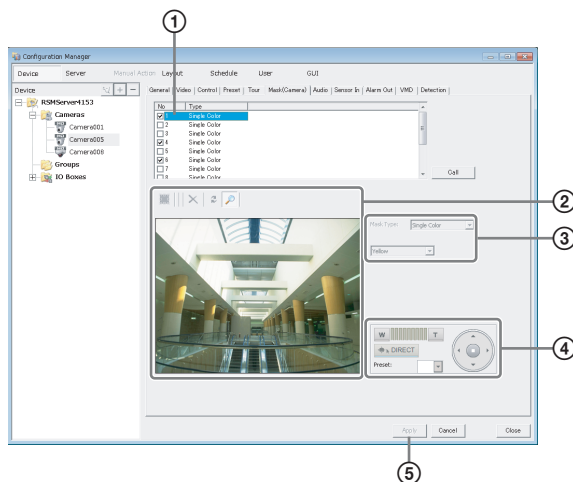
「デバイス設定」画面が表示されます。

2 マスクを設定したいカメラを選択し、[マスク] タブをクリックする。

プレビューにカメラの画像が表示されます。

3 各項目を設定する。

各項目の詳細は、「[[マスク（カメラ）] タブの設定項目」（56 ページ）をご覧ください。



① マスク名を入力する。

② マスクの表示のしかたを選択する。

③ プレビューで画像を確認しながら、各ボタンを使ってマスクを設定する。

④ パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合は、各ボタンを使ってカメラのパン／チルトやズームをコントロールし、設定した領域を隠すようにカメラが正しく移動するか確認する。プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。

⑤ [適用] をクリックする。

作成したマスクがリストに追加されます。

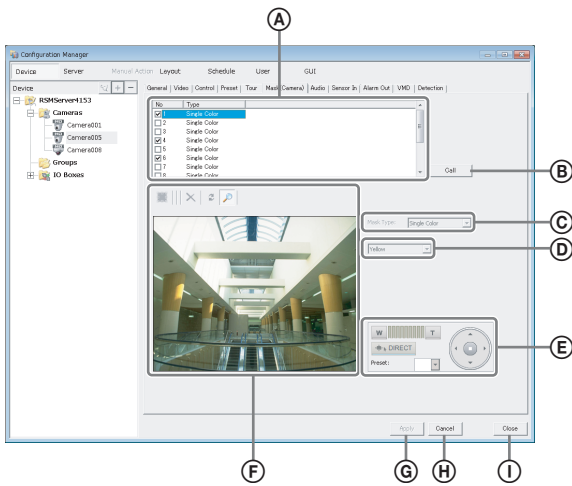
複数のマスクを作成するときは、手順②～⑤を繰り返します。

メモ

- 設定の変更は、[適用] をクリックすると、即時に反映されます。
- 設定可能なマスク数は、カメラの仕様依存します。

[マスク (カメラ)] タブの設定項目

各項目を設定したら、[適用] をクリックします。




① マスクリスト

ツリーで選択したデバイスに設定されているマスクが一覧表示されます。

② 【呼び出し】 ボタン

パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合に使用できます。

設定済みのマスクが画面中央に来るようにカメラを移動させます。

 (プレビュー) ボタンが押された状態のときのみ使用できます。

③ マスクの種類

マスクの表示のしかたを選択します。

選択できるマスクの種類は、カメラによって異なります。

④ データ

マスクの種類で「Single color」を選択したときに、色名のリストが表示されます。

⑤ パン、チルト、ズームツールバー

パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合に使用できます。

各ボタンを使ってカメラのパン／チルトやズームをコントロールし、設定した領域を隠すようにカメラが正しく移動するか確認します。

プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。

ご注意

- パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合、パン、チルト、ズーム操作をしたときに、設定した領域がずれる場合があります。マスクをかけたい対象物の上下左右10%程度の余裕を持って領域を設定してください。

- プレビュー画像の左右または上下に、画像が表示されない領域が生じる場合があります。モニタリングで使用する解像度を変更することによって、表示されない領域をなくし、全体を表示できます。

⑥ プレビューとツールボタン

プレビューで画像を確認しながら、各ボタンを使ってマスクを設定します。

(エリアの作成・移動)

マウスをドラッグして長方形のマスクを作成したり、マスクを移動するときに使います。

(ポイントの編集)

ポイントを編集して、凸型の四角形のマスクを作成するときに使います。

パン、チルト、ズーム機能のあるカメラでは、このボタンは使用できません。

(エリアの削除)

選択したマスクを削除します。

(画像のリフレッシュ)

すべてのマスクを含む静止画を更新します。

そのまま編集を続けることができます。

(プレビュー)

マスクを含むカメラのライブ映像を表示します。

設定した領域でどのように表示されるかを確認できます。

⑦ 適用

設定を保存します。

⑧ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

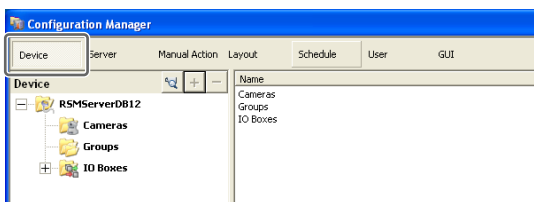
⑨ 閉じる

画面を閉じます。

アナログカメラのコントロールプロトコルを設定する

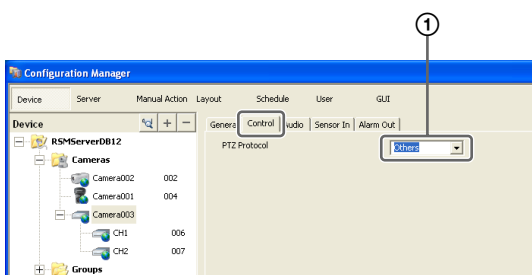
カメラサーバーを使う場合や、NSR-1050H または NSBK-A16/A16H（オプション）が装着された NSR-1000 シリーズや、NSBK-EB05（オプション）が装着された NSR-500 シリーズで接続したアナログカメラのパン、チルト、ズームコントロールを行うときに、アナログカメラのコントロールプロトコルを設定します。

1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

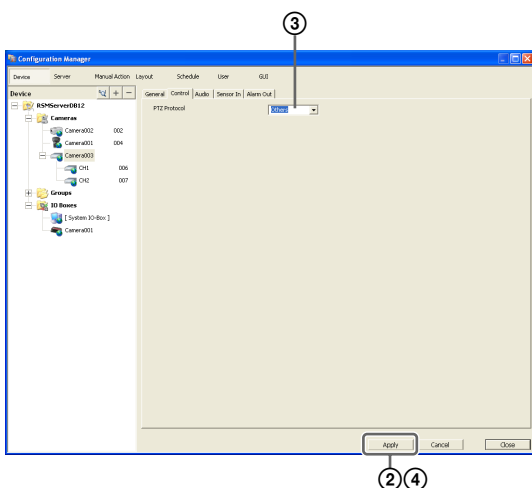


「デバイス設定」画面が表示されます。

2 カメラサーバーまたは NSBK-EB05 を選択し、[コントロール] タブをクリックする。



3 各項目を設定する。



- ① アナログカメラに合わせて、プロトコルを選択する。
- ② [適用] をクリックする。
- ③ 各チャンネルの [コントロール] を選択し、アナログカメラに設定されているコントロール番号を設定する。
- ④ [適用] をクリックする。
アナログカメラでパン、チルト、ズームのコントロールが行えるようになります。

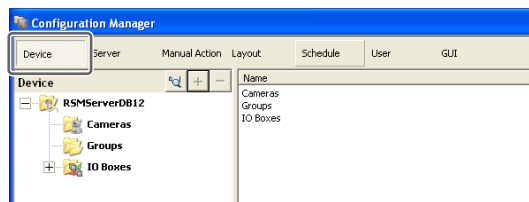
メモ

- ご利用のアナログカメラに応じて、シリアルポートの設定が行われていることを確認してください。シリアルポートは「管理メニュー」の「セットアップメニュー」から設定します。
- 登録したカメラサーバーによって表示される設定項目が異なります。ツリーで選択したデバイスの表示に従って設定してください。

ネットワークカメラのコントロールを設定する

ソニー製のカメラでは、ズーム状態に応じて自動的にパン・チルト速度を調整します。ONVIF 準拠のカメラに対して、パン・チルト速度を設定できます。

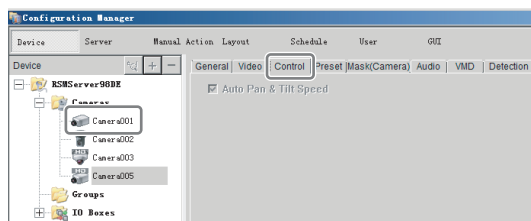
1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



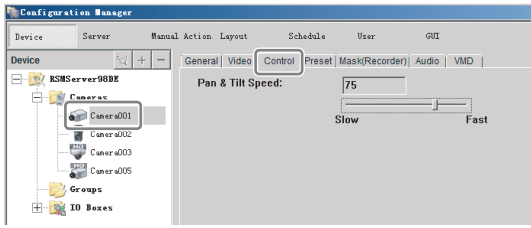
「デバイス設定」画面が表示されます。

2 ネットワークカメラを選択し、[コントロール] タブをクリックする。

ソニー製カメラの場合



ONVIF 準拠のカメラの場合

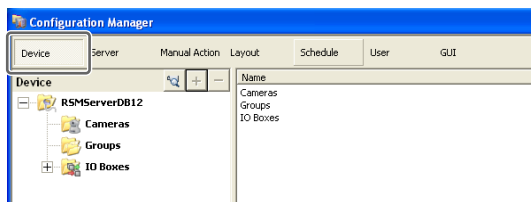


- ONVIF 準拠のカメラの場合は、スライダーバーでパン・チルト速度を調整し、[適用] をクリックする。

オーディオを設定する

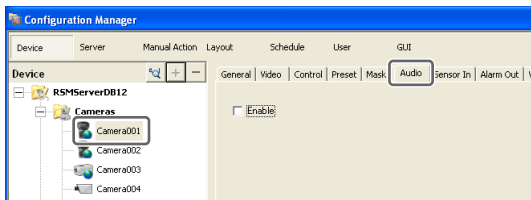
音声をモニタリングするための設定を行います。

- 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

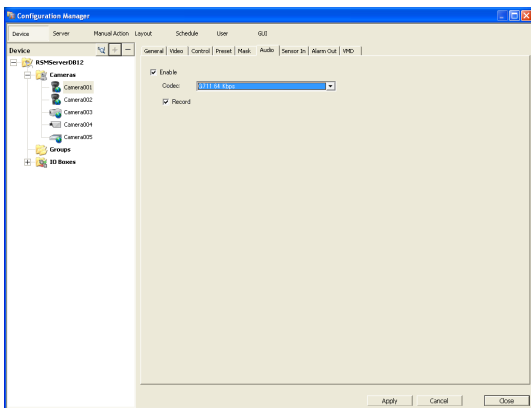


「デバイス設定」画面が表示されます。

- 音声を有効にしたいカメラを選択し、[音声] タブをクリックする。



- 各項目を設定し、[適用] をクリックする。



音声を有効にする

カメラからの音声を RealShot Manager Advanced が取得する場合に、チェックマークを付けます。実際の音声をモニタリングするには、カメラ側のマイク入力が無効になっている必要があります。

ご注意

チェックマークをはずして音声を無効にした場合は、音声を有効にしたときに記録された音声の再生もできません。再度チェックマークを付けて有効にすることにより、再生できるようになります。

コーデック

音声コーデックを指定します。

カメラからの音声モニタリングできるようになります。

記録

カメラからの音声を記録する場合にチェックマークを付けます。

モニタリングに関する設定をする

モニターレイアウトやカメラ画像に関して、以下の設定ができます。

- モニターレイアウトの設定をする (59 ページ)
使用環境や目的に応じた複数のレイアウトを作成できます。
- モニターフレームにカメラを割り当てる (66 ページ)
各モニターフレームにカメラを割り当てます。
- レイアウトツアーを設定する (67 ページ)
あらかじめ設定しておいた時間で各ディスプレイの表示を次々に切り替えます。

モニターレイアウトの設定をする

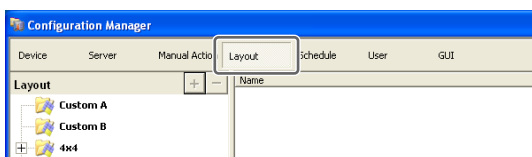
モニターフレームの数や大きさを設定して、使用環境や目的に応じたレイアウトを作成できます。

メモ

- カメラを登録すると、2×2、3×3、4×4のレイアウトがデフォルトレイアウトとして自動的に作成されます。デフォルトレイアウトでは、モニターフレームの大きさを変更することはできません。
- 作成したレイアウトは、そのコンピューターに保存されます。例えば、サーバーで作成したレイアウトは、サーバー上に保存されます。

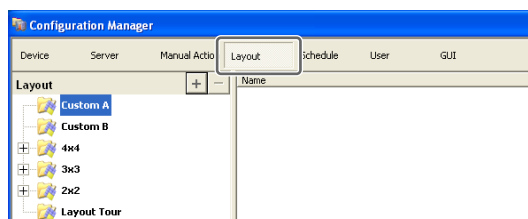
新規にレイアウトを作成するには

- 1 設定画面上部にある「レイアウト」をクリックする。



「レイアウト設定」画面が表示されます。

- 2 「レイアウト」ツリーから「Custom Layout A」または「Custom Layout B」を選択し、**+** (追加) をクリックする。



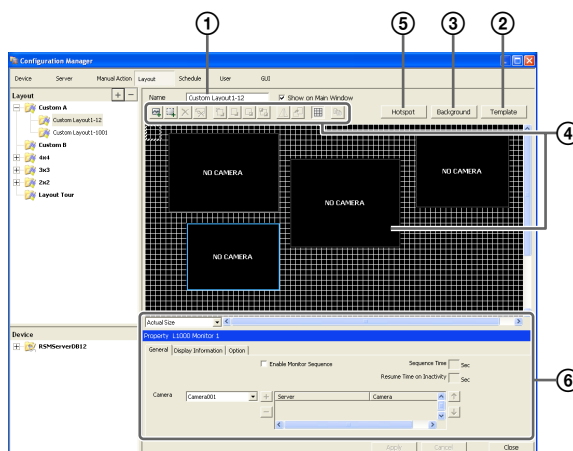
メモ

「Custom Layout A」と「Custom Layout B」は、あらかじめ設定されているレイアウトグループです。用途に応じてお使いください。

右側のエリアがレイアウトを設定するための表示に変わります。

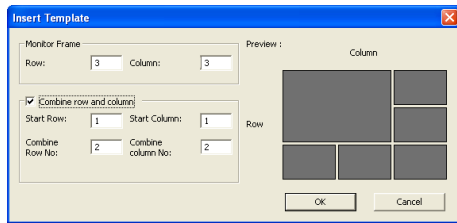
- 3 各項目を設定する。

各項目の詳細は、「レイアウト設定」画面の設定項目 (60 ページ) をご覧ください。



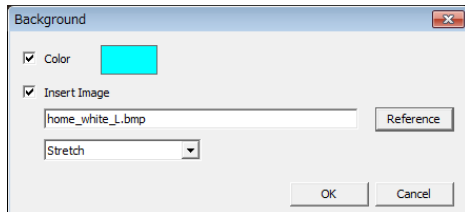
- ① 必要に応じて、レイアウトの名前を設定する。
32文字以内 (ASCII文字以外は、16文字) で入力できます。

- ② モニターフレームの数と配列を設定する。
 [テンプレート] をクリックし、表示される「テンプレートの挿入」ダイアログで各項目を設定し、[OK] をクリックします。



各項目の詳細は、「[テンプレートの挿入] ダイアログの設定項目」(65 ページ) をご覧ください。

- ③ 必要に応じて、背景に地図やフロアの間取り図などの画像を取り込む。
 [背景の挿入] をクリックし、表示される「背景の挿入」ダイアログで各項目を設定し、[OK] をクリックする。



各項目の詳細は、「[背景] ダイアログの設定項目」(65 ページ) をご覧ください。

- ④ 必要に応じてモニターフレームを動かして位置を決める。
 マウスでドラッグするとモニターフレームが移動します。
- ⑤ 必要に応じて、ホットスポットモニターを設定する。
 ホットスポットモニターに指定するモニターフレームを1つクリックして選択し、[ホットスポット] をクリックします。
 ホットスポットモニターには、メイン画面で選択したモニターフレームに表示される画像と同じものが表示されます。ホットスポットモニターは、モニターフレームの画像を見やすくするため、通常のモニターフレームよりも大きい画面を指定します。
- ⑥ 必要に応じて、[プロパティ] の各タブを設定する。
 各タブの設定項目については、「[プロパティ] の設定項目」(62 ページ) をご覧ください。

- 4 各項目を設定したら、[適用] をクリックする。
 レイアウトが作成されます。

登録内容を変更するには

- 1 「レイアウト設定」画面で、登録内容を変更したいレイアウトを選択する。
- 2 各項目を設定しなおす。
- 3 [適用] をクリックする。
 設定が変更されます。

レイアウトを削除するには

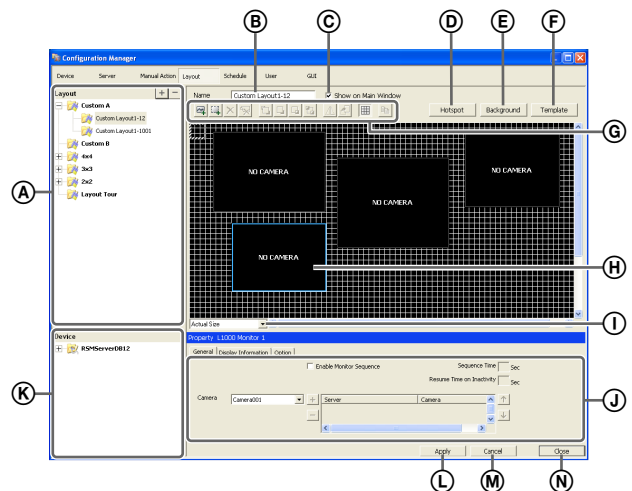
メモ

デフォルトレイアウトは削除できません。

- 1 「レイアウト設定」画面で、[レイアウト] ツリーから削除したいレイアウトを選択し、**-** (削除) をクリックする。
 確認メッセージが表示されます。
- 2 [OK] をクリックする。
 レイアウトが削除されます。

「レイアウト設定」画面の設定項目

本画面は、設定画面で [レイアウト] をクリックすると表示されます。
 設定を変更したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



㉔ 【レイアウト】 ツリー

設定されているレイアウトがツリー形式で一覧表示されます。

ツリーでレイアウトを選択すると、右側のエリアに設定内容が表示されます。

+ (追加)

新規にレイアウトを作成します。

「Custom Layout A」または「Custom Layout B」を選択し、このボタンをクリックします。

メモ

「Custom Layout A」と「Custom Layout B」は、あらかじめ設定されているレイアウトグループです。用途に応じてお使いください。

- (削除)

レイアウトを削除します。

ツリーから削除したいレイアウトを選択し、このボタンをクリックすると、レイアウトが削除されます。

メモ

デフォルトレイアウトは削除できません。

㉕ 名前

レイアウトの名前を 32 文字以内（ASCII 文字以外は、16 文字）で入力します。

㉖ メイン画面に表示

このレイアウトをメイン画面で表示できるようにするときにチェックマークを付けます。

㉗ ホットスポット

ホットスポットモニターを設定します。

ホットスポットモニターに指定するモニターフレームを 1 つクリックして選択し、このボタンをクリックします。

ホットスポットモニターを設定すると、あるモニターフレームをクリックしたとき、またはアラームが発生したときに、ホットスポットモニターとして設定されているモニターフレームに画像が表示されます。


ホットスポットモニターには、メイン画面で選択したモニターフレームに表示される画像と同じものが表示されます。ホットスポットモニターは、モニターフレームの画像を見やすくするため、通常のモニターフレームよりも大きい画面を指定します。

㉘ 背景

背景に地図やフロアの間取り図などの画像を取り込むための「背景」ダイアログ（65 ページ）を表示します。

㉙ テンプレート

モニターフレームの数と配列を設定するための「テンプレートの挿入」ダイアログ（65 ページ）を表示します。


㉚ ツールボタン** (イメージの挿入)**

画像を挿入するための「ファイルを開く」ダイアログを表示します。


 (イメージマップの挿入)

イメージマップを挿入します。


イメージマップには、背景画像内の特定の領域にアクションを割り当てることができます。この枠の中をクリックすると、割り当てたアクションを起動できます。

 (アイテムの削除)


選択したアイテムを削除します。

 (割り当てカメラの削除)


選択した画像に割り当てられているカメラを削除します。

 (最前面に移動)

選択した画像を最前面に移動します。

 (前面に移動)


選択した画像を前面に移動します。

 (背面に移動)

選択した画像を背面に移動します。

 (最背面に移動)

選択した画像を最背面に移動します。

 (反転)


選択した画像を左右対称に反転します。

 (回転)

選択した画像を時計回りに 90 度回転します。

 (グリッド)

モニターフレームや画像の配置を補助するためのグリッド線を表示します。

 (コピー)

選択したアイテムをコピー & ペーストします。

㉛ モニターフレーム

モニターフレームは、レイアウトの設定エリアでマウスを任意の大きさにドラッグしたり、テンプレートを使用したることにより作成できます。

ライブ画像のモニタリングや、記録を再生するときに使います。

モニターフレームごとに、画像を表示するカメラを指定できます。

ホットスポットモニターとして大きいモニターフレームを設定すると、選択したモニターフレームと同じ画像を大きく表示することができます。

① 実際のサイズ／ウィンドウサイズに合わせる

レイアウトの編集時に、全体を見たい場合は「ウィンドウサイズに合わせる」を選択します。

実際のスケールで確認したい場合は、「実際のサイズ」を選択します。

④ プロパティタブ

モニターフレームや画像、イメージマップを詳細に設定するためのタブが表示されます。各タブの設定項目については、「プロパティの設定項目」(62 ページ)をご覧ください。

⑧ [デバイス] ツリー

RealShot Manager Advanced に登録されているデバイスがツリー形式で表示されます。

レイアウトを作成する際に、モニターフレームに「デバイス」ツリー上のカメラをドラッグ&ドロップすることで、カメラを割り当てることができます。

⑨ 適用

設定を保存します。

⑩ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

⑪ 閉じる

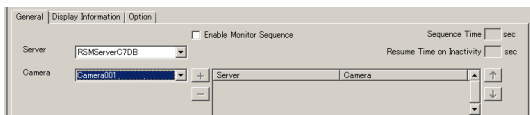
画面を閉じます。

プロパティの設定項目

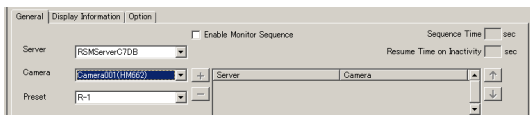
■ モニターフレーム選択時

• [一般] タブ

モニターフレームに割り当てるカメラを選択します。



ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合



サーバー

リモートサーバーを選択します。

この項目は、クライアントのときに表示されます。

カメラ

モニターフレームに割り当てるカメラを選択します。

プリセット

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合に、プリセットを選択します。

モニターシーケンス

モニターシーケンスを有効にするときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、以下の項目で、モニターシーケンスに関する設定を行います。

メモ

- モニターシーケンス機能とは、1つのモニターフレーム内で、指定したカメラの画像を指定した時間間隔で、繰り返し順番に表示する機能です。指定したすべてのカメラの映像を受信し続けるため、画像を表示していない間でもネットワークの使用帯域は増加しますので、ご注意ください。
- モニターシーケンスでは、プリセットは指定できません。先頭のプリセットが使用されます。

シーケンスタイム

カメラの画像を表示する時間を入力します。

再開時間

何らかの操作によってシーケンスが中断された後、シーケンスが再開されるまでの時間を入力します。

+ (追加)

[カメラ] で選択したカメラをカメラリストに追加します。

- (削除)

カメラリストで選択したカメラを削除します。

カメラリスト

モニターシーケンスで表示するカメラの一覧です。リストの上位のカメラから順に、[シーケンス時間] で設定した間隔で画像が表示されます。

↑

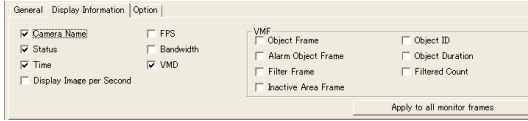
カメラリストで選択したカメラの順番を1つ上に移動します。



カメラリストで選択したカメラの順番を1つ下に移動します。

• [情報表示] タブ

モニターフレームに表示する項目にチェックマークを付けます。



カメラ名

「デバイス設定」ウィンドウで設定されているカメラの名前を表示します。

状態

「未接続」などのエラーメッセージを表示します。

時刻

現在の時刻を表示します。

表示フレーム数

ディスプレイに表示されるカメラ画像が更新される速度を表示します。

フレームレート

カメラ画像を取り込む速度を表示します。

帯域

ネットワーク接続で画像を転送するために使用する帯域の値を表示します。

VMD

Video Motion Detection (レコーダー) のオブジェクト枠を表示します。

VMF

モニターフレームに表示させる Video Motion Filter の情報を選択します。

対象枠

オブジェクト枠を表示します。

アラーム対象枠

アラームとして検知されたオブジェクト枠を表示します。

フィルター枠

フィルターの枠線を表示します。

非検知エリア

非検知エリアの枠線を表示します。

対象 ID

オブジェクトの ID を表示します。

滞在時間

物体が動体として認識されている時間、または物体が置き去りにされた、または持ち去られたと認識されている時間を表示します。

検知カウント

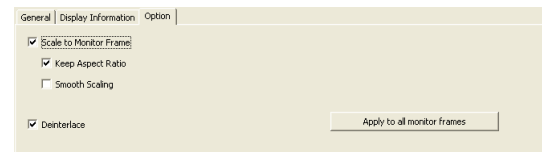
フィルターの条件が満たされた回数を表示します。

全てのモニターフレームに適用

チェックマークを付けた項目をすべてのモニターフレームに対して適用します。

• [オプション] タブ

モニターフレームのサイズを変更するときに、画像の大きさをどのように表示するかを選択します。



モニターフレームに合わせる

モニターフレームのサイズに合わせて、画像が拡大／縮小されます。

メモ

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合、この設定に関わらず常にモニターフレームのサイズに合わせて表示され、アスペクト比は常に保持されます。

縦横比を保持

モニターフレームのサイズに関わらず、画像の縦横比が維持されます。

滑らか表示

画像が滑らかに拡大／縮小されます。画像が拡大／縮小されるとき画質を向上できます。

インターレース解除

インターレース縞を軽減します。この機能は、デバイスが NSBK-A16/A16H で、解像度に 2CIF を選択したときのみ有効となります。

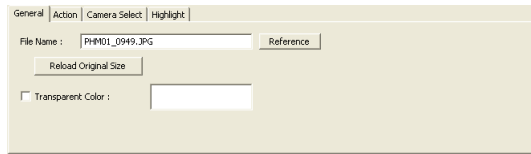
全てのモニターフレームに適用

チェックマークを付けた項目をすべてのモニターフレームに対して適用します。

■ 画像、イメージマップ選択時

• [一般タブ] タブ

挿入した画像やイメージマップに関する設定をします。



ファイル名

[参照] をクリックし、挿入する画像ファイルを指定します。

元のサイズに設定

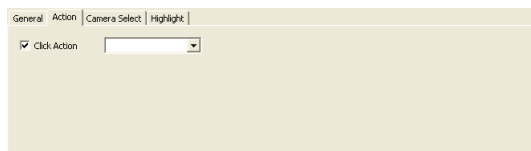
元画像と同じ大きさで表示します。

透過色

画像内の1つの色を透過するように設定できます。チェックマークを付け、ボックス内をクリックして表示されるダイアログで透過させる色を指定します。

• [アクション] タブ

選択した画像やイメージマップに動作を割り当てます。選択した画像やイメージマップに動作（アクション）を割り当てると、画像内をマウスでクリックすることによって、設定した動作が実行されます。

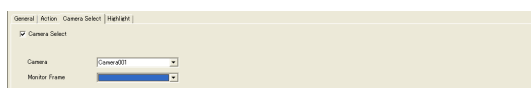


クリックアクション

アクションを有効にするときにチェックマークを付け、実行するアクションを選択します。

• [カメラ選択] タブ

画像やイメージマップ選択時に、指定したカメラの画像を指定したモニターフレームに表示させる機能を設定します。



ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合



カメラ選択

本機能を有効にするときにチェックマークを付け、以下の項目を設定します。

サーバー

リモートサーバーを選択します。
この項目は、クライアントのときに表示されます。

カメラ

モニターフレームに割り当てるカメラを選択します。

プリセット

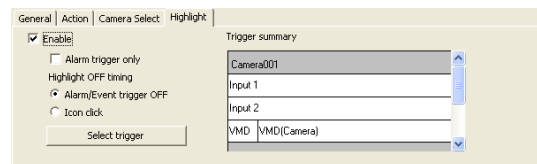
ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合に、プリセットを選択します。

モニターフレーム

カメラの画像を表示させるモニターフレームを選択します。

• [ハイライト] タブ

指定した条件で、レイアウト上に配置されているイメージをハイライト表示（赤色の枠が点滅）させる機能を設定します。



有効

ハイライト表示機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

アラーム発生時のみ

アラーム発生時にのみアイコンをハイライト表示するときにチェックマークを付けます。
チェックマークをはずしたときは、アラームまたはイベント発生時にハイライト表示します。

ハイライト終了のタイミング

ハイライト表示を終了させるタイミングを選択します。

アラーム / イベントの終了

トリガーとなるアラームまたはイベントが終了したときにハイライト表示が消えます。

アイコンクリック

画像をクリックしたときにハイライト表示が消えます。

トリガー選択

ハイライト表示させるトリガーを選択するための「トリガー選択」ダイアログの設定項目（66ページ）を表示します。

トリガーのサマリー

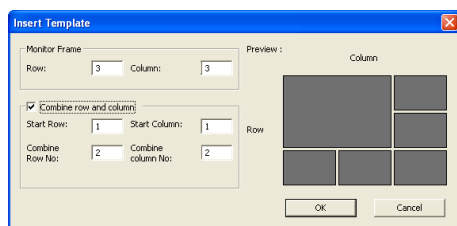
「トリガー選択」ダイアログ（66ページ）で選択したトリガーが一覧表示されます。

「テンプレートの挿入」ダイアログの設定項目

新規にレイアウトを作成します。

本ダイアログは、「レイアウト設定」画面（60ページ）で「テンプレートの適用」をクリックしたときに表示されます。

各項目を設定したら、[OK] をクリックします。



レイアウト

画面に表示したいカメラモニターフレームの数を列数と行数で設定します。

列

横にいくつモニターフレームを並べるかを列数で入力します。

行

縦にいくつモニターフレームの並べるかを行数で入力します。

行と列を結合する

ホットスポットモニターとして使用する場合など、通常のモニターフレームよりも大きい画面を設定したいときにチェックマークを付け、プレビューで確認しながら結合する行と列を指定します。

OK

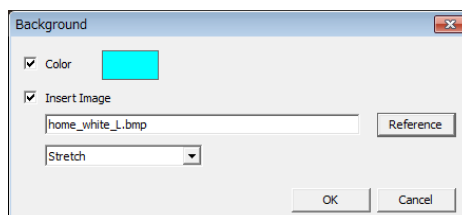
設定した内容でレイアウトが作成され、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

「背景」ダイアログの設定項目

背景に地図やフロアの間取り図などの画像を取り込みます。本ダイアログは、「レイアウト設定」画面（60ページ）で「背景」をクリックしたときに表示されます。各項目を設定したら、[OK] をクリックします。



色

背景の色を設定するときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、ボックスをクリックし、表示されるダイアログで色を指定します。

画像

背景に画像を挿入するときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、[参照] をクリックし、挿入する画像データを指定します。

拡大して表示

画像を背景いっぱいに拡大して表示します。

中心に表示

画像を背景の中心に表示します。

OK

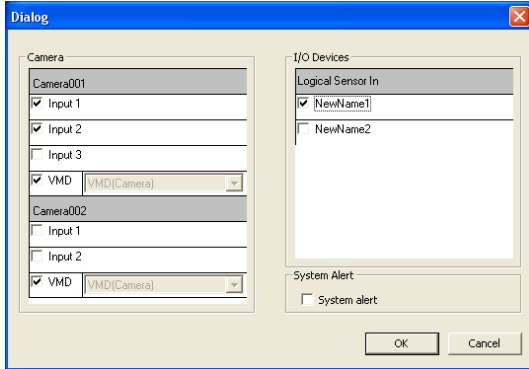
設定した内容で画像が挿入され、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

「トリガー選択」ダイアログの設定項目

ハイライト表示させるためのトリガーを選択します。本ダイアログは、[ハイライト] タブ (64 ページ) の [トリガー選択] をクリックしたときに表示されます。ハイライト表示させるトリガーにチェックマークを付けたら、[OK] をクリックします。



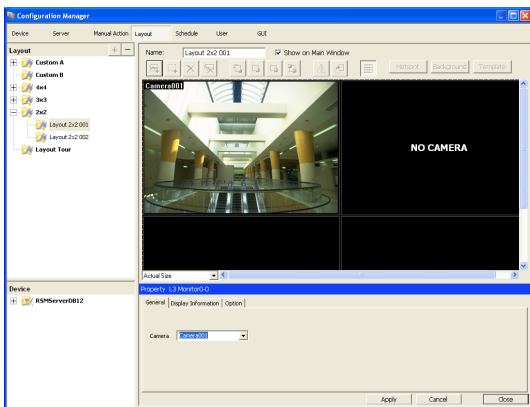
モニターフレームにカメラを割り当てる

各モニターフレームに画像を表示するカメラを割り当てます。

- 1 「レイアウト設定」画面の [レイアウト] ツリーからレイアウトを選択する。
- 2 モニターフレームにカメラを割り当てる。

カメラを割り当てるには以下の方法があります。

- [デバイス] ツリーからモニターフレームにカメラをドラッグ&ドロップする。
- モニターフレームを選択し、画面下部の [一般] タブでカメラを選択する。



セカンドモニターを設定する

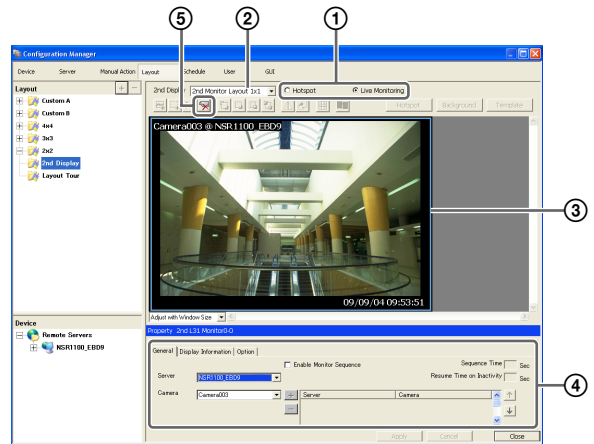
セカンドモニターを設置している場合に、セカンドモニターで使用するレイアウトを選択したり、モニターフレームに関する設定を行います。

セカンドモニターは、ホットスポットモニターまたはライブ映像モニタリング用に使用できます。

メモ

セカンドモニターには、あらかじめ1×1、2×2、3×3、4×4のレイアウトが用意されています。

- 1 「レイアウト設定」画面の [レイアウト] ツリーから「2nd ディスプレイ」を選択する。
- 2 各項目を設定する。



- ① [ホットスポット] または [ライブモニタリング] を選択する。
- ② 使用するレイアウトを選択する。
- ③ [ライブモニタリング] を選択したときは、モニターフレームにカメラを割り当てる。設定項目については、「モニターフレーム選択時」の「[一般] タブ」(62 ページ) をご覧ください。カメラの割り当てを解除する場合は、削除ボタンをクリックします (⑤)。
- ④ 必要に応じて、モニターフレームに関する設定を行う。設定項目については、「モニターフレーム選択時」の「[情報表示] タブ」(63 ページ)、「[オプション] タブ」(63 ページ) をご覧ください。

- 3 [適用] をクリックする。

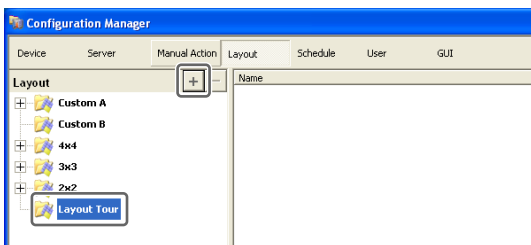
設定が保存されます。

レイアウトツアーを設定する

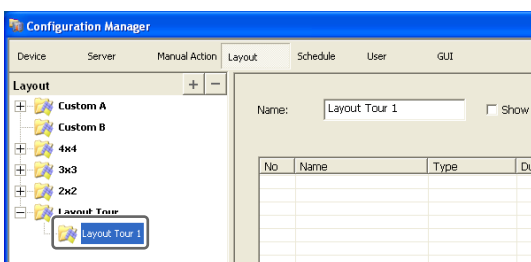
モニタリング中に、あらかじめ設定しておいた時間でディスプレイの表示を次々に切り替えるレイアウトツアーを設定できます。

新規にレイアウトツアーを作成するには

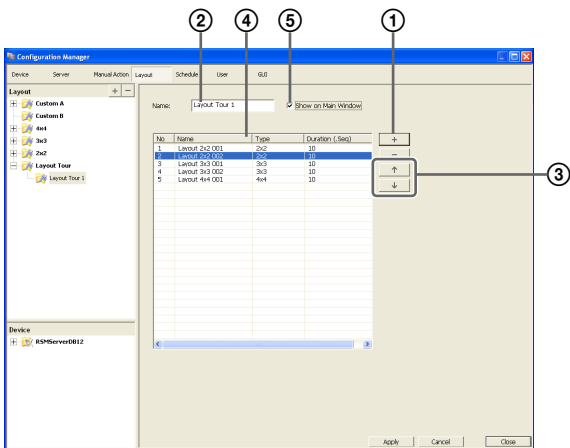
- 1 「レイアウト設定」画面の「レイアウト」ツリーから「レイアウトツアー」を選択し、**+**（追加）をクリックする。



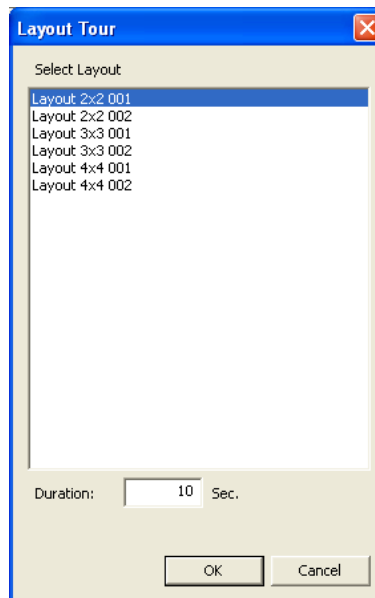
ツリーにレイアウトツアーが追加されます。



- 2 レイアウトツアーを作成する。



- ① リストの右側にある **+**（追加）をクリックし、表示される「レイアウトツアー」ダイアログで、レイアウトと表示期間（秒）を指定して、[OK] をクリックする。



「レイアウトツアー」画面のリストにレイアウトが追加されます。

同様にして、ツアーで表示させるレイアウトをリストに追加します。

- ② ツアーの名前を入力する。
- ③ 表示順を変更したいときは、リストでレイアウトを選択し **↑**（ツアーのレイアウトを一つ上に）または **↓**（ツアーのレイアウトを一つ下に）をクリックする。
レイアウトは、リストの上から順に表示されます。
- ④ 表示期間を変更したいときは、ボックスをクリックし、秒単位で入力しなおす。
- ⑤ このレイアウトツアーをメイン画面で指定できるようにするときにはチェックマークを付ける。

- 3 各項目を設定したら、[適用] をクリックする。

登録内容を変更するには

- 1 「レイアウト設定」画面の「レイアウト」ツリーから登録内容を変更したいレイアウトツアーを選択する。
- 2 各項目を設定しなおす。

3 [適用] をクリックする。

設定が変更されます。

レイアウトツアーを削除するには

1 「レイアウト設定」画面の [レイアウト] ツリーから削除したいレイアウトツアーを選択し、 (削除) をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックする。

レイアウトツアーが削除されます。

動体検知の設定をする

動体検知は、カメラ画像またはカメラ画像のメタデータから動体、不動体を検知する機能です。RealShot Manager Advanced では、デバイスごとに以下の動体検知機能を1種類設定できます。

• VMD (レコーダー) (69 ページ)

RealShot Manager Advanced 自身が持つ動体検知機能です。

• VMD (カメラ) (71 ページ)

カメラによる動体、不動体検知機能です。

• VMF (74 ページ)

メタデータによる動体検知機能です。

メモ

動体検知の機能は、カメラと RealShot Manager Advanced に装備されていますが、カメラの動体検知機能 (VMD (カメラ)) を利用すると、RealShot Manager Advanced のシステム負荷を軽減できます。カメラの登録台数や記録・モニタリングの運用形態に応じて、どちらを利用するか決めてください。

動体検知と不動体検知について

動体検知とは

動いている物体 (例：人や車など) を検知する機能です。

不動体検知とは

動いていた物体が静止したこと (置き去り) や、元々あったものが移動したこと (持ち去り) を検知する機能です。

カメラ画像のメタデータによる動体検知とは

カメラ内で生成された動体に関するメタデータに対して、動体の検出条件であるフィルター (VMF: Video Motion Filter) をかけ、特定の現象を検出する機能です (画像は用いず、メタデータだけで検出します)。メタデータによる動体検知では、カメラからリアルタイムに配信されるメタデータからだけでなく、記録済みのメタデータに対しても、フィルターをかけることができます。

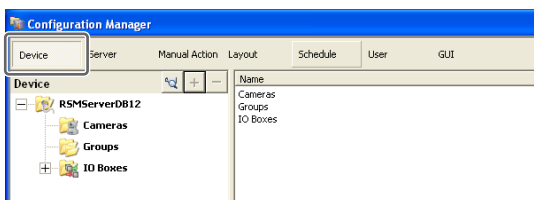
ご注意

- 動体検知機能を使用する際には、必ずテストを行ってから運用してください。
- 不動体検知では、開始時に最低約 40 秒の初期化時間が必要です。また、動きを止めてから最低約 40 秒経過した検知物が不動体とみなされます。

RealShot Manager Advanced の 動体検知機能を使う (VMD (レコーダー))

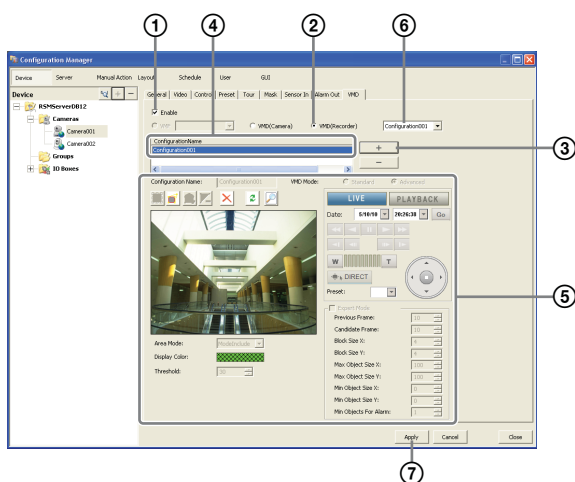
RealShot Manager Advanced で行う動体検知機能を設定します。

- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 画面左側の [デバイス] ツリーからカメラを選択する。
- 3 [VMD] タブで、各項目を設定する。



各項目の詳細は、「[VMD] タブ (VMD (レコーダー)) の設定項目」(69 ページ) をご覧ください。

- ① [有効] にチェックマークを付ける。
- ② [VMD (レコーダー)] を選択する。
- ③ **+** (追加) をクリックする。
領域設定が追加されます。
- ④ 設定する領域設定を選択する。
- ⑤ プレビューで確認しながら、動体検知領域を作成・編集する。
ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合は、全方位画像が表示されます。

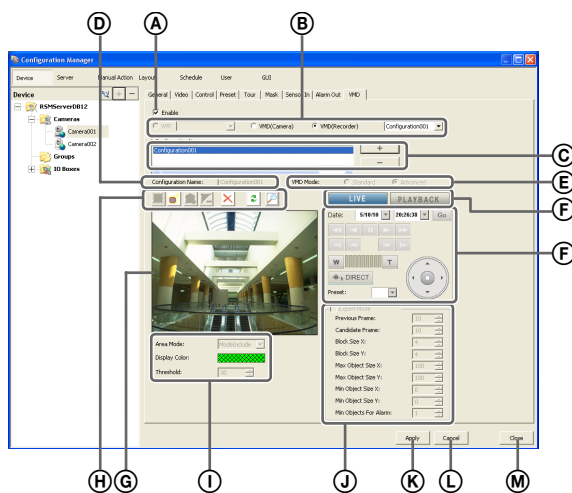
- ⑥ 標準領域設定として使用する設定を選択する。
標準領域設定は、アラーム記録スケジュールの時間外において、モニタリングやマニュアル記録などで使用されます。

- ⑦ [適用] をクリックする。

動体検知領域が設定され、VMD (レコーダー) 設定がリストに追加されます。

[VMD] タブ (VMD (レコーダー)) の設定項目

本画面は、設定画面で [デバイス] をクリックし、[VMD] タブで [VMD (レコーダー)] を選択すると表示されます。設定を変更したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



- A 有効**
動体検知機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

- B 動体検知機能の種類**
ここでは [VMD (レコーダー)] を選択します。
ここで選択した動体検知機能によって、以降の設定項目が変わります。
ドロップダウンメニューでは、標準領域設定として使用する領域設定を選択します。
標準領域設定は、アラーム記録スケジュールの時間外において、モニタリングやマニュアル記録などで使用されます。

㉟ 領域設定リスト

このカメラに設定されている領域設定が一覧表示されます。

(追加)

新規に設定を追加します。

(削除)

選択した設定を削除します。

㊱ 設定名

領域設定の名前を入力します。

ここで設定した名前は、検知領域で検知された動体をトリガーとするアラームのスケジュールを設定するときに表示されます。

㊲ VMD モード

高性能モードまたは標準モードを選択します。

モードによって性能に違いがあるため、利用環境を確認してから設定してください。

- 高性能モードに比べて標準モードの方が、同時に多くのカメラの動体検知を行えます。
- 高性能モードの方が検知精度が優れています。
- VMD モードを変更した場合、[比較画像枚数] と [検知判定回数] には各モードのデフォルト値が設定されますので、ご注意ください。

㊳ 画像制御部

プレビューに表示させる画像を制御します。

操作のしかたはメイン画面と同じです。「メイン画面の機能と使いかた」(121 ページ)をご覧ください。

㊴ プレビュー

ライブ画像または記録画像が表示されます。

㊵ ツールボタン

プレビューで画像を確認しながら動体検知領域を作成・編集します。

(エリアの作成・移動)

マウスをドラッグして長方形の領域を作成したり、領域を移動するときに使います。

(ポイントの編集)

ポイントの位置を移動して、複雑な形状の領域を作成するときに使います。

(ポイントの追加)

辺を特定の位置で分割するときに使います。

辺の上で Ctrl キーを押しながらクリックすると、領域に編集ポイントが追加されます。

(ポイントの削除)

辺の数を1つ減らすときに使います。

編集ポイントの上で Ctrl キーを押しながらクリックすると、領域の編集ポイントが削除されます。

(エリアの削除)

選択した領域を削除します。

(画像のリフレッシュ)

静止画を更新します。

(プレビュー)

動体検知領域を含むカメラのライブ映像を表示します。設定した領域でどのように検知されるかを確認できます。

① 検知領域モード

設定領域の内側を検知するか、外側を検知するかを選択します。

設定領域内の動体を検知するときは [矩形領域内] を、すべての設定領域の外側の動体を検知するときは [矩形領域外] を選択します。

表示色

ボックスをクリックし、表示されるダイアログで、動体検知枠の色を選択します。

しきい値

動体を検知するしきい値を1～100の範囲で設定します。

② エキスパートモード

詳細な設定を行うときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けると、以下の項目が設定できるようになります。

比較画像枚数

物体が移動したと判断するために、比較する元となる画像の数をフレーム数で指定します。

指定された数のフレームを使用して、検知する候補となるフレームの選出とノイズの除去を行います。

ご注意

この枚数が多くなると、ノイズの除去をしやすくなりますが、処理の負荷が増すため、処理速度が遅くなります。

検知判定回数

この値を元に、動体候補が動体と検知されるために必要な判定回数が設定されます。

検知単位（横画素数）

検知しようとする領域の横の長さを、画素数（ピクセル数）で指定します。
この値を大きくすると、横方向の動きを検知しやすくなります。

検知単位（縦画素数）

検知しようとする領域の縦の長さを、画素数（ピクセル数）で指定します。
この値を大きくすると、縦方向の動きを検知しやすくなります。

最大動体矩形（横%）

検知しようとする動体の横の長さの最大値を、%で指定します。

最大動体矩形（縦%）

検知しようとする動体の縦の長さの最大値を、%で指定します。

最小動体矩形（横%）

検知しようとする動体の横の長さの最小値を、%で指定します。

最小動体矩形（縦%）

検知しようとする動体の縦の長さの最小値を、%で指定します。

アラーム動体矩形数

アラームを通知するための動体矩形の数を指定します。

Ⓚ 適用

設定を保存します。

Ⓛ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

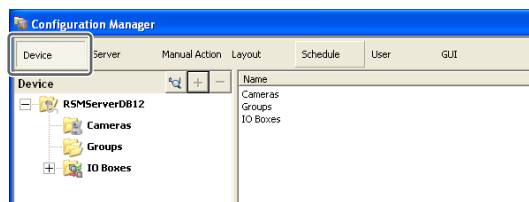
Ⓜ 閉じる

画面を閉じます。

カメラの動体検知機能を使う（VMD（カメラ））

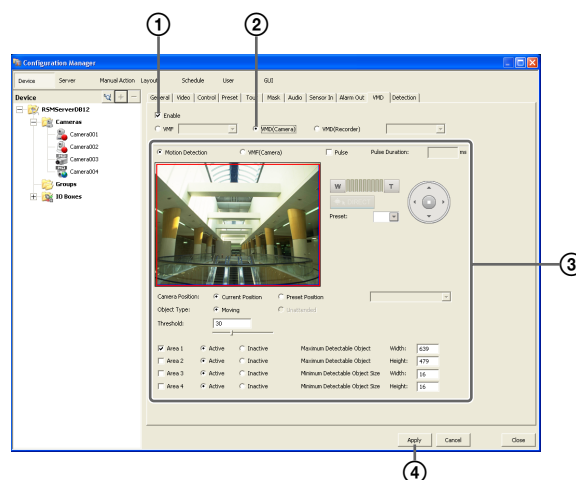
カメラによる動体、不動体検知機能（VMD（カメラ））を使用するには、以下の手順でVMD（カメラ）端子を設定し、動体検知、不動体検知エリアを設定します。
動体検知、不動体検知エリアの設定項目は、使用するカメラによって異なります。

- 1 設定画面上部にある「デバイス」をクリックする。



「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 [VMD] タブで、各項目を設定し、動体検知エリアを設定する。



各項目の詳細は、「[VMD] タブ（VMD（カメラ））の設定項目」（71 ページ）をご覧ください。

- ① [有効] にチェックマークを付ける。
- ② [VMD（カメラ）] を選択する。
- ③ プレビューで確認しながら、動体検知エリアを設定する。
- ④ [適用] をクリックする。

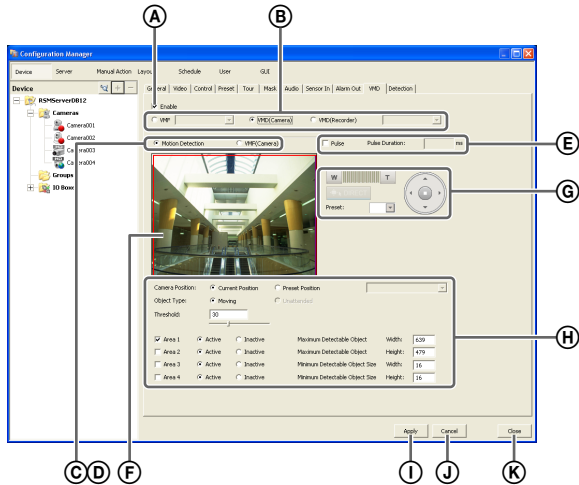
動体検知領域が設定されます。

[VMD] タブ（VMD（カメラ））の設定項目

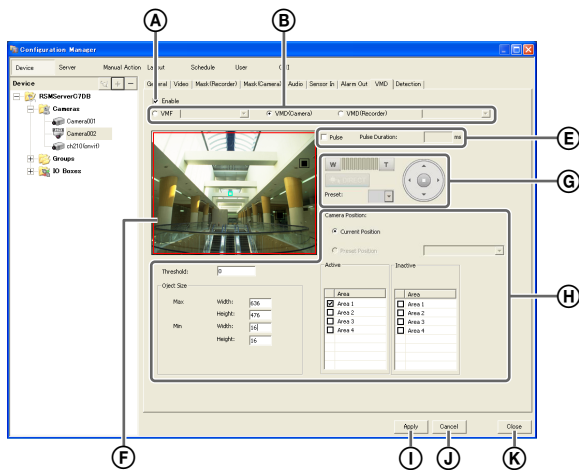
本画面は、設定画面で「デバイス」をクリックし、[VMD] タブで「VMD（カメラ）」を選択すると表示されます。
設定を変更したら、[適用] をクリックして設定を保存します。

メモ

- NSR-500 シリーズに NSBK-EB05 (オプション) を増設した場合、[VMD] タブには「VMD (カメラ)」ではなく、「VMD」と表示されます。
- ㉓、㉔ の設定項目は、使用するカメラによって異なります。



SNC-xx600 シリーズ (xx : アルファベット 2 文字) の場合



㉓ 有効

動体検知機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

㉔ 動体検知機能の種類

ここでは [VMD (カメラ)] を選択します。
ここで選択した動体検知機能によって、以降の設定項目が変わります。

㉕ 動体検知

カメラによる動体、不動体検知を行います。
ここを選択したときは、本画面で動体検知エリアなどを設定します。
SNC-xx600 シリーズ (xx : アルファベット 2 文字) の場合は設定できません。動体検知のみとなります。

㉖ VMF (カメラ)

VMF 検知機能を持つカメラの場合に、カメラ側で設定された VMF を使って動体検知を行うときに選択します。
ここを選択したときは、カメラ側の設定画面 (Web ブラウザ上) で VMF の設定を行ってください。

㉗ パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、[パルス間隔] を入力します。

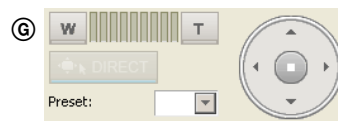
パルス間隔

VMD (カメラ) 端子の入力がオンになってから、オンの状態を継続させる期間をミリ秒単位で入力します。

㉘ プレビュー

カメラからの画像が表示されます。
以下の方法で、動体または不動体を検知するエリアを作成します。

- 画像上をマウスでドラッグし、動体または不動体を検知するエリア (赤い枠) を作成する。
エリアの各辺をドラッグすると、エリアの大きさを変更できます。
- [検知エリア] ボックスにピクセル値を入力して設定する。



パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合、領域を設定しやすいようにカメラの向きやズームを変えるときに使います。

㉙ 詳細設定

必要に応じて、詳細な設定を行います。

カメラ位置の選択

設定するカメラ位置を選択します。

現在位置

カメラがどこを向いていても、画面上の同じ場所に対して処理を行う設定をするときに選択します。

プリセット位置

プリセットごとに設定するときを選択します。
ここを選択したときは、ドロップダウンメニューからプリセットを選択し、そのプリセット位置にカメラを移動させます。

設定したプリセット位置にカメラが移動したときに、その設定が有効となります。あるプリセット位置では他のプリセット位置の設定を使用することはできません。

検知対象種別

[動体] または [不動体] を選択します。
[動体]、[不動体] によって、以下の項目が異なります。

1つの画面内では、[動体]、[不動体] のどちらか一方しか設定できません。

SNC-xx600 シリーズ (xx: アルファベット 2 文字) の場合は設定できません。動体検知のみとなります。

• 動体の場合

しきい値

動体を検知するしきい値を入力します。
しきい値を下げると、感度が上がります。

• 不動体の場合

検知時間

物体が静止してから不動体として認識され、アラームが発生するまでの時間を 40 ~ 43200 の範囲 (秒単位) で入力します。
設定した時間内で再び物体が動くと、カウントは解除されます。

で注意

不動体検知 (アラーム発生) 後、最大 1 分、他の不動体が発生してもアラームが発生しない場合があります。

検知エリア 1 ~ 検知エリア 4

各検知領域の検知 / 非検知を選択します。
SNC-xx600 シリーズ (xx: アルファベット 2 文字) の場合は、各領域の有効 / 無効を選択します。設定可能な領域の数は、カメラの機種により異なります。

最小検知対象サイズ

検知する物体の最小の大きさを入力します。または、最小検知対象サイズ設定枠 (水色) をマウスでドラッグし、大きさを設定します。各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。設定枠の削除はできません。

最大検知対象サイズ

検知する物体の最大の大きさを入力します。または、最大検知対象サイズ設定枠 (青色) をマウスでドラッグし、大きさを設定します。各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。設定枠の削除はできません。

① 適用

設定を保存します。

② キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

③ 閉じる

画面を閉じます。

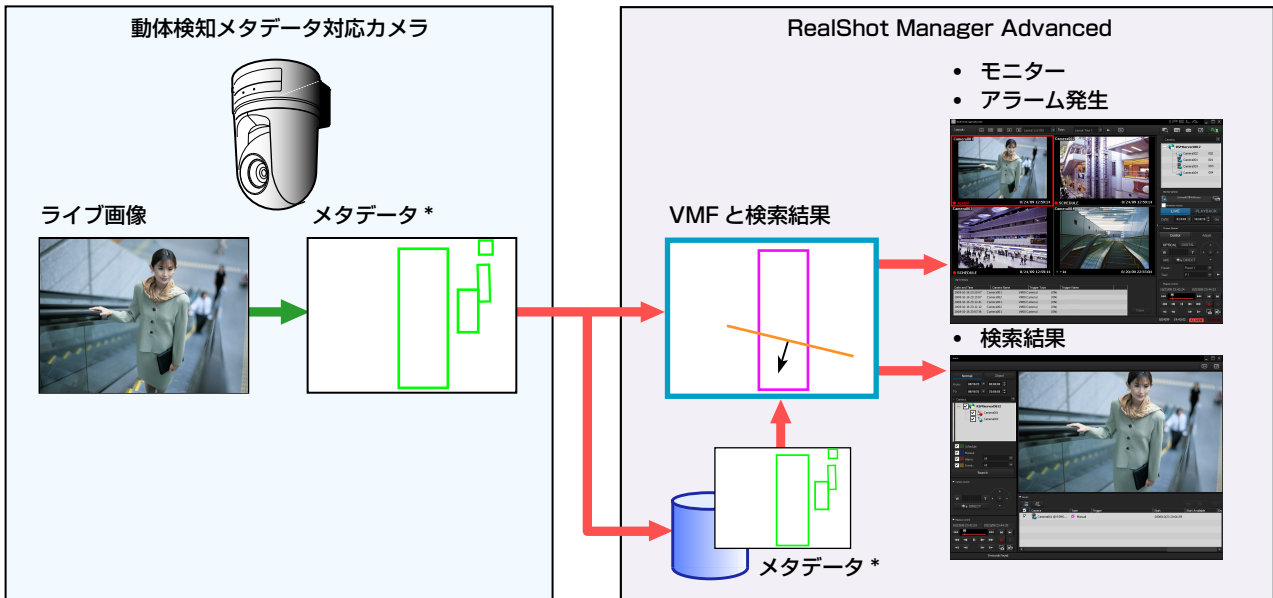
メタデータによる動体検知を行う (VMF)

動体検知メタデータ対応カメラの場合に、メタデータによる動体検知に使用する VMF (Video Motion Filter) に関する設定を行います。

VMF とは、カメラ内で生成された動体に関するメタデータから特定の現象を検出するためのフィルターです。

VMF には、動体用と不動体用があり、3つまでの VMF を1つにまとめて VMF パッケージとして管理されます。組み合わせには、順番に現象が発生することをとらえる順序型と、どれか1つのフィルターでも成立すればアラームとなる独立型があります。

カメラ画像のメタデータによる動体検知の概念



*メタデータには、時間やカメラ情報、動体の位置、種類、状態などが書かれています。

メモ

- メタデータを使用して動体、不動体検知を行う場合は、動体検知メタデータに対応しているカメラが必要です。
- 動体検知用 VMF の [存在] タイプでは、オブジェクトを検知した後、オブジェクトが存続する限りアラーム状態が保持されるため、この状態で2つ目のアラームが発生しても、アラーム記録の開始は行われません。
- VMF による不動体検知では、オブジェクトが不動体として認識された場合、その (オブジェクトに対象枠が表示される) 状態は約3時間保持されますが、アラームとして検知された (アラーム対象となり、アラーム対象枠が表示される) 状態は約10秒で解除されます。
- 1つのカメラのライブ映像に対する処理に関して、VMF パッケージは、同時には、1つのみ適用されます。
- メタデータの記録では、記録開始時点で適用されている VMF を元に、動体検知用メタデータか不動体検知用メタデータかが選択されます。判断の優先順位は、次のようになります。

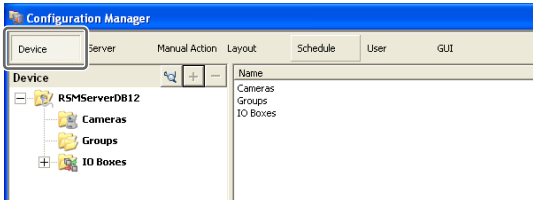
- ① アラーム記録スケジュールに指定されているものがある場合は、その VMF パッケージが動体用か不動体用かによって判断されます。
- ② VMF パッケージが指定されていない場合は、標準パッケージを元に判断されます。
- ③ 標準パッケージも指定されていない場合は、動体検知用メタデータとして記録されます。

- 記録中にパッケージの指定を変更しても、そのパッケージの記録が有効となるのは、次の記録開始時です。また、記録中に VMF を使用しない設定から使用する設定に変更しても、次の記録開始まで、メタデータは記録されません。

ご注意

不動体検知では、開始時に約40秒の初期化時間が必要です。また、動きを止めてから約40秒経過した検知物が不動体とみなされます。これらの時間は、状況によって延長されます。

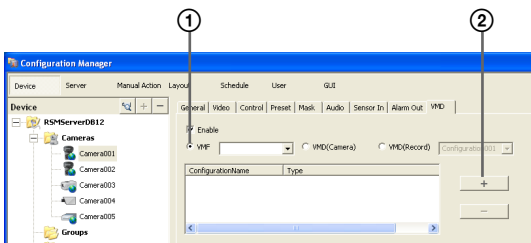
1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



「デバイス設定」画面が表示されます。

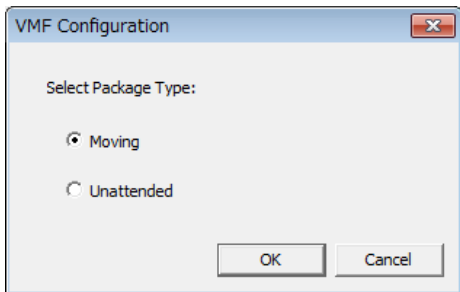
2 画面左側の [デバイス] ツリーから処理の対象となるカメラを選択する。

3 VMF パッケージを追加する。



① [VMF] にチェックマークを付ける。

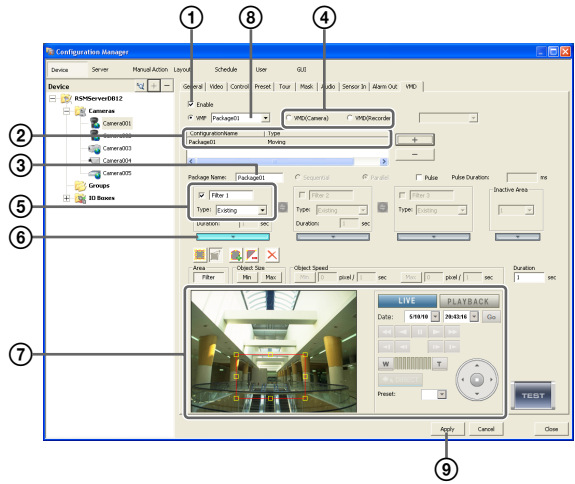
② **+** (追加) をクリックし、表示される「パッケージタイプの選択」ダイアログで、動体用のパッケージを追加するか、不動体用のパッケージを追加するかを選択し、[OK] をクリックする。



パッケージが追加されます。

4 各項目を設定し、VMF パッケージを設定する。

VMF パッケージは、パッケージが所有する3つのフィルター（検出条件）のコンビネーションと各フィルターの詳細設定、パッケージが所有する6つの非検知エリアの設定で構成されます。フィルターと非検知エリアは、以下の手順で設定します。



各項目の詳細は、「[VMD] タブ (VMF) の設定項目」(76 ページ) をご覧ください。

① [有効] にチェックマークを付ける。

② 設定するパッケージを選択する。




③ 必要に応じて、パッケージの名前を変更する。

④ フィルターの組み合わせかた ([順序型] または [独立型]) を選択します。




メモ

順序型を選択する場合は、2つ以上のフィルターを設定してください。

ご注意

順序型と独立型を切り替えるには、各フィルターと非検知エリアの  がすべてオフになっている必要があります。ボタンが  (オン) になっているときは、クリックして  (オフ) に切り替えてください。

⑤ フィルター名とフィルタータイプを設定する。

⑥  をクリックして  (オン) にする。  (オン) にすると、条件が設定できるようになります。

⑦ プレビューで確認しながら、条件を設定する。同様に、手順 ⑤ ~ ⑦ を繰り返し、残りのフィルターと非検知エリアを設定します。

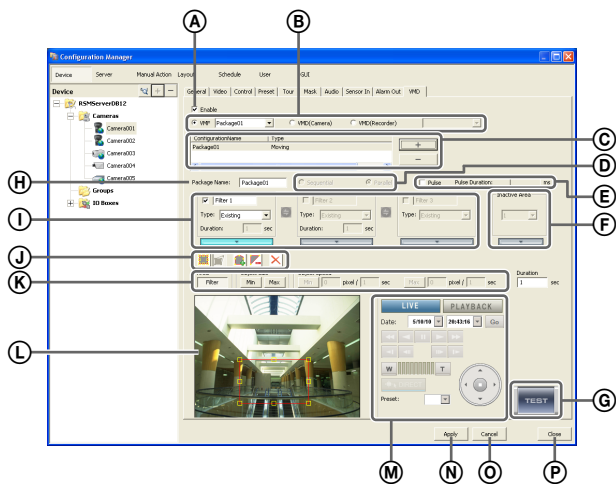
⑧ 標準パッケージとして使用するパッケージを選択する。

標準パッケージは、VMFによるアラーム記録スケジュールの時間外において、モニターやマニュアル記録などで使用されます。

⑨ [適用] をクリックする。

[VMD] タブ (VMF) の設定項目

本画面は、設定画面で [デバイス] をクリックし、[VMD] タブで [VMF] を選択すると表示されます。設定を変更したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



① 有効

動体検知機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

② 動体検知機能の種類

ここでは [VMF] を選択します。ここで選択した動体検知機能によって、以降の設定項目が変わります。

ドロップダウンメニューでは、標準パッケージとして使用するパッケージを選択します。

標準パッケージは、アラーム記録スケジュールの時間外において、モニターやマニュアル記録などで使用されます。

③ VMF パッケージリスト

このカメラに設定されている VMF パッケージが一覧表示されます。

+ (追加)

新規に VMF パッケージを追加するための「パッケージタイプの選択」ダイアログが表示されます。

- (削除)

選択した VMF パッケージを削除します。

④ 順序型

順番にフィルターを適用して、特定の現象を検出するときに選択します。

フィルターは、左から順に適用されます。

ここを選択したときは、フィルターを適用する順番や時間を設定します。

不動態検知のパッケージを設定するときは、[順序型] は設定できません。

独立型

すべての条件を同時に適用して、特定の現象を検出するときに選択します。

ご注意

順序型と独立型を切り替えるには、各フィルターと非検知エリアの がすべてオフになっている必要があります。ボタンが (オン) になっているときは、クリックして (オフ) に切り替えてください。

⑤ パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、[パルス間隔] を入力します。

パルス間隔

VMF によって動体/不動態を検知してから、その状態を持続させる期間をミリ秒単位で入力します。

⑥ 非検知エリア

非検知エリアを設定します。



(オン) にしてから、④のエリアで非検知エリアを作成します。

クリックすると、 (オン) /



(オフ) が切り替わります。

⑦ TEST (プレビュー)

設定したパッケージを用いたフィルタリングを実行し、動作を確認するときに使います。

⑧ パッケージ名

パッケージの名前を入力します。

⑨ Filter 1

このフィルターを有効にするときは、フィルター名の先頭にチェックマークを付けます。

必要に応じて、フィルター名を変更できます。

タイプ

フィルタータイプを選択します。

フィルターは、パッケージタイプ（「動体用」または「不動体用」）によって設定できる種類が異なります。

■動体用

出現

条件に合致する物体が設定したエリア内に出現したことを検出します。

アラーム検知後、動体がエリア内に残っていても、アラームは1秒で解除されます。

消失

条件に合致する物体が設定したエリア内から消えたことを検出します。

存在

条件に合致する物体が設定したエリア内に滞留していることを検出します。

数量

条件に合致する物体の数が設定したエリア内で指定数を超えたことを検出します。

通過

条件に合致する物体が設定したラインを通過したことを検出します。

■不動体用

不動体／持ち去り

不動体または物体が持ち去られたことを検出します。

期間

[順序型] を選択した場合に、左側のフィルターを適用している期間（次のフィルターに移行するまでの時間）を秒単位で入力します。



(オン) にしてから、①のエリアでフィルターを作成します。

クリックすると、 (オン) /

(オフ) が切り替わります。



左右のフィルターの順番を入れ替えます。

④ ツールボタン

プレビューで画像を確認しながらフィルターや非検知エリアを作成・編集します。

メモ

- 八角形までの凸型の多角形を設定できます。
- フィルタータイプが [通過] のときは、物体の通過を検知する方向を設定します。終点を設定した後、ラインの中点付近をクリックし、方向を示す矢印を表示させて設定します。矢印の向きは、クリックするたびに、双方向 → 右向き → 左向き → 双方向…と変わります。



(エリアの作成・移動)

マウスをドラッグして長方形の領域を作成したり、領域を移動するときに使います。



(ポイントの編集)

ポイントの位置を移動して、複雑な形状の領域を作成するときに使います。



(ポイントの追加)

辺を特定の位置で分割するときに使います。

辺の上で Ctrl キーを押しながらクリックすると、領域に編集ポイントが追加されます。



(ポイントの削除)

辺の数を1つ減らすときに使います。

編集ポイントの上で Ctrl キーを押しながらクリックすると、領域の編集ポイントが削除されます。



(エリアの削除)

選択した領域を削除します。

⑤ 検知エリア

[フィルター] をオンにすると、ドラッグ&ドロップでフィルターの枠や線が描けるようになります。

対象サイズ

検知する物体の大きさを設定します。

最小

検知する物体の最小の大きさを設定します。

[最小] をオンにしてから、設定画面上に表示される赤色の枠をマウスでドラッグし、大きさを変更してください。

最大

検知する物体の最大の大きさを設定します。

[最大] をオンにしてから、設定画面上に表示される赤色の枠をマウスでドラッグし、大きさを変更してください。

対象速度

検知する物体の速度を設定します。

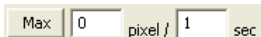


[最小] をクリックし、検知する物体の最小速度を入力します。

設定画面上をマウスでドラッグして線分を描くと、[pixel] 欄に数値が入力されます。その距離を何秒で移動するかを設定してください。

また、初期状態では、最小速度はシステム上の最小値に設定されています。

一度設定を変更した後に最小値に戻す場合、速度を示す図形をクリックした後、[最小] をクリックしてください。



[最大] をクリックし、検知する物体の最大速度を入力します。

設定画面上をマウスでドラッグして線分を描くと、[pixel] 欄に数値が入力されます。その距離を何秒で移動するかを設定してください。

また、初期状態では、最大速度はシステム上の最大値に設定されています。

一度設定を変更した後に最大値に戻す場合、速度を示す図形をクリックした後、[最大] をクリックしてください。

■ 期間 (フィルタータイプが [存在]、[不動態/持ち去り] の場合)

フィルタータイプが [存在] の場合は、物体が動体として認識されてからアラームが発生するまでの時間を入力します。初期値は1です。

[不動態/持ち去り] の場合は、不動態であると認識された時点から、アラームが発生するまでの時間を入力します。

メモ

- 不動態検知では、開始時に約 40 秒の初期化時間が必要です。
- 物体が不動態として認識されると、約 3 時間、不動態として認識され続け、オブジェクト枠が表示され続けます。

■ 対象数 (フィルタータイプが [数量] の場合)

設定したエリア内に物体が何個以上検知されたときにアラームを発生させるかを入力します。

■ 判定部分 (フィルタータイプが [通過] の場合)

物体の重心、またはどの辺の中心がラインを越えたときにアラームを発生させるかを選択します。

① プレビュー

ライブ画像または記録画像が表示されます。

② 画像制御部

プレビューに表示させる画像を制御します。操作のしかたはメイン画面と同じです。「メイン画面の機能と使いかた」(121 ページ)をご覧ください。

③ 適用

設定を保存します。

④ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

⑤ 閉じる

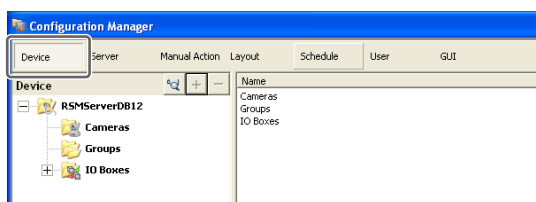
画面を閉じます。

カメラ妨害検知と音圧検知の設定をする

カメラ妨害検知機能を持つカメラの場合に、カメラの向きを変える、スプレーを噴霧するなどの妨害行為を検知する機能を設定できます。また、音圧検知機能を持つカメラの場合は、カメラに接続したマイクを通じてカメラ周辺の音声を拾い、ある一定のしきい値を超えた場合に検知する機能も設定できます。

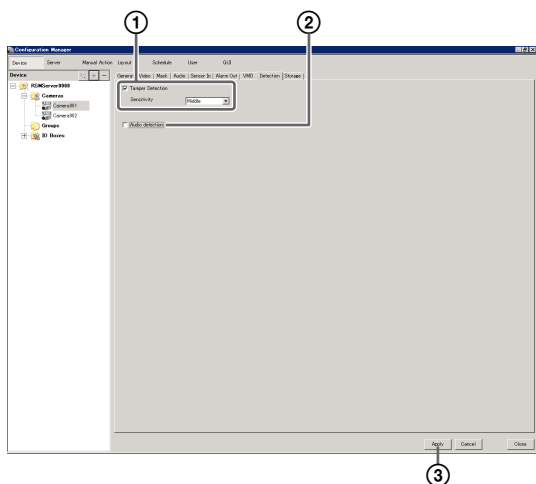
本機能は、カメラに対する妨害行為を検知したときに出力するアラームを、連動するアラームとして使用するときに設定します。

- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 画面左側の [デバイス] ツリーからカメラを選択する。
- 3 [Detection] タブで、各項目を設定する。



- ① カメラの妨害検知機能を設定する場合は、[妨害検知] にチェックマークを付け、カメラに対する妨害行為を検知する感度を設定する。
[High]、[Middle]、[Low] から選択します。
機種によっては、妨害検知のレベルが設定できない場合があります。

- ② カメラの音圧検知機能を設定する場合は、[音圧検知] にチェックマークを付ける。
ソニー製 360度全方位型ネットワークカメラの場合は、この項目は表示されません。
- ③ [適用] をクリックする。
カメラ妨害検知機能や音圧検知機能が設定されます。

Edge Storage の設定 をする

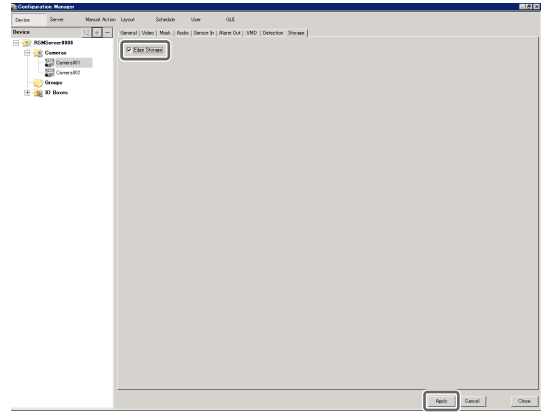
Edge Storage 機能を持つカメラの場合に、カメラの Edge Storage 保存されている画像をダウンロードする機能を設定できます。

本機能を設定すると、記録スケジュールの期間中に VIDEO LOSS が生じた場合、カメラの Edge Storage 画像を記録し、復帰後に記録データを Edge Storage 取得できます。

メモ

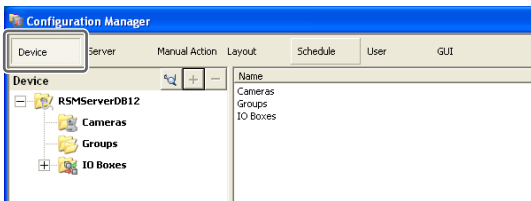
Edge Storage 機能を使用する際には、映像設定の調整が必要な場合があります。詳しくは、カメラのリリースノートをご覧ください。

- 3 [ストレージ] タブで、[Edge Storage] にチェックマークを付け、[適用] をクリックする。



Edge Storage 機能が設定されます。

- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 画面左側の [デバイス] ツリーからカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

メモ

複数のカメラを選択した場合に、Edge Storage に対応していないカメラが含まれているときは、[ストレージ] タブは表示されません。

ストレージに関する設定をする

カメラの画像データや音声データの保存場所であるストレージを設定できます。

ストレージは、最大32個まで設定でき、ストレージごとに記録するファイルの最大サイズなどを設定できます。

また、ストレージには以下のモードがあり、記録データを分類して保存できます。

• [記録種別] モード

スケジュール記録やアラーム記録など、記録種別ごとにストレージを指定できます。

• [カメラ] モード

カメラごとに記録データを保存するストレージを指定できます。

メモ

- パフォーマンスの低下を防ぐため、システムエリアとストレージを別ドライブにするか、パーティションを分けて設定することをおすすめします。
- ネットワークドライブを使用する場合は、あらかじめ「セットアップメニュー」でネットワークドライブの設定を行っておく必要があります。詳しくは、「「セットアップメニュー」で初期設定を変更する」(23ページ)をご覧ください。

ストレージの設定をする

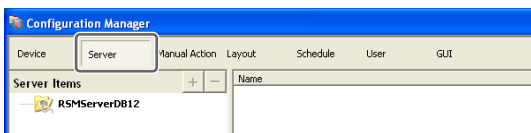
新規にストレージを追加し、ストレージに保存する記録データを指定します。

新規にストレージを追加する

メモ

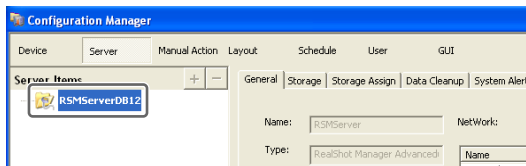
RealShot Manager Advanced (Client) から、NSR-1000 シリーズや NSR-500 シリーズ、RealShot Manager Advanced (Server) のストレージを追加したり、削除することはできません。

- 1 設定画面上部にある [サーバー] をクリックする。

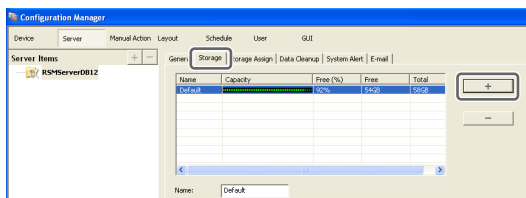


「サーバー設定」画面が表示されます。

- 2 画面左側の [サーバー] ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択する。

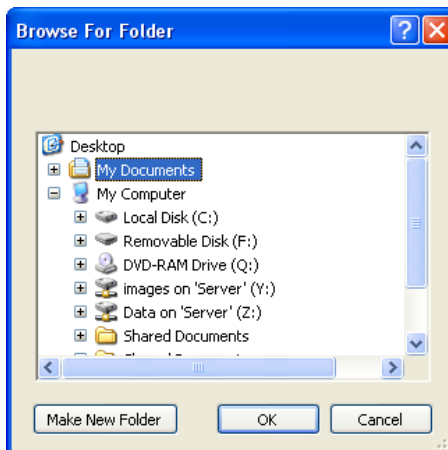


- 3 [ストレージ] タブで、リストの右側にある **+** (ストレージの追加) をクリックする。



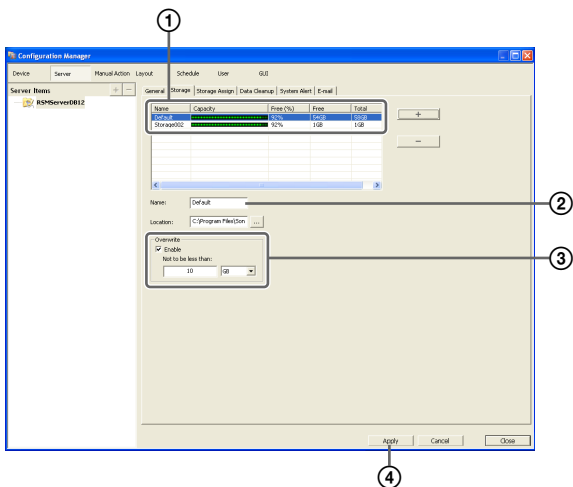
「ストレージの追加」ダイアログが表示されます。

- 4 ストレージを追加する場所を選択し、[OK] をクリックする。



リストにストレージが追加されます。

5 各項目を設定し、[適用] をクリックする。



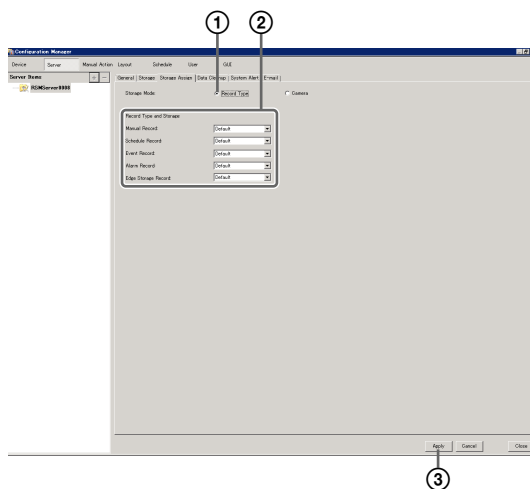
各項目の詳細は、「[ストレージ] タブの設定項目」(83 ページ) をご覧ください。

- ① 設定したいストレージを選択する。
- ② ストレージの名前を入力する。
- ③ 必要に応じて、データの上書きに関する設定をする。
- ④ [適用] をクリックする。
ストレージが追加されます。

記録種別ごとに保存するストレージを設定する（[記録種別] モード）

手動記録やスケジュール記録、アラーム記録など、記録種別ごとにストレージを指定できます。

- 1 [サーバー] ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択し、[ストレージ割り当て] タブをクリックする。
- 2 各項目を設定し、[適用] をクリックする。



各項目の詳細は「[ストレージ割り当て] タブの設定項目」(84 ページ) をご覧ください。

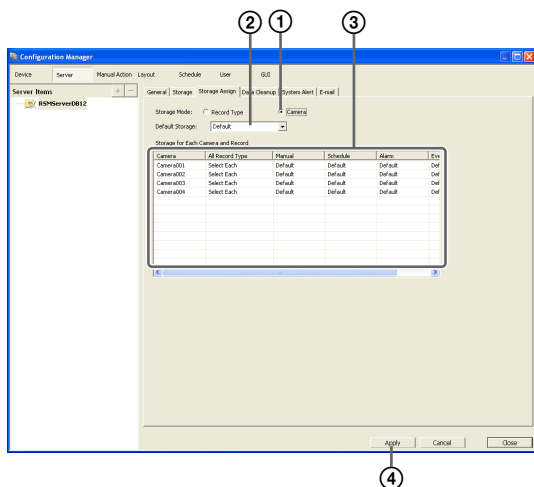
- ① [記録種別] を選択する。
- ② 記録種別ごとにストレージを選択する。
- ③ [適用] をクリックする。
記録データごとにストレージが設定されます。

カメラごとにストレージを設定する（[カメラ] モード）

カメラごとに記録データを保存するストレージを指定できます。

すべての記録データを1つのストレージに保存することも、記録種別ごとに保存するストレージを指定することもできます。

- 1 [サーバー] ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択し、[ストレージ割り当て] タブをクリックする。
- 2 各項目を設定し、[適用] をクリックする。

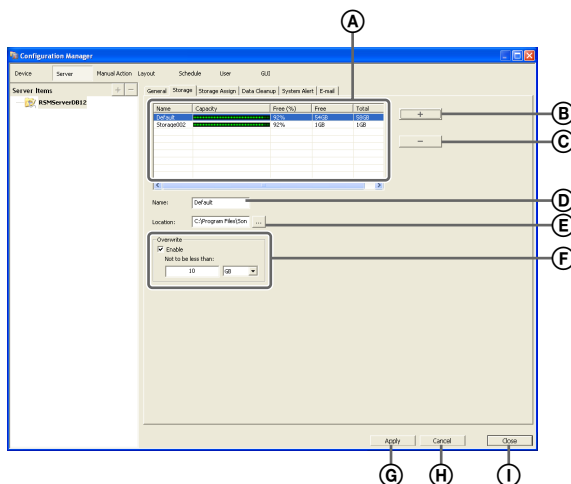


各項目の詳細は、「[ストレージ割り当て] タブの設定項目」（84 ページ）をご覧ください。

- ① [カメラ] を選択する。
- ② デフォルトのストレージを選択する。
- ③ カメラごとにストレージを選択する。
- ④ [適用] をクリックする。
記録データごとにストレージが設定されます。

[ストレージ] タブの設定項目

本画面は、設定画面で [サーバー] をクリックし、[ストレージ] タブをクリックすると表示されます。各項目を設定したら、[適用] をクリックします。



① ストレージリスト

[サーバー] ツリーで選択したサーバーに設定されているストレージが一覧表示されます。

名前

ストレージの名前が表示されます。

容量 (%)

ストレージの容量が表示されます。

残り容量 (%)

空き領域を%で表示します。

残り容量

空き領域を表示します。

総容量

このストレージの総容量を表示します。

② + (ストレージの追加)

新規にストレージを追加します。

③ - (ストレージの削除)

リストで選択したストレージを削除します。

④ ご注意

ストレージを削除すると、内部のデータもすべて失われます。

⑤ 名前

リストで選択したストレージの名前を入力します。

ネットワークドライブを使用する場合は、容量管理を正しく動作させるため、サーバーごとに記録先のパーティションを分けてください。

㊦ 場所

記録データを保存する場所（パス）が表示されます。
この項目は変更できません。

㊧ データ上書き

常にストレージの容量を確保するために、経過日数に関係なく、古いデータから削除していくときに設定します。

有効

データ上書き機能を有効にするときにチェックマークを付けます。
ストレージの空き容量が指定の容量を下回りそうになると、自動的に古い記録内のファイルから削除します。

最小値

空き容量の最低限度を%またはGBで入力します。

㊨ 適用

設定を保存します。

㊩ キャンセル

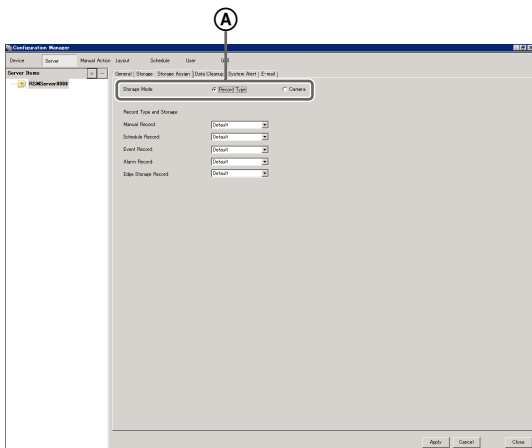
設定の変更をキャンセルします。

① 閉じる

画面を閉じます。

【ストレージ割り当て】タブの設定項目

本画面は、設定画面で [サーバー] をクリックし、[ストレージ割り当て] タブをクリックすると表示されます。各項目を設定したら、[適用] をクリックします。



㊦ ストレージモード

ストレージに保存する記録データの指定方法を選択します。

ここでの選択によって、設定項目が変わります。

記録種別

スケジュール記録やアラーム記録など、記録種別ごとにストレージを指定するときに選択します。

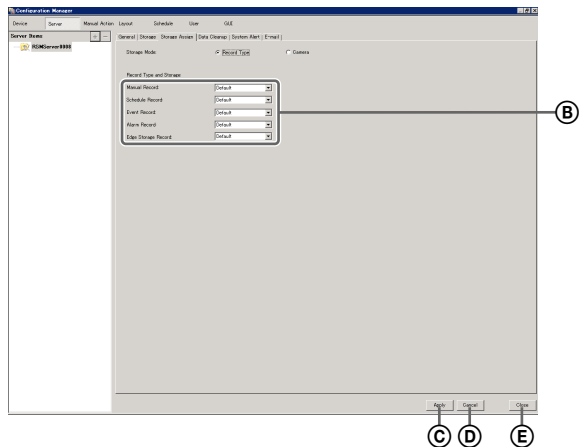
カメラ

カメラごとに記録データを保存するストレージを指定するときに選択します。

■記録種別ごとにストレージを割り当てる場合

㊦ 記録種別とストレージ

記録種別ごとにストレージを選択します。



マニュアル記録

マニュアル記録を保存するストレージを選択します。

スケジュール記録

スケジュール記録を保存するストレージを選択します。

イベント記録

イベント記録を保存するストレージを選択します。

アラーム記録

アラーム記録を保存するストレージを選択します。

Edge Storage 記録

カメラの Edge Storage から取得した記録データを保存するストレージを選択します。

㊨ 適用

設定を保存します。

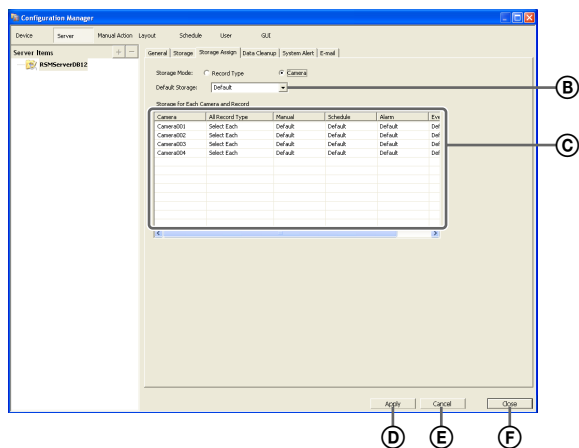
㊩ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

① 閉じる

画面を閉じます。

■カメラごとにストレージを割り当てる場合



Ⓑ デフォルトストレージ

記録データの標準の保存先を選択します。

Ⓒ カメラ・記録種別とストレージ

カメラと記録種別ごとにストレージを指定します。設定項目をクリックし、表示されるリストから選択してください。

カメラ

RealShot Manager Advanced に登録されているカメラが一覧表示されます。

この項目は変更できません。

全ての記録タイプ

すべての記録タイプの記録データを1つのストレージに記録するときは、記録したいストレージを選択します。

記録種別ごとにストレージを指定するときは、[Select Each] を選択します。

マニュアル

マニュアル記録を保存するストレージを選択します。

スケジュール

スケジュール記録を保存するストレージを選択します。

アラーム

アラーム記録を保存するストレージを選択します。

イベント

イベント記録を保存するストレージを選択します。

Edge Storage

カメラの Edge Storage から取得した記録データを保存するストレージを選択します。

Ⓓ 適用

設定を保存します。

Ⓔ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

Ⓕ 閉じる

画面を閉じます。

記録データの削除に関する設定をする

ストレージに保存されている記録データの削除には、次の方法があります。

• データ上書き (85 ページ)

ディスクの空き容量を常に確保しておくために、経過日数に関係なく、古いデータから自動的に削除します。

• クリーンアップ (86 ページ)

記録データの保存日数を設定し、その日数を超えたデータを自動的に削除します。

• 手動で削除する (137 ページ)

削除する記録データを指定して手動で削除します。

データ上書き

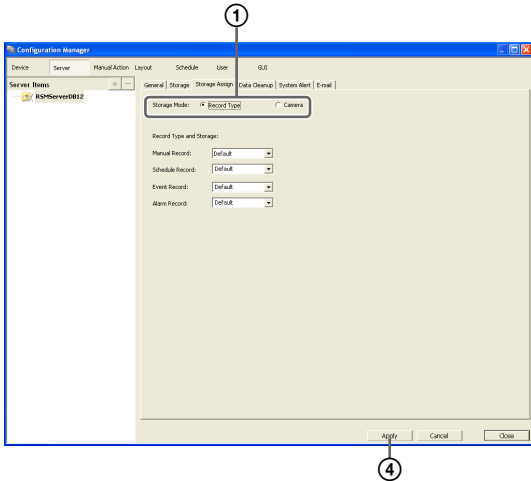
ディスクの空き容量を常に確保しておくために、経過日数に関係なく、古いデータから自動的に削除します。データ上書きは、記録先ごとに設定できます。

【注意】

- 保存しておきたい画像の容量がストレージに充分記録できることを見積もった上で最小値を設定してください。
- データ上書き機能が設定されているとき、再生中のファイルが削除対象になった場合は、再生が停止し、ファイルが削除されます。
- 午前 00:00:00 をまたいだ周期的なスケジュールを設定することはできません。
- 開始時刻：23:00:00、終了時刻：01:00:00 に設定したい場合は、00:00:00 で分けて、次のようにスケジュールを設定してください。
例) 開始時刻：23:00:00 終了時刻：23:59:59
開始時刻：00:00:00 終了時刻：01:00:00
- 通常記録の記録データに対してデータ上書きが行われると、1レコード内の複数のファイルが一度に削除されるため、特定のカメラの記録だけが一度に削除されてしまうことがあります。以下の設定にすることにより、複数カメラの記録データをより均一に削除することができます。
- 通常記録の周期的なスケジュールで、1日最低1秒の空白を入れる
例) 開始時刻：00:00:00 終了時刻：23:59:59

- 1秒の空白を入れる場合も、午前 00:00:00 をまたいだスケジュールを設定することはできません。00:00:00 で分けたスケジュールを設定してください。

- 1 [サーバー] ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択し、[ストレージ] タブをクリックする。
- 2 各項目を設定し、[適用] をクリックする。



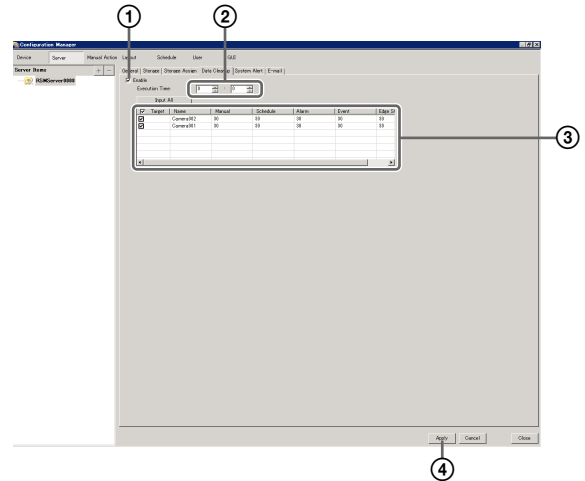
- ① 設定したいストレージを選択する。
- ② [有効] にチェックマークを付ける。
- ③ 空き容量の最低限度を%またはGBで入力します。
- ④ [適用] をクリックする。
上書きが設定されます。

クリーンアップ

ディスクの空き容量を確保しておくために、記録データの保存日数を設定し、その日数を超えたデータを自動的に削除します。保存日数は、すべてのカメラに対して同じ設定にすることも、個別に設定することもできます。

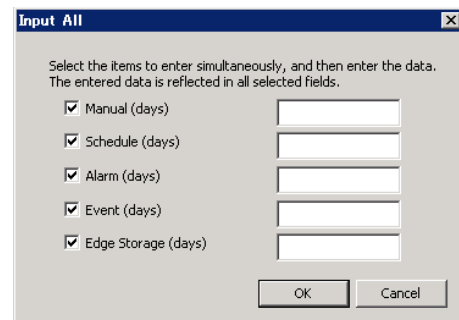
- 1 [サーバー] ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択する。

- 2 [データ削除] タブで、各項目を設定し、[適用] をクリックする。



各項目の詳細は、「[データ削除] タブの設定項目」(87 ページ)をご覧ください。

- ① [有効] にチェックマークを付ける。
- ② クリーンアップを実行する時刻を設定する。
- ③ クリーンアップの対象となるカメラにチェックマークを付け、各記録データの保存日数を日単位で入力する。
すべてのカメラに同じ設定をするときは、[一括入力] をクリックし、表示される「一括入力」ダイアログで保存日数を設定します。

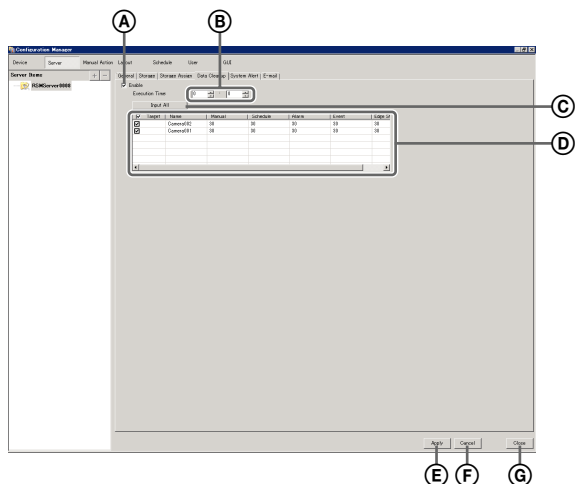


- ④ [適用] をクリックする。
クリーンアップが設定されます。

【データ削除】タブの設定項目

本画面は、設定画面で [サーバー] をクリックし、[データ削除] タブをクリックすると表示されます。

各項目を設定したら、[適用] をクリックします。



Ⓐ 有効

クリーンアップ機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

Ⓑ 実施時刻

クリーンアップを実行する時刻を設定します。

Ⓒ 一括入力

すべてのカメラに同じ設定をするための「一括入力」ダイアログを表示します。

Ⓓ クリーンアップ設定リスト

クリーンアップの設定が一覧表示されます。

対象

クリーンアップの対象となるカメラにチェックマークを付けます。

カメラ

RealShot Manager Advanced に登録されているカメラ名が表示されます。

マニュアル (日)

マニュアル記録の保存日数を日単位で入力します。

スケジュール (日)

スケジュール記録の保存日数を日単位で入力します。

アラーム (日)

アラーム記録の保存日数を日単位で入力します。

イベント (日)

イベント記録の保存日数を日単位で入力します。

Edge Storage (日)

Edge Storage 記録の保存日数を日単位で入力します。

Ⓔ 適用

設定を保存します。

Ⓕ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

Ⓖ 閉じる

画面を閉じます。

記録スケジュールを設定する

カメラごとに記録のスケジュールを設定し、定期的に記録を行ったり、アラームやイベントが発生したときに記録を開始するように設定できます。

スケジュールには、以下の種類があります。

- **スケジュール記録（通常記録）**

設定したスケジュールに従って、カメラからの画像を記録します。

- **アラーム記録**

スケジュールを設定した期間内にアラームが発生したときにだけ記録を開始します。

- **イベント記録**

スケジュールを設定した期間内にイベントが発生したときにだけ記録を開始します。

スケジュールは、以下の方法で設定できます。

- **手動でスケジュールを設定する（88ページ）**

スケジュール記録やアラーム記録、イベント記録を実行する期間を手動で設定できます。期間の設定方法には、1週間単位でスケジュールを繰り返す「周期的なスケジュール」と、スケジュールを実行する日時を指定する「日時指定のスケジュール」があります。

- **アラーム記録／イベント記録を設定する（90ページ）**

スケジュールを設定した期間内にアラームまたはイベントが発生したときにだけ記録を開始するアラーム記録／イベント記録を設定できます。

で注意

アラーム記録やイベント記録を設定する前に、アラームのトリガーとなる入力端子や動体検知機能を設定しておいてください。設定方法は、「動体検知の設定をする」（68ページ）、「センサー入力の設定をする」（96ページ）をご覧ください。

長期間継続記録におけるレコード分割処理について

長期間継続して記録を行っている場合（毎日0:00～24:00の連続記録を長期間行っているような場合）、記録レコードの構成ファイル数が10,000¹⁾を超えることがあります。構成ファイル数が10,000を超えた場合は、記録レコードが分割され、以降のデータは新しいレコードとして記録されます。レコードが分割されると、検索などでは別のレコードとして表示されます。

1) ファイル数「10,000」とは、記録開始からのすべてファイル数です。クリーンアップやデータ上書き機能によって削除されたファイルも含まれます。

分割される期間は、フレームレートや解像度によって異なります。

例)

条件	コーデック	: JPEG
	解像度	: VGA
	フレームレート	: 10 fps
	画質	: レベル 5
分割までの期間	約 19 日	

長期間連続して記録する場合は、1日につき1秒の空白時間を入れるスケジュールを設定し、記録レコードを分割することをおすすめします。詳しくは、「手動でスケジュールを設定する」（88ページ）をご覧ください。

手動でスケジュールを設定する

スケジュール記録やアラーム記録、イベント記録を実行する期間を手動で設定できます。

メモ

スケジュール記録やアラーム記録、イベント記録時にカメラから取り込む画像のコーデックやフレームレートなどの設定については、「カメラの映像設定をする」（44ページ）をご覧ください。

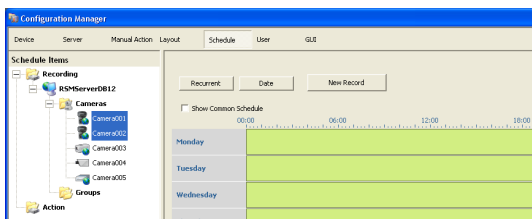
周期的なスケジュールを設定する

1週間単位でスケジュールを繰り返す「周期的なスケジュール」を設定できます。

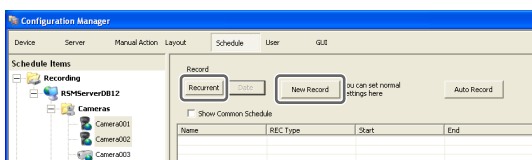
- 1 「スケジュール」画面の「スケジュール」ツリーからスケジュールを設定したいカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

「共通スケジュールの表示」にチェックマークを付けると、左のカメラツリーで選択されているすべてのカメラで共通のスケジュールのみが表示されます。



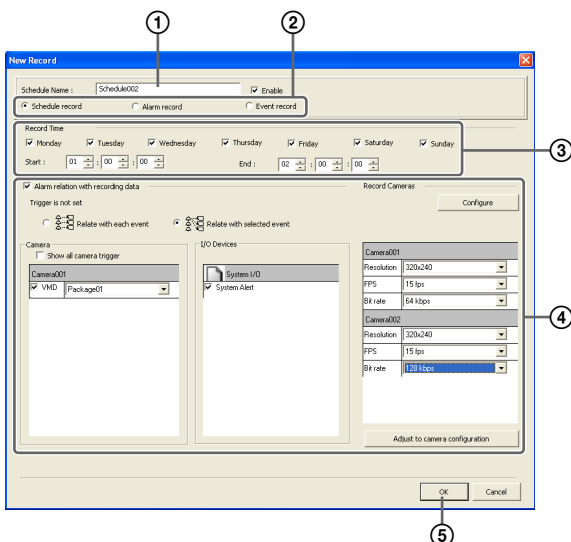
- 2 「周期」をクリックし、周期表示に切り替えてから、「新規記録」をクリックする。



「新規記録」ダイアログが表示されます。

- 3 各項目を設定し、「OK」をクリックする。

スケジュールの種類によって、設定項目が異なります。画面例) スケジュール記録の場合



各項目の詳細は、「「新規記録」ダイアログの設定項目」(93 ページ) をご覧ください。

- ① スケジュールの名前を入力する。
- ② スケジュールの種類を選択する。
- ③ スケジュールを実行する曜日にチェックマークを付け、スケジュールの開始時刻と終了時刻を設定する。
- ④ 必要に応じて、各項目を設定する。
アラーム記録／イベント記録のときの設定手順については、「アラーム記録／イベント記録を設定する」(90 ページ) をご覧ください。
- ⑤ [OK] をクリックする。
スケジュールが作成されます。

- 4 「適用」をクリックする。

スケジュールが保存されます。

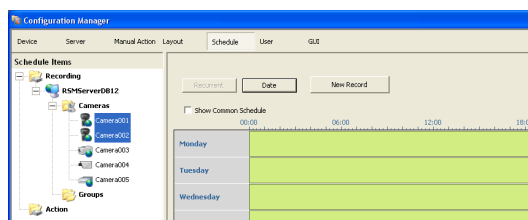
スケジュールの見かたは、「「スケジュール」画面の詳細」(92 ページ) をご覧ください。

日時指定のスケジュールを設定する

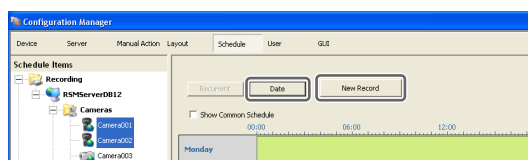
スケジュールを実行する日時を指定する「日時指定のスケジュール」を設定できます。周期的なスケジュールとの違いは、開始と終了の日時の指定方法だけです。

- 1 「スケジュール」画面の「スケジュール」ツリーからスケジュールを設定したいカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。



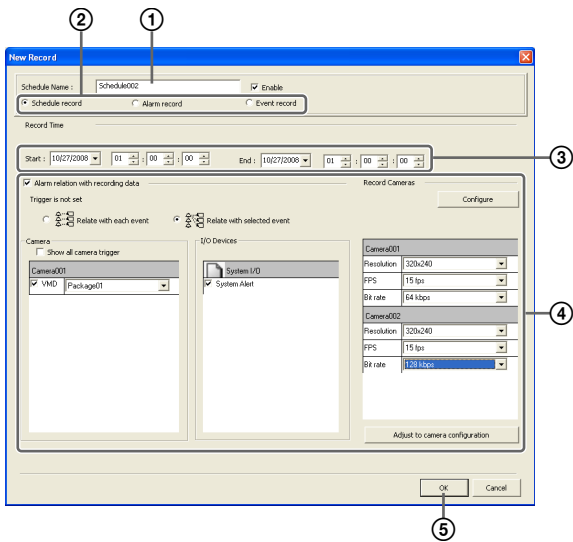
- 2 「日時」をクリックし、日時表示に切り替えてから、「新規記録」をクリックする。



「新規記録」ダイアログが表示されます。

3 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

スケジュールの種類によって、設定項目が異なります。
画面例) スケジュール記録の場合



各項目の詳細は、「[新規記録]ダイアログの設定項目」
(93 ページ) をご覧ください。

- ① スケジュールの名前を入力する。
- ② スケジュールの種類を選択する。
- ③ スケジュールの適用を開始する日時と終了する日時を設定する。
- ④ 必要に応じて、各項目を設定する。
アラーム記録/イベント記録のときの設定手順については、「アラーム記録/イベント記録を設定する」
(90 ページ) をご覧ください。
- ⑤ [OK] をクリックする。
スケジュールが作成されます。

4 [適用] をクリックする。

スケジュールが保存されます。

スケジュールの見かたは、「[スケジュール]画面の詳細」
(92 ページ) をご覧ください。

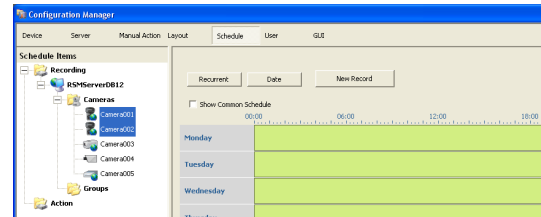
アラーム記録/イベント記録を設定する

スケジュールを設定した時間内にアラームまたはイベントが発生したときにだけ記録を開始するアラーム記録/イベント記録を設定できます。

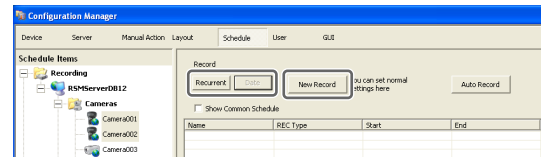
詳しくは、「アラーム発生時のセンサーとカメラの関係について」(91 ページ) をご覧ください。

1 「スケジュール」画面のツリーからスケジュールを設定したいカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。



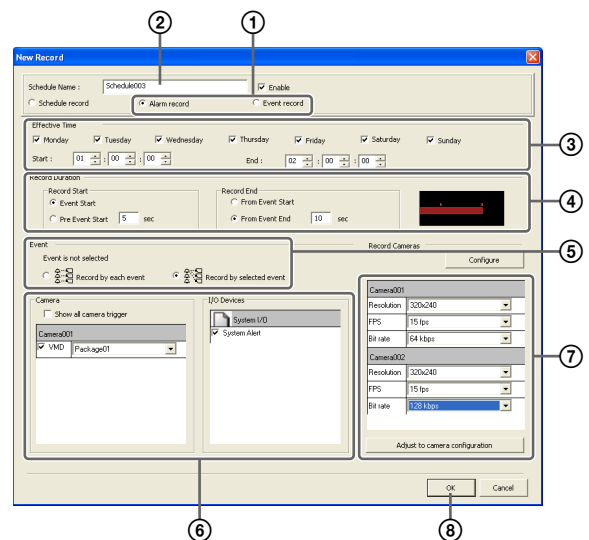
2 [周期] または [日時] をクリックし、設定したいスケジュールの表示に切り替えてから、[新規記録] をクリックする。



[新規記録]ダイアログが表示されます。

3 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

スケジュールの種類によって、設定項目が異なります。
画面例) アラーム記録 (周期的なスケジュール)



各項目の詳細は、「[新規記録]ダイアログの設定項目」
(93 ページ) をご覧ください。

- ① [アラーム記録] または [イベント記録] を選択する。
- ② スケジュールの名前を入力する。
- ③ スケジュールを実行する曜日と時刻、またはスケジュールを実行する期間を設定する。
- ④ 記録を開始する条件と記録を終了する条件を指定し、記録期間を設定する。
- ⑤ アラーム記録の場合は、[それぞれのアラームで記録] または [選択されたアラームで記録] を選択する。
 - [それぞれのアラームで記録] を選択したときは、選択したカメラ自身の入力端子をトリガーに記録を開始します。
 - [選択されたアラームで記録] を選択したときは、設定されているすべての入力端子をトリガーにして、選択したすべてのカメラで記録が開始されます。
 詳しくは、「アラーム発生時のセンサーとカメラの関係について」(91 ページ) をご覧ください。
- ⑥ [それぞれのアラームで記録] を選択したときは、アラーム記録のトリガーとなるカメラや I/O デバイスの入力端子を設定する。
「イベント記録」を選択しているときは、手順⑤、⑥の「アラーム」を「イベント」に読み替えてください。
- ⑦ 画像を記録するカメラを設定する。
- ⑧ [OK] をクリックする。
スケジュールが作成されます。

4 [適用] をクリックする。

スケジュールが保存されます。

スケジュールの見かたは、「[スケジュール] 画面の詳細」(92 ページ) をご覧ください。

設定内容を変更する

- 1 「スケジュール設定」画面の [スケジュール] ツリーから設定を変更したいカメラを選択する。
- 2 周期表示または日付表示にする。

- 3 設定を変更したいバー（周期表示）またはスケジュール（日付表示）を選択し、[編集] をクリックする。

「スケジュール設定」ダイアログが表示されます。

- 4 各項目を設定しなおす。

設定項目については、「[新規記録]ダイアログの設定項目」(93 ページ) をご覧ください。

- 5 [適用] をクリックする。

設定が保存されます。

スケジュールを削除する

- 1 「スケジュール設定」画面の [スケジュール] ツリーから削除したいスケジュールを選択する。

- 2 [削除] をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

- 3 [OK] をクリックする。

スケジュールが削除されます。

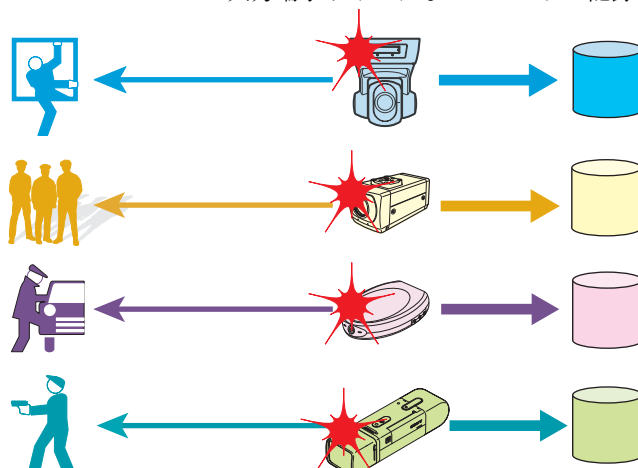
アラーム発生時のセンサーとカメラの関係について

【それぞれのイベントで記録】の場合

選択したカメラ自身の入力端子をトリガーに記録を開始します。

例えば、画像を記録するカメラにカメラ A とカメラ B を選択し、トリガーにカメラ A の動体検知とカメラ B のセンサー入力を設定した場合、カメラ A の動体検知が発生したときはカメラ A で、カメラ B のセンサー入力がオンになったときはカメラ B で記録が開始されます。

入力端子がオンになったカメラで記録

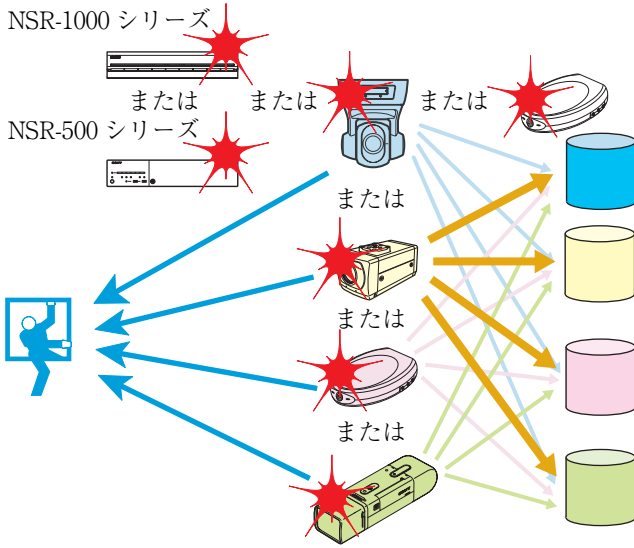


【選択されたイベントで記録】の場合

設定されているすべての入力端子をトリガーにして記録を開始します。どの入力端子がオンになっても、選択したすべてのカメラで記録が開始されます。

例えば、画像を記録するカメラにカメラ A とカメラ B を選択し、トリガーにカメラ A の動体検知とカメラ B のセンサー入力を設定した場合、カメラ A の動体検知が発生しても、カメラ B のセンサー入力がオンになっても、両方のカメラで記録が開始されます。

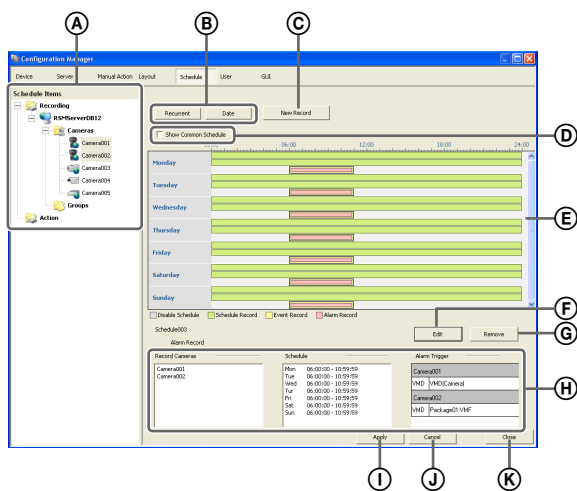
どの入力端子がオンになっても、全てのカメラで記録



「スケジュール」画面の詳細

本画面は、設定画面で [スケジュール] をクリックすると表示されます。

画面例) 周期的なスケジュール (周期表示) の場合



① [スケジュール] ツリー

カメラがツリー形式で一覧表示されます。

ツリーでカメラを選択すると、設定されているスケジュールが右側のエリアに表示されます。

② 周期 / 日時表示切り替えボタン

周期

周期表示に切り替えます。

日時

日時表示に切り替えます。

③ 新規記録

手動で新規にスケジュールを作成するための「[新規記録] ダイアログの設定項目」(93 ページ) を表示します。

④ 共通スケジュールの表示

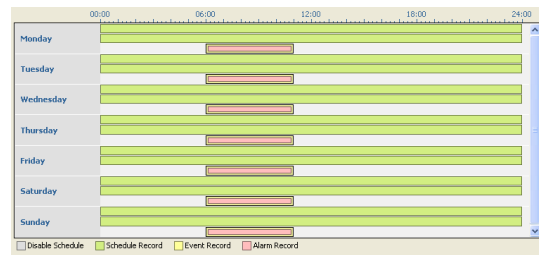
各カメラに共通するスケジュールを表示するときにチェックマークを付けます。

⑤ スケジュールの表示

スケジュールの内容が表示されます。

周期表示のとき

曜日ごとのスケジュールがアクションごとに色で区別して表示されます。



- 目盛りは 15 分きざみで、各スケジュールのバーをドラッグすることで、アクションの開始時刻と終了時刻を変更できます。詳細に時刻を設定したいときは、[編集] をクリックし、表示される「スケジュール設定」ダイアログで調整します。
- 各バーを選択すると、⑧ の領域に記録の対象となるカメラや映像設定の情報が表示されます。

日時表示のとき

設定されているスケジュールが一覧表示されます。

Name	REC Type	Start	End	Duration
Schedule006	Alarm	08/10/27 01:00:00	08/10/30 01:00:00	72:00:00
Schedule005	Normal	08/10/27 02:00:00	08/10/27 01:00:00	94:00:00
Schedule002	Normal	08/10/27 00:00:00	08/10/27 01:00:00	01:00:00

- 各スケジュールを選択すると、**H** の領域に記録の対象となるカメラや期間などの情報が表示されます。

⑥ 編集

スケジュールの設定を変更するための「スケジュール設定」ダイアログが表示されます。

⑦ 削除

選択したスケジュールを削除します。

⑧ 設定情報表示

選択したスケジュールの設定情報が表示されます。

⑩ 適用

設定を保存します。

⑪ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

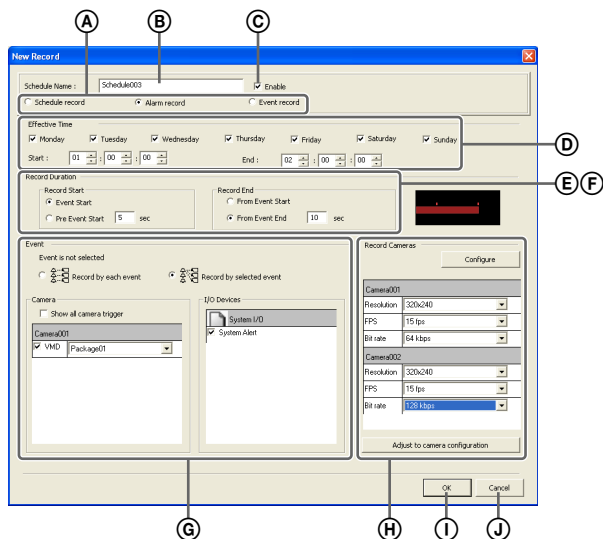
⑫ 閉じる

画面を閉じます。

「新規記録」ダイアログの設定項目

本ダイアログは、「スケジュール」画面（92 ページ）で「新規記録」をクリックしたときに表示されます。記録の種類によって、表示される項目が異なります。各項目を設定したら、「OK」をクリックします。

画面例) アラーム記録（周期的なスケジュール）の場合



① スケジュール記録／アラーム記録／イベント記録

設定するスケジュールの種類を選択します。

② 名前

スケジュールの名前を 32 文字以内（ASCII 文字以外は、16 文字）で入力します。

③ 有効

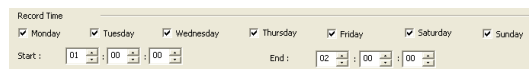
このスケジュールを有効にするときにチェックマークを付けます。

④ スケジュール

周期的なスケジュールを設定するか、日時指定のスケジュールを設定するかによって設定内容が異なります。

周期的なスケジュールの場合

スケジュールを実行する曜日にチェックマークを付け、スケジュールの開始時刻と終了時刻を設定します。指定可能範囲は、00:00:00 から 23:59:59（時分秒）までです。



日時指定のスケジュールの場合

スケジュールの適用を開始する日時と終了する日時を設定します。

Record Time

Start: 10/27/2008 01:00:00 End: 10/27/2008 01:00:00

㊦ 記録期間

この項目は、アラーム記録またはイベント記録の場合に表示されます。

イベントが発生したときの記録期間を設定します。

Record Duration:

Record Start:
 Alarm Start
 Pre Alarm Start 5 sec

Stop Record:
 From alarm start
 From alarm end 10 sec

記録開始

記録を開始するタイミングを選択します。

アラーム / イベント開始時

アラーム / イベント開始時（アラーム信号がアクティブになった時点）から記録を開始します。

アラーム / イベント開始前

アラーム / イベント開始前の画像にさかのぼって画像を記録します。

ここを選択したときは、さかのぼって記録する期間を1～60秒の範囲で入力します。

メモ

音声に対してアラーム / イベント開始前記録を行うことはできません。

記録終了

記録を終了するタイミングを選択します。

アラーム / イベント開始後

アラーム / イベント開始時（アラーム信号がアクティブになった時点）から指定した期間が経過した時点で記録を終了します。

ここを選択したときは、アラーム / イベント開始後の期間を1～3,600秒の範囲で入力します。

アラーム / イベント終了後

アラーム / イベントが終了した時点（アラームが解除された時点）から指定した期間が経過した時点で、記録を終了します。

ここを選択したときは、アラーム / イベント終了後の期間を1～3,600秒の範囲で入力します。

メモ

アラーム記録や通常記録のカメラ設定がモニター時のカメラ設定と異なる場合は、記録開始時と記録終了時に画像の更新が数秒間停止する場合があります。必ず設定を確認してから運用してください。

㊦ 記録データとアラームとの関連付け

この項目は、スケジュール記録の場合に表示されます。

記録データとアラームを関連付けする場合にチェックマークを付けます。

関連付けを行うと、アラーム検索をしたときに、そのアラームが起きた時点に存在するスケジュール記録が検索できるようになります。

関連付けを行った場合は、アラームのトリガーとなるカメラやI/Oデバイスの入力端子を設定します。

Alarm relation with recording data

㊦ アラーム / イベントトリガー

録画するカメラとセンサーの関係を選択し、アラーム / イベントのトリガーとなる入力端子にチェックマークを付けます。

カメラとセンサーの関係については、「アラーム発生時のセンサーとカメラの関係について」（91ページ）をご覧ください。

それぞれのアラーム / イベントで記録

カメラとセンサーが1対1の関係になります。アラームを検知したセンサーのカメラでのみ記録を開始します。

選択されたアラーム / イベントで記録

記録の対象となるカメラ1台に対して、複数の入力端子を設定できます。外部デバイスからI/Oデバイスへの入力信号（アラーム / イベント）によって記録を開始できるので、スケジュールに設定されていないデバイスのセンサーをトリガーにすることができます。

カメラ

アラーム / イベントのトリガーとなる入力端子にチェックマークを付けます。

[選択されたアラーム / イベントで記録] を選択した場合は、複数のデバイスの入力端子を選択できます。

[全てのトリガーを表示] にチェックマークを付けると、RealShot Manager Advanced に設定されているすべてのトリガーがリストに表示されますので、スケジュールに設定されていないデバイスのセンサーもトリガーにすることができます。

メモ

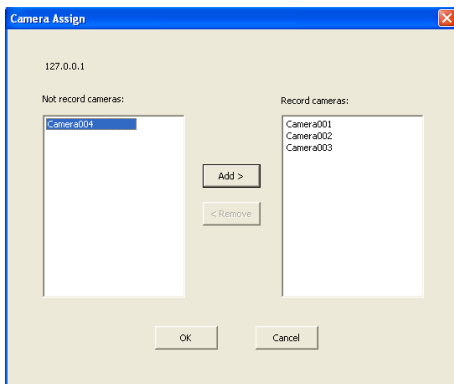
リストには、各カメラに設定されている入力端子が表示されます。入力端子の設定については、「動体検知の設定をする」(68 ページ)、「センサー入力の設定をする」(96 ページ)をご覧ください。

⑧ 記録カメラ

記録の対象となるカメラをリストに追加して、カメラから取り込む画像に関する設定を行います。

デバイス追加

リストにデバイスを追加するための「デバイス追加」ダイアログが表示されます。
[非対象カメラ] リストから追加したいカメラを選択し、[追加] をクリックして [対象カメラ] リストに移動したら、[OK] をクリックします。



カメラリスト

必要に応じて、カメラから取り込む画像の画像サイズやフレームレートなどを選択します。
記録の対象となるカメラが SNC-xx600 シリーズ (xx: アルファベット 2 文字) の場合は、「デバイス設定」の [映像] タブで設定した、[映像 1] ~ [映像 3] のいずれかを選択します。

カメラ設定に合わせる

「デバイス設定」の [映像] タブで設定した値に合わせます。
SNC-xx600 シリーズ (xx: アルファベット 2 文字) の場合は、このボタンは動作しません。

メモ

通常記録とアラーム記録の設定時間が重なっているときに、通常記録時の解像度を 320 × 240 dpi に設定し、アラーム記録時の解像度を 640 × 480 dpi に設定した場合は、カメラから取り込まれる画像の解像度は 640 × 480 dpi になります。通常、カメラから取り込まれる画像は、実行中のすべての動作に関するフレームレートや解像度の最大値が使用されます。

① OK

設定した内容でスケジュールが作成され、ダイアログを閉じます。

② キャンセル

設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

センサー入力の設定をする

RealShot Manager Advanced やカメラに搭載されているセンサー入力、Barionet (Barix 社製 I/O ボックス) のセンサー入力に関する設定を行います。

センサー入力は、アクションやスケジュール記録のイベントに指定して使用できます。

センサー入力の例)

温度、湿度、煙、振動、セキュリティ、赤外線、超音波など。

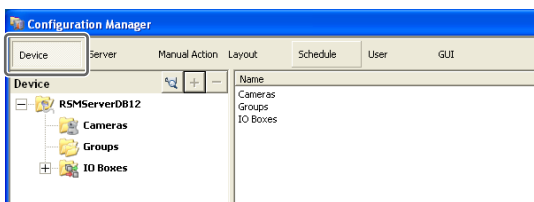
センサー入力に関して、以下の設定ができます。

- RealShot Manager Advanced に論理的センサー入力端子を追加する (96 ページ)
- カメラのセンサー入力端子の設定を変更する (97 ページ)
- Barionet のセンサー入力端子の設定を変更する (97 ページ)
- RealShot Manager Advanced に作成した論理的センサー入力端子を削除する (98 ページ)

RealShot Manager Advanced に論理的センサー入力端子を追加する

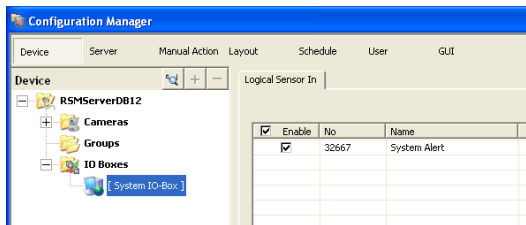
RealShot Manager Advanced に論理的なセンサー入力端子を追加することにより、ネットワークを通して外部機器との連携を行うことができます。追加したセンサー入力端子の操作 (オン/オフ) を外部機器から行うことにより、それをトリガーにした記録やアクションが行えます。

1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

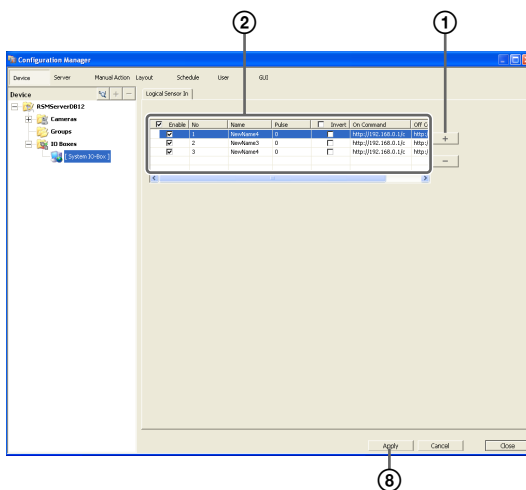


「デバイス設定」画面が表示されます。

2 画面左側の [デバイス] ツリーで [I/O デバイス] を開き、[System IO-Box] をクリックして選択する。



3 [論理センサー入力] タブで、論理的センサー入力端子を追加する。

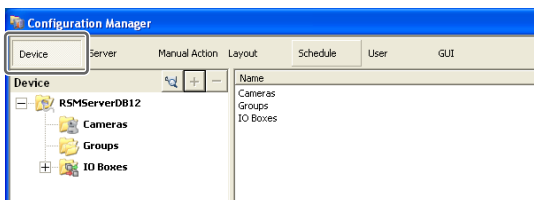


各項目の詳細は、「[センサー入力] タブの設定項目」(98 ページ) をご覧ください。

- ① **+** (追加) をクリックする。
リストに論理的センサー入力端子が追加されます。
- ② 各項目を設定する。
- ③ [適用] をクリックする。
論理的センサー入力端子が追加されます。

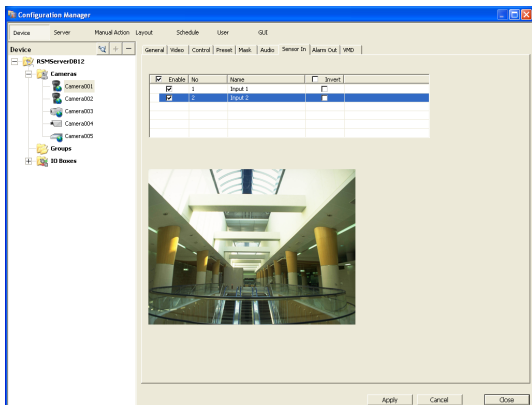
カメラのセンサー入力端子の設定を変更する

- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 画面左側の [デバイス] ツリーからセンサー入力端子の設定を変更したいカメラを選択する。
- 3 [センサー入力] タブで、各項目を設定し、[適用] をクリックする。



各項目の詳細は、「[センサー入力] タブの設定項目」(98 ページ) をご覧ください。

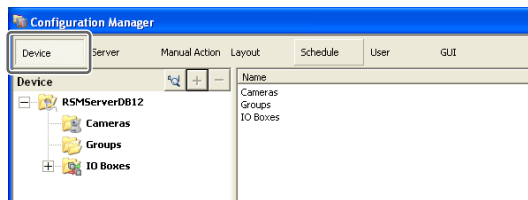
センサー入力の設定が変更されます。

Barionet のセンサー入力端子の設定を変更する

で注意

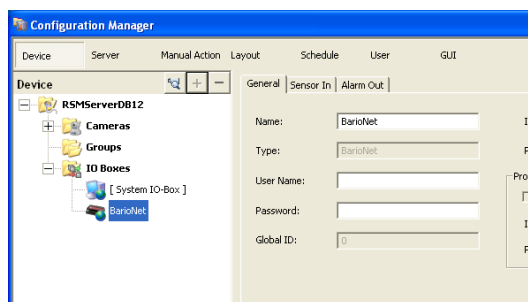
- Barionet は、プロキシ経由では使用できません。
- Barionet は手動でデバイス登録してから、以下の設定を行ってください。
- 詳しくは、Barionet の取扱説明書をご覧ください。

- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

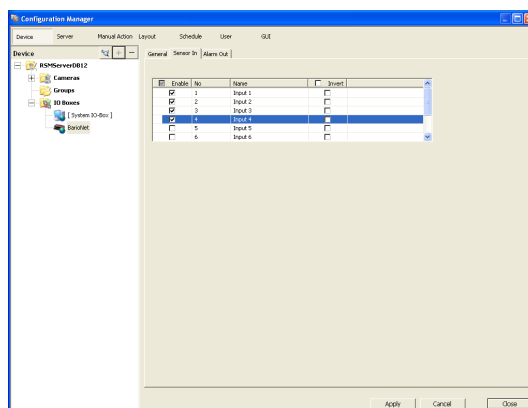


「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 画面左側の [デバイス] ツリーで [I/O デバイス] を開き、「Barionet」をクリックして選択する。



- 3 [センサー入力] タブで、各項目を設定し、[適用] をクリックする。



各項目の詳細は、「[センサー入力] タブの設定項目」(98 ページ) をご覧ください。

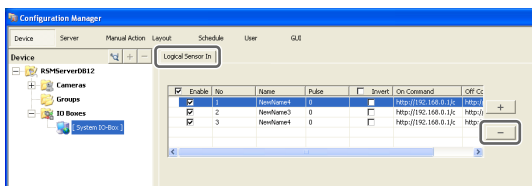
Barionet のセンサー入力の設定が変更されます。

RealShot Manager Advanced に作成した論理的センサー入力端子を削除する

メモ

デフォルトで存在している RealShot Manager Advanced の論理的センサー入力端子は削除できません。

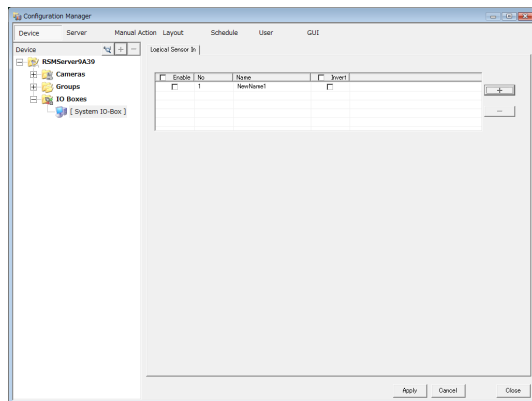
- 1 画面左側の [デバイス] ツリーで [IO Boxes] を開き、[System IO-Box] をクリックして選択する。
- 2 [論理センサー入力] タブで、削除したい論理的センサー入力端子を選択し、**-** (削除) をクリックする。



論理的センサー入力端子が削除されます。

[センサー入力] タブの設定項目

センサー入力端子を設定できます。
各項目を設定したら、[適用] をクリックして設定を保存します。
ここでは例として RealShot Manager Advanced の論理センサー入力端子を設定する画面で説明します。



センサー入力端子リスト

ツリーで選択したデバイスに設定されているセンサー入力端子が一覧表示されます。

有効

センサー入力を有効にする端子にチェックマークを付けます。

ご注意

センサー入力を使用するには、デバイス側のセンサー入力端子設定も有効にしておく必要があります。

No

センサー入力端子の番号が表示されます。
この項目は変更できません。

名前

センサー入力の名前を入力します。

反転

パルスの極性を反転させる場合にチェックマークを付けます。
例) ON → OFF を OFF → ON に反転させる。

+ (追加)

リストに論理的センサー入力端子を追加します。
この項目は、「System IO-Box」の論理的なセンサー入力の場合にのみ表示されます。

- (削除)

リストで選択したセンサー入力端子を削除します。
この項目は、「System IO-Box」の論理的なセンサー入力の場合にのみ表示されます。

アラーム出力の設定をする

RealShot Manager Advanced やカメラに搭載されているアラーム出力、Barionet (Barix 社製 I/O ボックス) のアラーム出力に関する設定を行います。
パトランプやドアの開放など、入力アラーム機能を持つデバイスへのアラーム送出に使われます。

アラーム出力の例)

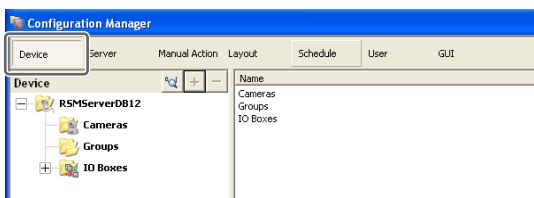
警報サイレン、パトランプ、照明、ドアなど。

アラーム出力に関して、以下の設定ができます。

- カメラのアラーム出力端子の設定を変更する (99 ページ)
- Barionet のアラーム出力端子の設定を変更する (99 ページ)

カメラのアラーム出力端子の設定を変更する

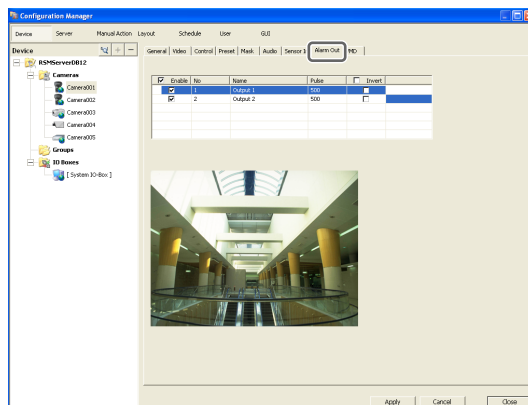
- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。



「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 画面左側の [デバイス] ツリーからアラーム出力端子の設定を変更したいカメラを選択する。

- 3 [アラーム出力] タブで、各項目を設定し、[適用] をクリックする。



各項目の詳細は、「[[アラーム出力] タブ (カメラの場合)」(101 ページ) をご覧ください。

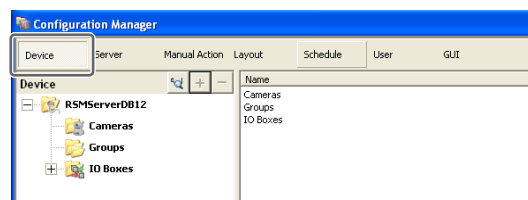
アラーム出力の設定が変更されます。

Barionet のアラーム出力端子の設定を変更する

で注意

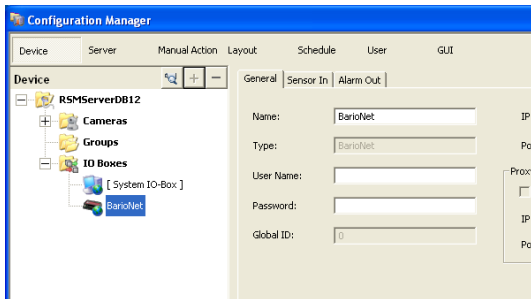
- Barionet のアラーム出力を利用する場合は、あらかじめ Web ブラウザから Barionet に接続し、アラーム出力設定を有効にしておく必要があります。
- Barionet は、プロキシ経由では使用できません。
- Barionet は手動でデバイス登録してから、以下の設定を行ってください。
- 詳しくは、Barionet の取扱説明書をご覧ください。

- 1 設定画面上部にある [デバイス] をクリックする。

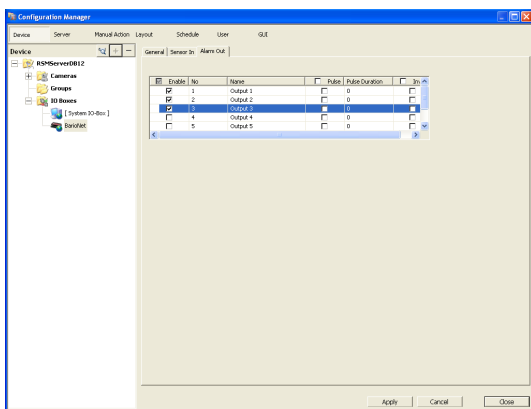


「デバイス設定」画面が表示されます。

- 2 画面左側の [デバイス] ツリーで [I/O デバイス] を開き、[Barionet] をクリックして選択する。



- 3 [アラーム出力] タブで、各項目を設定し、[適用] をクリックする。



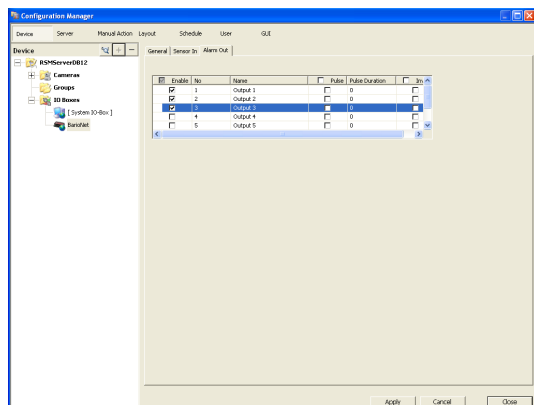
各項目の詳細は、「[アラーム出力] タブ (I/O デバイスの場合)」(100 ページ) をご覧ください。

Barionet のアラーム出力の設定が変更されます。

[アラーム出力] タブの設定項目

[アラーム出力] タブ (I/O デバイスの場合)

Barionet のアラーム出力端子を設定できます。各項目を設定したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



アラーム出力端子リスト

ツリーで選択した RealShot Manager Advanced または Barionet に設定されているアラーム出力端子が一覧表示されます。

有効

アラーム出力を有効にする端子にチェックマークを付けます。

ご注意

アラーム出力を使用するには、デバイス側のアラーム出力端子設定も有効にしておく必要があります。

No

アラーム出力端子の番号が表示されます。この項目は変更できません。

名前

アラーム出力の名前を 32 文字以内 (ASCII 文字以外は、16 文字) で入力します。

パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、[パルス間隔] を入力します。

パルス間隔

出力がオンになってから、オンの状態を持続させる期間を 0 ~ 60,000 ミリで入力します。

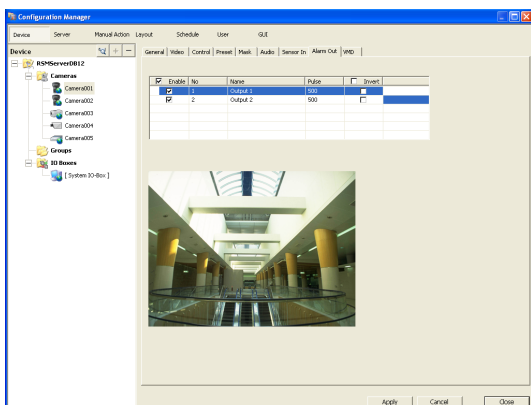
反転

出力端子の極性を反転させるときは、ここにチェックマークを付けます。

反転を有効にしても、現在の出力端子の状態は変化しません。反転した状態で出力端子のオン/オフを行うと、実際の出力信号の状態がオフ/オンに反転します。

[アラーム出力] タブ (カメラの場合)

ツリーで選択したカメラのアラーム出力端子を設定できます。
各項目を設定したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



プレビュー

カメラから取り込まれた画像が表示されます。

アラーム出力端子リスト

ツリーで選択したカメラに設定されているアラーム出力端子が一覧表示されます。

有効

アラーム出力を有効にする端子にチェックマークを付けます。

No

アラーム出力端子の番号が表示されます。
この項目は変更できません。

名前

アラーム出力の名前を 32 文字以内 (ASCII 文字以外は、16 文字) で入力します。

パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、[パルス間隔] を入力します。

パルス間隔

出力がオンになってから、オンの状態を継続させる期間を 0 ~ 60,000 ミリで入力します。

反転

出力端子の極性を反転させるときは、ここにチェックマークを付けます。
反転を有効にしても、出力端子の状態は変化しません。
反転した状態で出力端子のオン/オフを行うと、実際の出力信号の状態がオフ/オンに反転します。

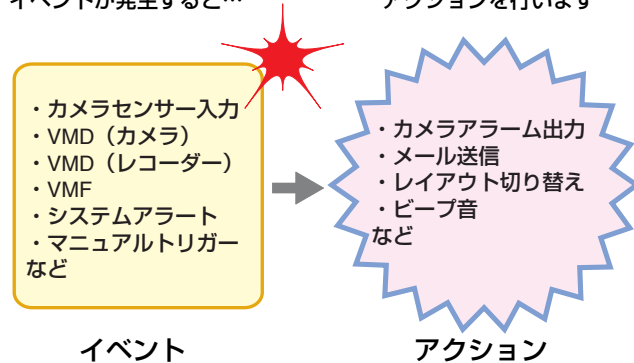
アクションの設定をする

RealShot Manager Advanced では、センサー入力や VMD (カメラ)、VMD (レコーダー)、VMF、システムアラートなどを検知したときや、マニュアルアクションを実行したときの動作 (アクション) を設定できます。

イベントとアクションの関係

アラームなどの
イベントが発生すると…

イベントに応じた
アクションを行います



アクションの設定には、以下の方法があります。

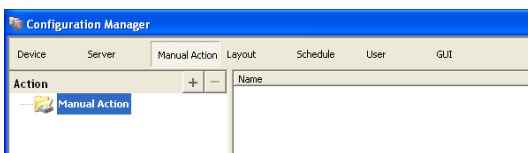
- **マニュアルアクション (102 ページ)**
手動でトリガーを発生させたときの動作を設定します。
- **イベント/アラームアクション (105 ページ)**
スケジュールで指定した期間にアラームやイベントが発生した場合に実行するアクションを設定します。

マニュアルアクション

手動でトリガーを発生させたときの動作を設定します。

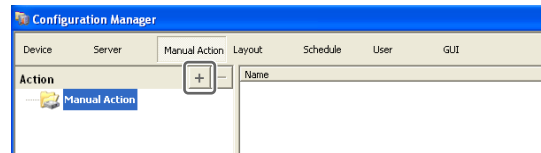
マニュアルアクションを登録する

- 1 設定画面上部にある [マニュアルアクション] をクリックする。

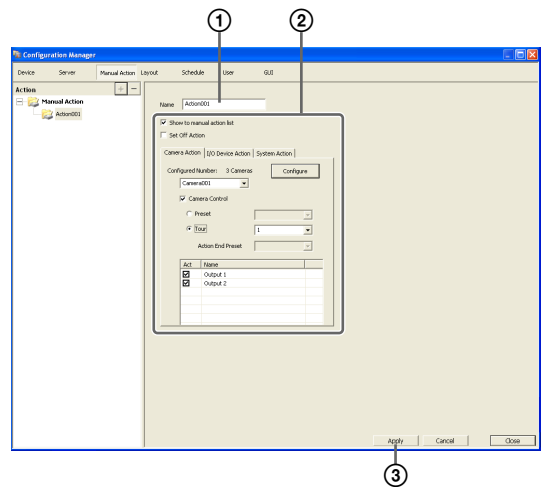


「マニュアルアクション」画面が表示されます。

- 2 + (追加) をクリックする。



- 3 以下の項目を設定し、アクションを登録する。



各項目の詳細は、「[マニュアルアクション] 画面の設定項目」(103 ページ) をご覧ください。


- ① アクションの名前を入力する。
- ② 各項目を設定する。
- ③ [適用] をクリックする。

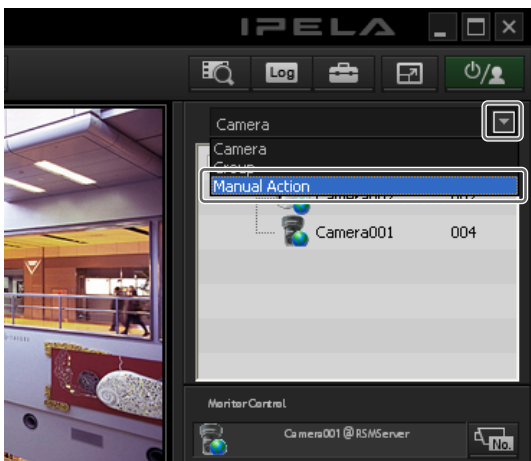
アクションが登録されます。

マニュアルアクションを実行する

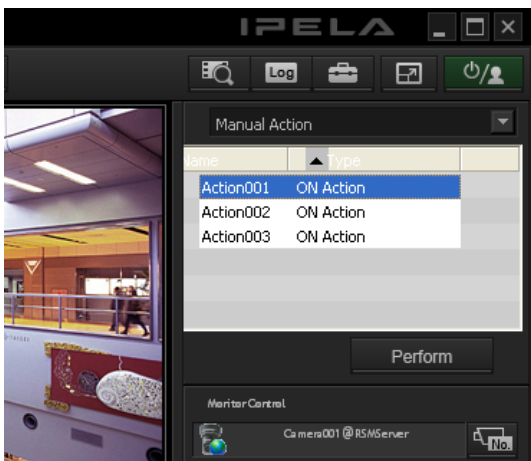
メイン画面の「マニュアルアクション」ツールバーで、アクションを実行できます。

- 1 メイン画面で「マニュアルアクション」ペインを表示させる。

画面右上のペインにある  をクリックし、表示されるメニューから [マニュアルアクション] を選択します。

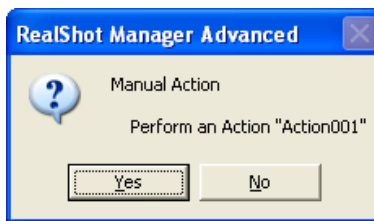


- 2 行いたいアクションを選択し、[Perform] をクリックする。



確認メッセージが表示されます。

- 3 [OK] をクリックする。



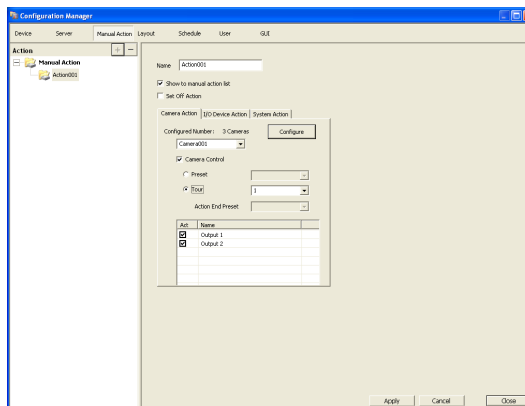
アクションが実行されます。

「マニュアルアクション」画面の設定項目

マニュアルアクションを設定できます。

アクションを実行するデバイスによって、表示される項目は異なります。

各項目を設定したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



名前

アクションの名前を 32 文字以内（ASCII 文字以外は、16 文字）で入力します。

メイン画面に表示

このアクションをメイン画面の [マニュアルアクション] ペインに表示するときにチェックマークを付けます。

OFF アクションとして登録

オフにするアクションとして登録するときにチェックマークを付けます。

OFF アクションは、以下のように動作します。

ツアー： ツアー停止
アラーム出力： アラーム出力オフ
ビーブ： ビーブ停止

[カメラアクション] タブ

Act	Name
<input checked="" type="checkbox"/>	Output 1
<input checked="" type="checkbox"/>	Output 2

設定数

本アクションの対象となるカメラの数が表示されます。

[デバイス追加] ボタン

アクションの対象となるカメラを追加するためのダイアログが表示されます。

カメラドロップダウンメニュー

カメラを選択します。

カメラコントロール

カメラを制御するアクションを実行するときにチェックマークを付け、制御方法を指定します。

プリセット

指定したプリセット位置にカメラを戻します。

ツアー

指定したカメラツアーを行います。

アクション終了プリセット

アクションが終了したときのプリセット位置を指定します。

端子リスト

端子の状態を変更するアクションを実行するときに、対象となる端子にチェックマークを付けます。

[I/O デバイスアクション] タブ

Act	Name
<input checked="" type="checkbox"/>	NewName4
<input checked="" type="checkbox"/>	NewName4
<input checked="" type="checkbox"/>	NewName4
<input type="checkbox"/>	NewName4
<input type="checkbox"/>	NewName4
<input type="checkbox"/>	NewName4
<input type="checkbox"/>	NewName3
<input type="checkbox"/>	NewName4

設定数

本アクションの対象となる I/O デバイスの数が表示されます。

[デバイス追加] ボタン

アクションの対象となる I/O デバイスを追加するためのダイアログが表示されます。

I/O デバイスドロップダウンメニュー

I/O デバイスを選択します。

端子リスト

状態を変更する端子にチェックマークを付けます。

[システムアクション] タブ

画面例) サーバーの場合

Send e-mail
E-mail Address:

Attach Camera Image:
 Each camera
 Specified camera

Message Body:

Change Layout:

Beep:

e-mail 送信

指定したメールアドレス宛にメールで通知するときにチェックマークを付けます。
メール通知については、「メール通知の設定をする」(110 ページ) をご覧ください。

e-mail アドレス

メールアドレスを入力します。

カメラ画像添付

静止画をメール添付で送信するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、静止画を記録するカメラを指定します。

メモ

コーデックが MPEG4/H.264 のカメラまたはマスクが設定されているカメラは、画像添付されません。

特定のカメラ

指定したカメラで静止画を記録します。

メッセージ

メールの本文を 32 文字以内（ASCII 文字以外は、16 文字）で入力します。

レイアウト変更

モニター 1 のモニターレイアウトを変更するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、モニター 1 に表示するモニターレイアウトを選択します。

ビープ

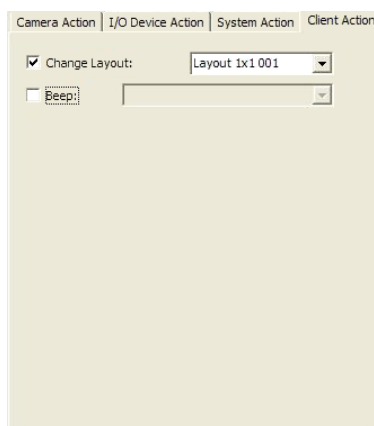
ビープ音を鳴らすときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、ビープ音の種類を選択します。

メモ

- [レイアウト変更]、[ビープ] は、RealShot Manager Advanced (Server) のみ表示されます。
- ビープ音を止めるには、アクション設定が必要です。あらかじめマニュアルまたはセンサー入力によるイベントで、ビープを停止するアクションを定義しておいてください。

[クライアントアクション] タブ (クライアントの場合)

[クライアントアクション] タブは、RealShot Manager Advanced (Client) のみ表示されます。



レイアウト変更

モニターレイアウトを変更するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、モニター 1 に表示するモニターレイアウトを選択します。

ビープ

ビープ音を鳴らすときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、ビープ音の種類を選択します。

メモ

ビープ音を止めるには、アクション設定が必要です。あらかじめマニュアルまたはセンサー入力によるイベントで、ビープを停止するアクションを定義しておいてください。

適用

設定を保存します。

キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

イベント／アラームアクション

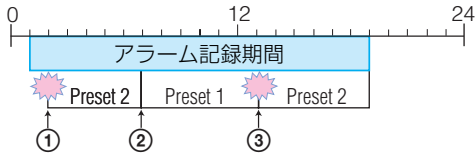
スケジュールで設定した期間にアラームやイベントが発生した場合にアクションを実行します。期間内であれば、アラームやイベントが発生する度にアクションを実行できます。

ご注意

アクションの実行により状態が変化しても、自動的に元の状態に戻りません。

イベント／アラームアクション例)

カメラ1のVMD(カメラ)端子が動体を検知するとプリセット位置を「プリセット2」に移動させるイベント／アラームアクションの場合

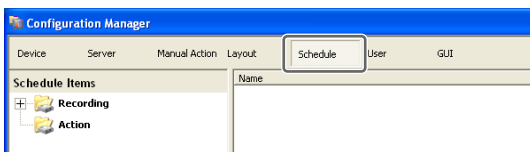


- ① VMD(カメラ)端子が動体を検知するとアクションが実行され、カメラ1のプリセット位置が「プリセット2」に移動します。
- ② 手で「プリセット1」に戻します。
- ③ 期間内にVMD(カメラ)端子が動体を検知すると、再度アクションが実行され、カメラ1のプリセット位置が「プリセット2」に移動します。

イベント／アラームアクションを登録する

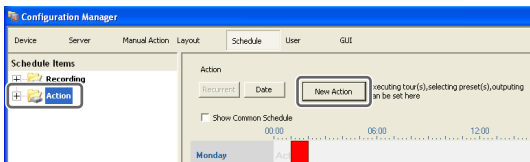
スケジュールで設定した期間にアラームやイベントが発生した場合にアクションを実行するスケジュールを設定します。期間内であれば、アラームやイベントが発生する度にアクションを実行できます。

- 1 設定画面上部にある「スケジュール」をクリックする。



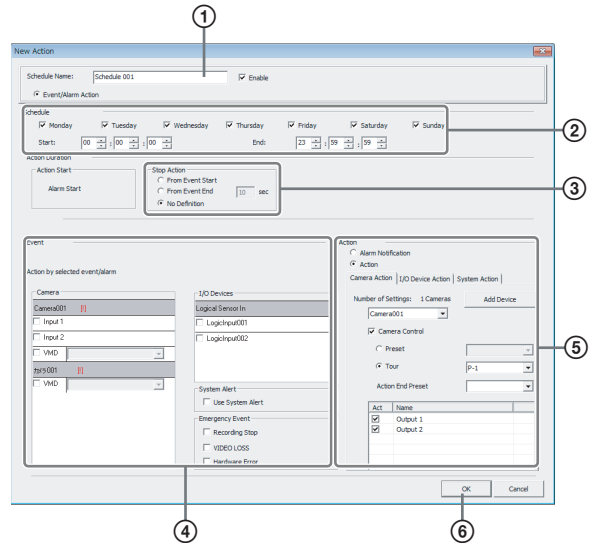
「スケジュール設定」画面が表示されます。

- 2 周期表示または日付表示にする。
- 3 ツリーで「アクション」を選択し、「新規アクション」を選択する。



「新規アクション」ダイアログが表示されます。

- 4 各項目を設定し、「OK」をクリックする。



各項目の詳細は、「「新規アクション」ダイアログ(イベント／アラームアクション)の設定項目」(107ページ)をご覧ください。

- ① イベント／アラームアクションの名前を入力する。
- ② イベント／アラームアクションを実行する曜日にチェックマークを付け、イベント／アラームアクションの開始時刻と終了時刻を設定する。
- ③ アクションを終了するタイミングを設定する。
- ④ アクションのトリガーとなるイベントを設定する。
- ⑤ 実行するアクションを設定する。
- ⑥ [OK] をクリックする。
イベント／アラームアクションが作成されます。

- 5 「適用」をクリックする。

イベント／アラームアクションが保存されます。

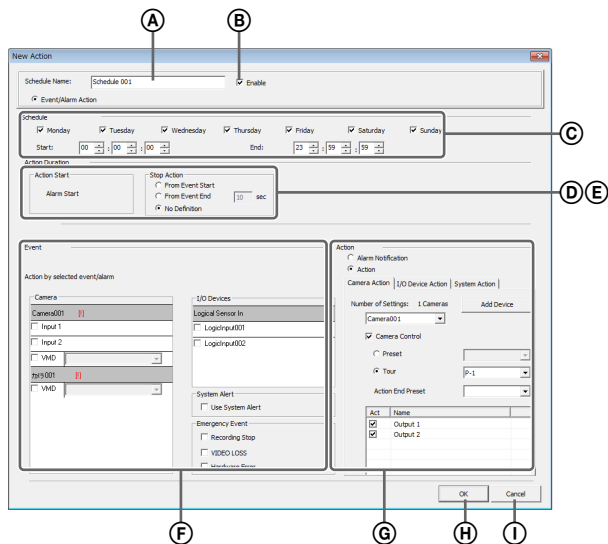
スケジュールの見かたは、「「スケジュール」画面の詳細」(92ページ)をご覧ください。

「新規アクション」ダイアログ（イベント／アラームアクション）の設定項目

本ダイアログは、「スケジュール設定」画面でツリーから「アクション」を選択し、「新規アクション」をクリックしたときに表示されます。

各項目を設定したら、「OK」をクリックします。

画面例) イベント／アラームアクションの場合



① スケジュール名

イベント／アラームアクションの名前を 32 文字以内 (ASCII 文字以外は、16 文字) で入力します。

② 有効

このイベント／アラームアクションを有効にするときにチェックマークを付けます。

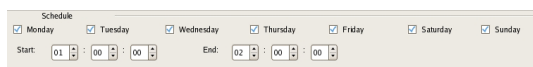
③ スケジュール

周期的なイベント／アラームアクションを設定するか、日時指定のイベント／アラームアクションを設定するかによって設定内容が異なります。

周期的なイベント／アラームアクションの場合

イベント／アラームアクションを実行する曜日にチェックマークを付け、イベント／アラームアクションの開始時刻と終了時刻を設定します。

指定可能範囲は、00:00:00 から 23:59:59 (時分秒) までです。



日時指定のイベント／アラームアクションの場合

イベント／アラームアクションの適用を開始する日時と終了する日時を設定します。



④ アクション期間

アクションを行う期間を設定します。

アクション開始

アクションを開始するタイミングが表示されます。この項目は変更できません。

アクション終了

アクションを終了するタイミングを選択します。

イベント開始後

イベントの開始後、指定した時間が経過した時点でアクションを終了します。

ここを選択したときは、イベント開始後の期間を 1 ~ 3,600 秒の範囲で入力します。

イベント終了後

イベントの終了後、指定した時間が経過した時点でアクションを終了します。

ここを選択したときは、イベント終了後の期間を 1 ~ 3,600 秒の範囲で入力します。

未定義

終了するタイミングを指定しません。

⑤ サーバー

リモートサーバーを選択します。

この項目は、クライアントのときに表示されます。

⑥ イベント

アクションのトリガーとなるイベントを設定します。

カメラ

アクションのトリガーとなるイベントの入力端子にチェックマークを付けます。

I/O デバイス

アクションのトリガーとなるイベントの入力端子にチェックマークを付けます。

メモ

リストには、各カメラや I/O デバイスに設定されている入力端子が表示されます。入力端子の設定については、「動体検知の設定をする」(68 ページ)、「センサー入力の設定をする」(96 ページ)をご覧ください。

システムアラート

トリガーとして使用するシステムアラートにチェックマークを付けます。

システムアラートを使用する

システムアラートをトリガーとして使用するときにはチェックマークを付けます。

緊急イベント

トリガーとして使用する緊急イベントにチェックマークを付けます。

記録停止

記録停止のイベントをトリガーとして使用するときにはチェックマークを付けます。

VIDEO LOSS

VIDEO LOSS のイベントをトリガーとして使用するときにはチェックマークを付けます。

ハードウェアエラー

ハードウェアエラーのイベントをトリガーとして使用するときにはチェックマークを付けます。

ご注意

一つのアクションスケジュールに S と E を同時に設定することはできません。それぞれイベントに対してアクションスケジュールを作成してください。

④ アクション

実行するアクションを設定します。

アラーム通知

設定したトリガーがアラームとして通知されます。

アクション

指定したアクションを実行します。

[カメラアクション] タブ

Act	Name
<input type="checkbox"/>	Output 1
<input type="checkbox"/>	Output 2

設定数

アクションの対象となるカメラの数が表示されます。

[デバイス追加] ボタン

アクションの対象となるカメラを追加するためのダイアログが表示されます。

カメラドロップダウンメニュー

カメラを選択します。

カメラコントロール

カメラを制御するアクションを実行するときにはチェックマークを付け、制御方法を指定します。

プリセット

指定したプリセット位置にカメラを戻します。

ツアー

指定したカメラツアーを行います。

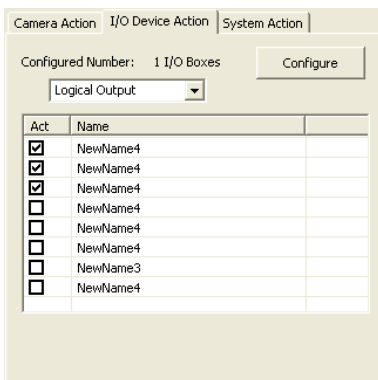
アクション終了プリセット

アクションが終了したときのプリセット位置を指定します。

端子リスト

出力端子の状態を変更するアクションを実行するときに対象となる端子にチェックマークを付けます。

[I/O デバイスアクション] タブ



設定数

アクションの対象となる I/O デバイスの数が表示されます。

[デバイス追加] ボタン

アクションの対象となる I/O デバイスを追加するためのダイアログが表示されます。

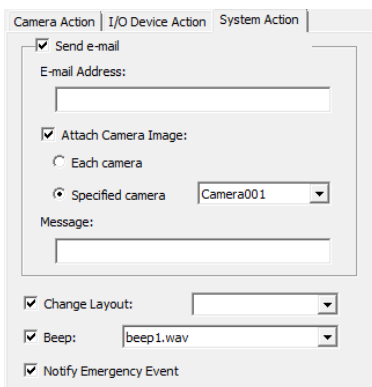
I/O デバイスドロップダウンメニュー

I/O デバイスを選択します。

端子リスト

状態を変更する端子にチェックマークを付けます。

[システムアクション] タブ



e-mail 送信

指定したメールアドレス宛にメールで通知するときにチェックマークを付けます。
メール通知の設定については、「メール通知の設定をする」(110 ページ)をご覧ください。

e-mail アドレス

メールアドレスを入力します。

カメラ画像添付

静止画をメール添付で送信するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、静止画を記録するカメラを指定します。

メモ

コーデックが MPEG4/H.264 のカメラまたはマスクが設定されているカメラは、画像添付されません。

それぞれのカメラ

イベントが発生したカメラで記録された静止画を添付します。

例えば、カメラ A の動体検知とカメラ B のセンサー入力をトリガーに設定した場合、カメラ A の動体検知が発生したときは、カメラ A で記録された静止画が添付されます。カメラ B のセンサー入力が入ったときは、カメラ B で記録された静止画が添付されます。

特定のカメラ

指定したカメラで記録された静止画が添付されず。

メッセージ

メールの本文を 32 文字以内 (ASCII 文字以外は、16 文字) で入力します。

レイアウト変更

モニターレイアウトを変更するときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、モニター 1 に表示するモニターレイアウトを選択します。

ビーブ

ビーブ音を鳴らすときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、ビーブ音を選択します。

緊急イベントを通知

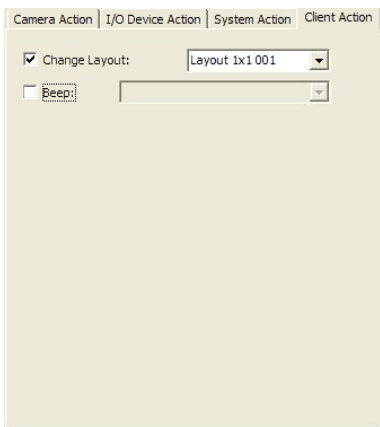
指定した緊急イベントを通知するときにチェックマークを付けます。

メモ

- ・ [レイアウト変更]、[ビーブ] は、RealShot Manager Advanced (Server) のみ表示されます。
- ・ [レイアウト変更]、[ビーブ] で設定した内容は、設定を行った端末でのみ有効で、アプリケーションにログオンしている間だけ実行されます。

メモ

[クライアントアクション] タブは、RealShot Manager Advanced (Client) のみ表示されます。



レイアウト変更

モニター1のモニターレイアウトを変更するときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、モニター1に表示するモニターレイアウトを選択します。

ビーブ

ビーブ音を鳴らすときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、ビーブ音を選択します。

メモ

[レイアウト変更]、[ビーブ] で設定した内容は、設定を行った端末でのみ有効で、アプリケーションにログオンしている間だけ実行されます。

Ⓜ OK

設定した内容でイベント／アラームアクションが作成され、ダイアログを閉じます。

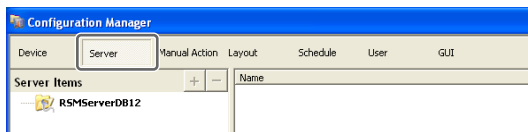
① キャンセル

設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

メール通知の設定をする

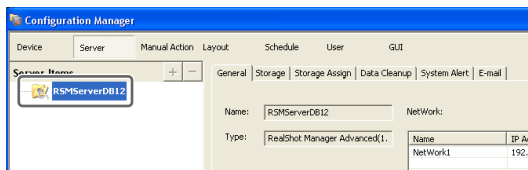
イベントが発生した場合に、あらかじめ登録されているメールアドレス宛に電子メールで通知できます。メールアドレスはアクションごとに設定できます。SMTPサーバーや送信元アドレスはここで指定します。

1 設定画面上部にある [サーバー] をクリックする。

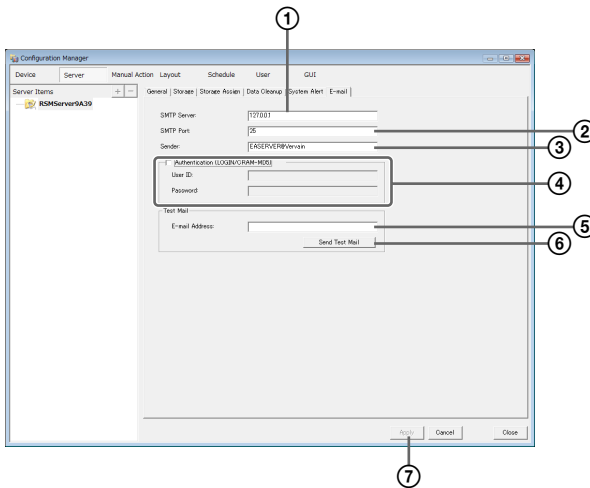


[サーバー設定] 画面が表示されます。

2 画面左側の [サーバー] ツリーからメール通知の設定をしたいサーバーを選択する。



3 [E-mail] で、各項目を設定し、[適用] をクリックする。



① SMTPサーバーのアドレスを入力する。

② SMTPサーバーのポート番号を入力する。

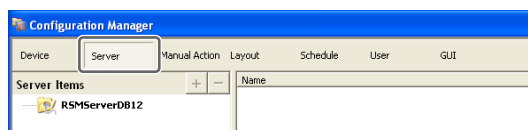
③ 送信者のメールアドレスを入力する。

- ④ SMTP 認証を使う場合は、[認証 (LOGIN/CRAM-MD5)] にチェックマークを付け、SMTP 認証のユーザー ID とパスワードを入力する。
- ⑤ テストメールを送信するメールアドレスを入力する。
- ⑥ 各アドレスを入力したら、[テストメール送信] をクリックし、メールが正しく送信できることを確認する。
- ⑦ [適用] をクリックする。

システムアラートの設定をする

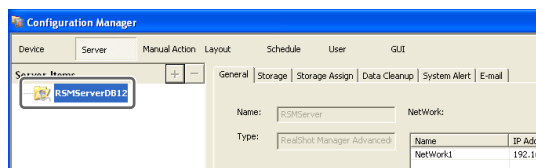
カメラの VIDEO LOSS やディスク残量不足を検出したときに、システムアラート（警報）を発生させることができます。システムアラート発生後の動作については、アクションで設定します。

- 1 設定画面上部にある [サーバー] をクリックする。

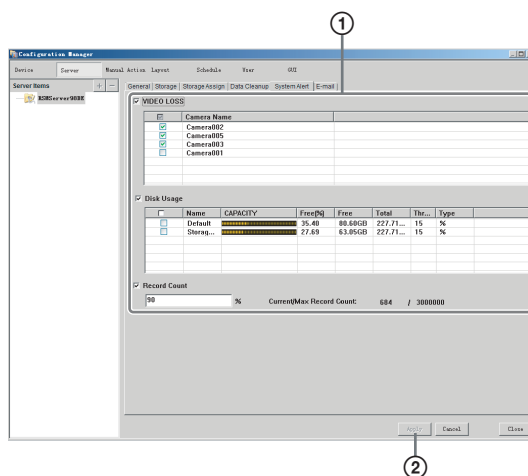


「サーバー設定」画面が表示されます。

- 2 画面左側の [サーバー] ツリーからシステムアラートの設定をしたいサーバーを選択する。



- 3 [システムアラート] タブで、システムアラートで通知する内容を設定し、[適用] をクリックする。



各項目の詳細は、「[システムアラート] タブの設定項目」（112 ページ）をご覧ください。

- ① 通知する項目にチェックマークを付け、各項目を設定する。

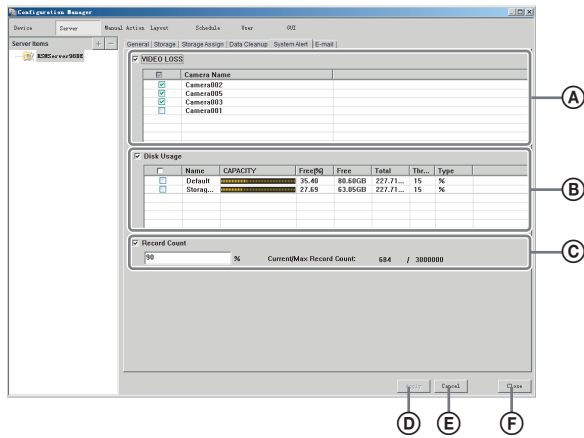
- ② [適用] をクリックする。
設定が保存されます。

4 システムアラート発生後の動作（アクション）を設定する。

アクションについては「アクションの設定をする」（102 ページ）をご覧ください。

[システムアラート] タブの設定項目

本画面は、設定画面で [サーバー] をクリックし、[システムアラート] タブをクリックすると表示されます。各項目を設定したら、[適用] をクリックします。



① VIDEO LOSS

画像信号が切断されたことを通知するときにチェックマークを付けます。

メモ

音声信号および NSBK-A16/A16H の映像信号の切断は検知対象としておりません。

カメラリスト

VIDEO LOSS の通知設定が一覧表示されます。

対象

通知対象となるカメラにチェックマークを付けます。

カメラ名

登録されているカメラ名が表示されます。

② ディスク使用量

ディスクの残量不足およびストレージへのアクセス切断を通知するときにチェックマークを付けます。

対象ストレージリスト

通知対象となるストレージにチェックマークを付けます。

対象

通知対象となるストレージにチェックマークを付けます。

名前

通知対象のストレージ名が表示されます。

容量

ストレージの容量が表示されます。

残り容量 (%)

残り容量が%で表示されます。

残り容量

残り容量がGBで表示されます。

総容量

このストレージの総容量が表示されます。

しきい値

通知する残り容量のしきい値を設定する。

種別

しきい値の単位を設定する。

③ レコード数

レコード数が指定した量を超えたことを通知するときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、現在のレコード数が最大のレコード数に対して、どのくらいになったら通知するかを%で入力します。

現レコード数 / 最大レコード数

現在のレコード数と最大レコード数が表示されます。

④ 適用

設定を保存します。

⑤ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

⑥ 閉じる

画面を閉じます。

ご注意

記録エラーや NSR-1000 シリーズ、NSR-500 シリーズのハードウェアエラーはシステムアラートに含まれ、設定に関わらず常に通知されます。

緊急イベントの設定をする

イベント／アラームアクションの設定画面で、記録停止や VIDEO LOSS にチェックマークを付けることで、それぞれのイベントをトリガーとして使用できます。緊急イベントが発生すると、RealShot Manager Advanced (Client) にダイアログを表示して通知されます。

緊急イベントをクライアントに通知する場合は、[システムアクション] タブで [緊急イベントを通知する] にチェックマークを付け、クライアント側で必要な設定を行ってください。

クライアント側で必要な設定の詳細については、「緊急イベントをダイアログで通知する」(118 ページ) をご覧ください。

ユーザーを登録する

RealShot Manager Advanced にユーザーを登録し、ログオンするときのパスワードや各機能を使用する権限を設定できます。ユーザーには管理者 (Level 5) から閲覧 (Level 1) まで5段階のレベルが用意されています。ユーザーレベルによって、以下の権限が与えられています。必要に応じて、ユーザーごとに権限を個別に設定することもできます。

ご注意

- ユーザーの登録など、ユーザー設定ができるのは、「ユーザー管理」権限が与えられているユーザーだけです。
- 「ユーザー管理」権限のあるすべてのユーザーのパスワードを忘れてしまった場合、ソフトウェアを一度アンインストールしてから再インストールする必要があります。なお、ソフトウェアを再インストールした場合は、それまでの設定・記録は継承されません。

ユーザーレベルと権限について

ユーザーには、以下の5段階のレベルが設定できます。

Level 1 : モニタリングとオプションウィンドウの参照が行えます。

Level 2 : Level 1 の権限に加え、パン、チルト、ズームなどのカメラコントロールや検索、再生などの基本操作が行えます。

Level 3 : Level 2 の権限に加え、ログの管理や、ファイルの削除・保護、エクスポートなど記録ファイルの操作が行えます。

Level 4 : Level 3 の権限に加え、デバイスの登録やレイアウト、スケジュールの作成など、デバイスの設定が行えます。

Level 5 : Level 4 の権限に加え、管理者としてユーザーの設定やメニューの設定など、すべての操作が行えます。

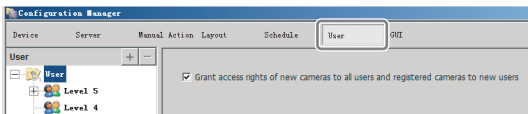
権限	ユーザーレベル				
	1	2	3	4	5
User Configuration	×	×	×	×	○
Administrator Menu Setting	×	×	×	×	○
Schedule Configuration	×	×	×	○	○
Device Configuration	×	×	×	○	○
Server Configuration	×	×	×	○	○
Layout Configuration	×	×	×	○	○
GUI Configuration	×	×	×	○	○
Manul Action Configuration	×	×	×	○	○
Manual Deletion/Protection	×	×	○	○	○
Log Control	×	×	○	○	○

権限	ユーザーレベル				
	1	2	3	4	5
Export Control	×	×	○	○	○
Exit Server	×	×	○	○	○
Search & Playback	×	○	○	○	○
Camera Control	×	○	○	○	○
Output Control	×	○	○	○	○
Layout Control	×	○	○	○	○
Manual Record	×	○	○	○	○
Manual Action	×	○	○	○	○
Capture Control	×	○	○	○	○
Display Control	×	○	○	○	○
Alarm History Control	×	○	○	○	○
Exit Application	○	○	○	○	○

ユーザーを登録する

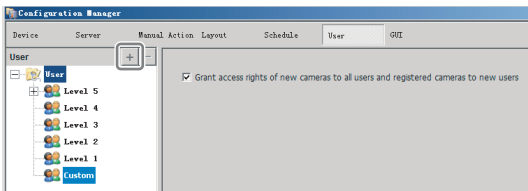
RealShot Manager Advanced を利用するユーザーを登録し、権限を設定します。

- 1 設定画面上部にある [ユーザー] をクリックする。



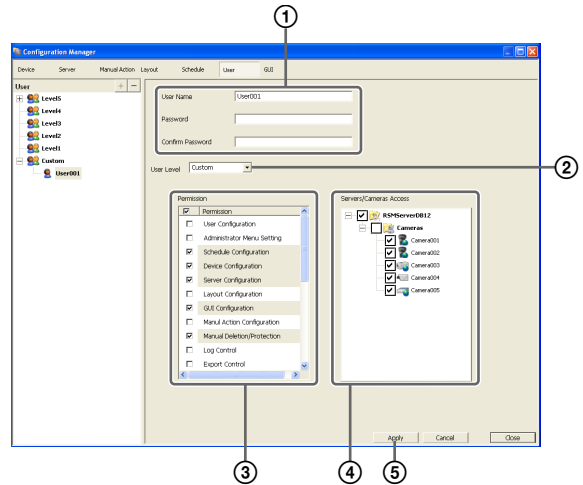
「ユーザー設定」画面が表示されます。

- 2 [ユーザー] ツリーで、登録したいユーザーのレベルを選択し、**+** (追加) をクリックする。



ツリーにユーザーが追加されます。

- 3 各項目を設定し、[適用] をクリックする。



各項目の詳細は、「[ユーザー] タブの設定項目」(115 ページ) をご覧ください。

- ① ユーザー名とパスワードを32文字以内のASCII文字(大小英数字、記号(!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~))で入力する。
- ② 必要に応じて、ユーザーレベルを変更する。個別に権限を設定したいときは、「Custom」を選択します。
- ③ このユーザーに与える権限にチェックマークを付けます。
- ④ デバイスごとにアクセス権を設定するときは、アクセス権を与えるデバイスにチェックマークを付けます。
- ⑤ [適用] をクリックする。設定が保存されます。

メモ

ユーザーレベルを「Custom」に変更した場合は、「Custom」のツリーに移動します。


ユーザーの設定内容を変更する

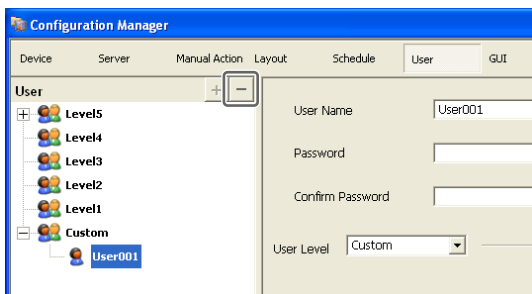
- 1 「ユーザー設定」画面で、[ユーザー] ツリーから設定を変更したいユーザーを選択する。
- 2 変更したい項目を設定しなおす。

各項目の詳細は、「[ユーザー] タブの設定項目」(115 ページ) をご覧ください。

- 3 各項目を設定したら、[適用] をクリックする。
設定が変更されます。

ユーザーを削除する

- 1 「ユーザー設定」画面で、[ユーザー] ツリーから削除したいユーザーを選択する。
- 2  (削除) をクリックする。



確認メッセージが表示されます。

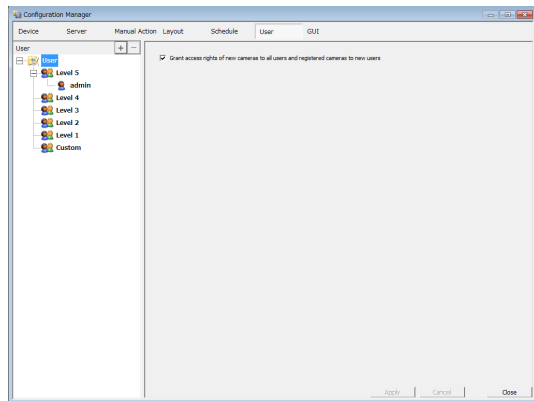
- 3 [OK] をクリックする。
ユーザーが削除されます。

デフォルトアクセス権を設定する

通常、ユーザーを追加すると既存のすべてのカメラに対するアクセス権が付与されます。また、カメラを追加すると既存のすべてのユーザーに対し、そのカメラへのアクセス権が付与されます。デフォルトアクセス権を OFF にすると、ユーザーやカメラを追加しても、これらのアクセス権は付与されません。

メモ

デフォルトアクセス権を OFF にしても、レベル 5 のユーザーへは自動でアクセス権が付与されます。



- 1 「ユーザー設定」画面で、ツリー最上部の「ユーザー」を選択する。
「新規登録時にカメラへのアクセス権を付与する」の選択項目が表示されます。

- 2 デフォルトアクセス権を ON にするか、OFF にするかを設定する。

デフォルトアクセス権を ON にするときは、「新規登録時にカメラへのアクセス権を付与する」にチェックマークを付け、OFF にするときはチェックマークをはずします。

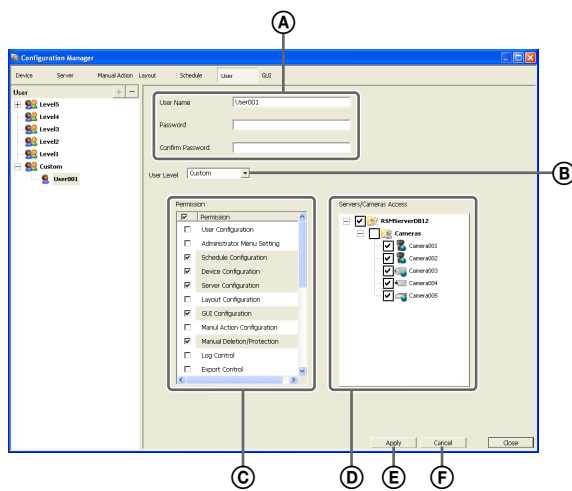
- 3 [適用] をクリックする。

メモ

簡単設定のデバイス追加、ユーザー追加では、この設定にかかわらず、常にカメラへのアクセス権が付与されます。

「ユーザー」タブの設定項目

ユーザーの登録や権限の設定が行えます。本画面は、設定画面で [ユーザー] をクリックすると表示されます。各項目を設定したら、[適用] をクリックして設定を保存します。



① ユーザー

ユーザーの名前を 32 文字以内の ASCII 文字（大小英数字、記号 (! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [\] ^ _ ` { | } ~) で入力します。

パスワード

ユーザーのパスワードを 32 文字以内の ASCII 文字 (大小英数字、記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{|}~)) で入力します。

パスワード確認

確認のため、同じパスワードをもう一度入力します。

⑧ ユーザーレベル

ユーザーレベルを選択します。
個別に権限を設定したいときは「Custom」を選択します。

⑨ 権限

このユーザーに与える権限にチェックマークを付けます。
一例として、権限には以下のような種類があります。

User Configuration

「ユーザー設定」画面で、ユーザーアカウントの設定や変更が行えます。

Administrator Menu Setting

「セットアップメニュー」画面から、各種設定を行うことができます。

Schedule Configuration

「スケジュール」画面で、スケジュールの追加や変更が行えます。

Device Configuration

「デバイス設定」画面で、デバイスの追加や削除が行えます。

Server Configuration

「サーバー設定」画面で、サーバーやネットワークに関する設定ができます。

Layout Configuration

「レイアウト設定」画面で、モニターレイアウトの登録や変更が行えます。

GUI Configuration

「GUI 設定」画面で、クイック再生時の巻き戻し時間を設定できます。

Manual Action Configuration

「マニュアルアクション」画面で、手動でトリガーを発生させたときの動作を設定できます。

Manual Deletion/Protection

記録画像を手動で削除できます。また、クリーンアップやデータ上書きや誤操作により、記録画像が削除されないように保護することができます。

Log Control

「ログ」ダイアログで、ログをエクスポートできます。

Export Control

記録画像のエクスポートが行えます。

Exit Server

NSR シリーズ本体側で、サーバーのシャットダウン、再起動が可能となります。

ご注意

- NSR シリーズをリモートでシャットダウン、再起動をすることはできません。
- RealShot Manager Advanced Server、Client、Lite 側では制限はありません。

Search & Playback

記録データの検索や再生が行えます。

Camera Control

「カメラコントロール」ペインで、カメラの制御が行えます。

Output Control

設定画面の [デバイス] — [アラーム出力] の設定や変更が行えます。

Layout Control

レイアウトの切り替えができます。

Manual Record

手動で記録が行えます。

Manual Action

マニュアルアクションを実行できます。

Capture Control

モニタリングまたは記録画像を、静止画としてエクスポートできます。

Display Control

メイン画面をフルスクリーン表示に切り替えることができます。

Alarm History Control

アラーム履歴をクリアできます。

Exit Application

ソフトウェアを終了できます。

⑩ サーバー／カメラアクセス

このユーザーにアクセスを許可するデバイスおよびサーバーにチェックマークを付けます。

⑪ 適用

設定を保存します。

⑫ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

で注意

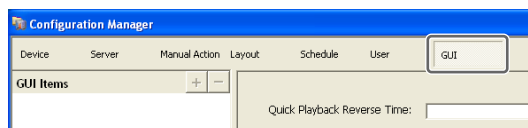
サーバーへのアクセス権がない場合は、そのサーバーへのログオンができません。

クイック再生時の巻き戻し時間を設定する

メイン画面で [PLAYBACK] をクリックすると、選択されているモニターフレームが再生状態となり、設定されている時間に戻って自動的に再生が開始されます（この機能を「クイック再生」といいます）。

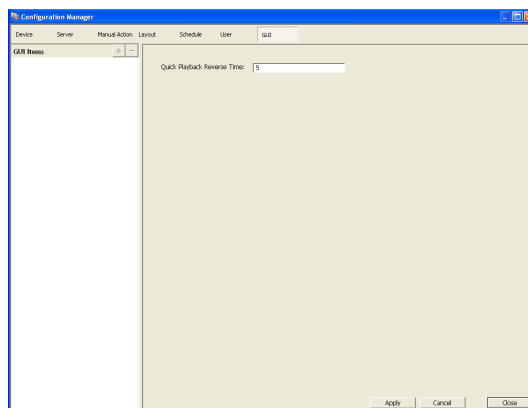
「GUI 設定」画面で、クイック再生時の巻き戻し時間を設定できます。

- 1 設定画面上部にある [GUI] をクリックする。



「GUI 設定」画面が表示されます。

- 2 クイック再生時の巻き戻し時間を秒単位で入力し、[適用] をクリックする。



クイック再生時の巻き戻し時間が設定されます。

メモ

設定できる時間は 10 秒以上です。

緊急イベントをダイアログで通知する

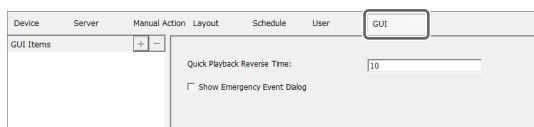
指定した緊急イベントが発生したときに、その内容をダイアログで通知できます。

「GUI 設定」画面で、緊急イベント通知を設定できます。

ご注意

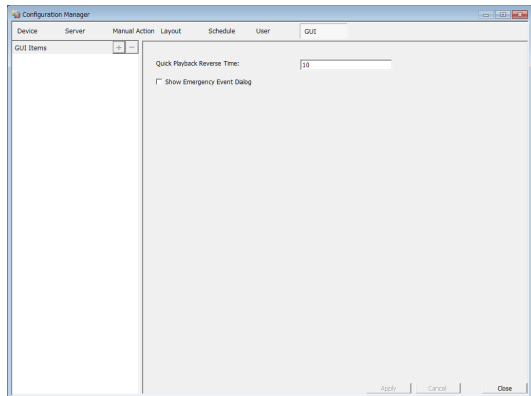
ログオンしていないときは、ダイアログ通知はされません。

- 1 設定画面上部にある [GUI] をクリックする。



「GUI 設定」画面が表示されます。

- 2 緊急イベントが発生したときに、その内容をダイアログで通知するときは、[緊急イベントのダイアログを表示] にチェックマークを付け、[適用] をクリックする。



RealShot Manager Advanced (Client) のみ表示されます。

モニタリングする

現在カメラが撮影しているライブ画像や、カメラからの音声をモニタリングできます。また、あらかじめ設定しておいた時間でディスプレイの表示を次々に切り替えるレイアウトツアー機能を使ったモニタリングもできます。

ここでは、以下のモニタリング操作について説明します。

- ライブ画像をモニタリングする (119 ページ)
- レイアウトツアーを使ってモニタリングする (120 ページ)

メモ

レイアウトツアー機能を使用するには、あらかじめレイアウトツアーを設定しておく必要があります。設定方法は、「レイアウトツアーを設定する」(67 ページ)をご覧ください。

ライブ画像をモニタリングする

任意のモニターフレームで、現在カメラが撮影している画像をモニタリングできます。

- 1 メイン画面で、ライブ画像を表示するモニターフレームをクリックして選択する。
- 2 「モニターコントロール」ペインの [LIVE] をクリックする。



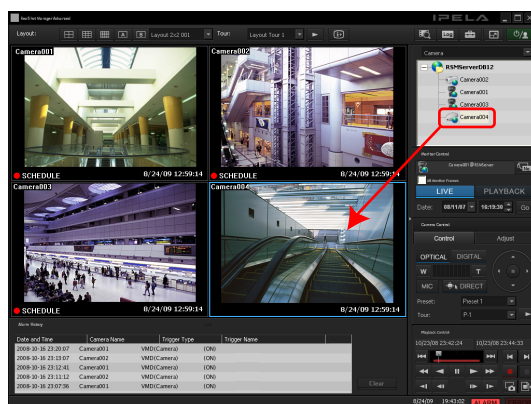
選択したモニターフレームにライブ画像が表示されます。

各項目の詳細は、「メイン画面の機能と使いかた」(121 ページ)をご覧ください。

別のカメラの画像をモニタリングするには

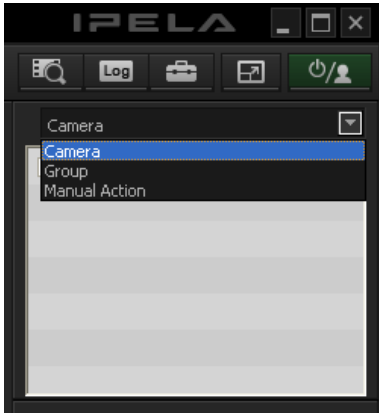
「カメラ」ペインでカメラを選択し、モニターフレームにドラッグ&ドロップすると、選択したカメラの画像に切り替わります。

モニターフレームをクリックして選択し、「カメラ」ペインでカメラをダブルクリックしても、選択したカメラの画像に切り替えできます。



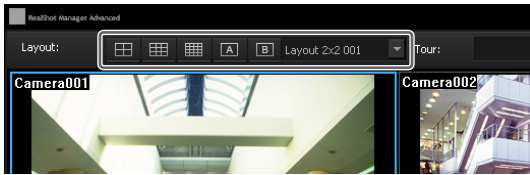
メモ

「カメラ」ペインが表示されていないときは、▼をクリックし、表示されるメニューで「カメラ」を選択すると、「カメラ」ペインに切り替わります。



レイアウトを変更するには

メイン画面上部の「レイアウト」ツールバーで、レイアウトを選択すると、レイアウトが切り替わります。



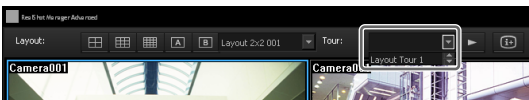
レイアウトツアーでモニタリングする

あらかじめ設定しておいた時間でディスプレイの表示を次々に切り替えるレイアウトツアー機能を使ってモニタリングできます。

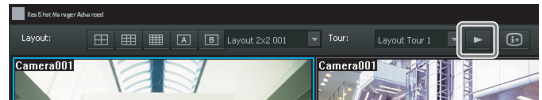
メモ

レイアウトツアー機能を使用するには、あらかじめレイアウトツアーを設定しておく必要があります。設定方法は、「レイアウトツアーを設定する」(67 ページ)をご覧ください。

- 1 メイン画面上部の「ツアー」ツールバーで、レイアウトツアーを選択する。



- 2 ▶ (レイアウトツアーの開始) をクリックする。



シーケンス動作が開始されます。

再度 ▶ をクリックすると、レイアウトツアーが終了します。

メイン画面の機能と使いかた

メイン画面では、現在カメラが撮影しているライブ画像のモニタリングや記録画像の再生などが行えます。



① [レイアウト] ツールバー

レイアウトを切り替えるときに使います。

2x2 (2 × 2 レイアウト)

2 × 2 のデフォルトレイアウトに切り替えます。

3x3 (3 × 3 レイアウト)

3 × 3 のデフォルトレイアウトに切り替えます。

4x4 (4 × 4 レイアウト)

4 × 4 のデフォルトレイアウトに切り替えます。

A (カスタム A レイアウト)

「カスタム A」グループのレイアウトに切り替えます。

B (カスタム B レイアウト)

「カスタム B」グループのレイアウトに切り替えます。

レイアウトメニュー

ドロップダウンメニューからレイアウトを選択します。

② [ツアー] ツールバー

レイアウトツアーを実行するときに使います。

ツアーメニュー

ドロップダウンメニューからレイアウトツアーを選択します。

▶ (レイアウトツアーの開始・停止)

レイアウトツアーを開始または停止します。

③ [情報表示]

レイアウト設定で設定されているモニターフレームの情報の表示／非表示を切り替えます。

④ [記録画像の検索]

検索条件を指定するための「検索」画面 (133 ページ) が表示されます。

Log (ログの表示)

最近のログメッセージが表示される「ログ」画面 (143 ページ) が表示されます。

🔧 (設定管理)

デバイスの登録やカメラの動作などを設定するための「デバイス設定」画面（40 ページ）が表示されます。

🖥️ (フルスクリーン)

現在のレイアウト（モニターフレームの並び）で全画面表示します。

全画面にすると、操作ボタンなどが非表示になります。

🖥️ (フルスクリーン解除)

全画面表示から通常画面に戻ります。

このボタンは、全画面表示にしているとき、画面右上の角にカーソルを合わせると表示されます。

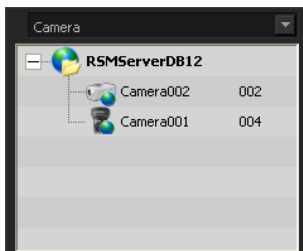
キーボードの Esc キーを押しても通常画面に戻ります。

ⓔ 🔌 (ログオフ)

ログオフ、アプリケーションの終了ができます。

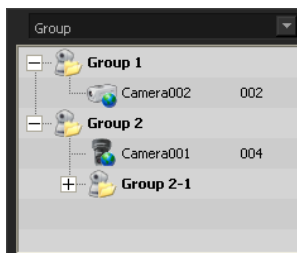
ⓔ 「カメラ」 / 「グループ」 / 「マニュアルアクション」 ペイン

📄 をクリックし、表示されるメニューで各ペインに切り替えできます。

「カメラ」 ペイン

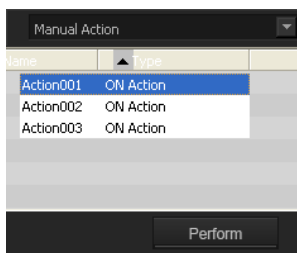
モニターフレームに画像を表示させるカメラを選択できます。

ツリーからカメラを選択し、モニターフレームにドラッグ&ドロップすると、選択したカメラの画像に切り替わります。

「グループ」 ペイン

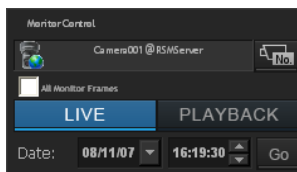
デバイスグループ単位でカメラリストが表示され、モニターフレームに画像を表示させるカメラを選択できます。

ツリーからカメラを選択し、モニターフレームにドラッグ&ドロップすると、選択したカメラの画像に切り替わります。

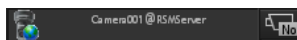
「マニュアルアクション」 ペイン

手動でアクションを実行できます。

一覧からアクションを選択し、[Perform] をクリックします。

ⓔ 「モニターコントロール」 ペイン

ライブ画像と記録画像の切り替えができます。



選択されているモニターフレームに割り当てられているカメラの名前が表示されます。

カメラの割り当てを変更するときは、📄 (カメラ ID 選択) をクリックし、表示される入力ボックスにカメラの ID を入力し、Enter キーを押します。

すべてのモニターフレーム

ここにチェックマークを付けると、ライブ画像のモニタリングやクイック再生が、すべてのモニターフレームに対して有効となります。

メモ

レイアウト内の合計モニターフレーム数が9以下の場合のみ [すべてのモニターフレーム] をチェックできます。

LIVE PLAYBACK

選択しているモニターフレームでライブ画像をモニタリングするときは [LIVE] を、記録画像を再生するときは [PLAYBACK] をクリックします。

また、モニターフレームを選択するとボタンが点灯し、ライブとプレイバックのどちらの状態になっているかを示します。

[PLAYBACK] をクリックすると、選択されているモニターフレームが再生状態となり、「GUI 設定」で設定されている時間に戻って自動的に再生が開始されます（この機能を「クイック再生」といいます）。

Date: 08/11/07 16:19:30 Go

記録画像の再生位置を日時で指定できます。

日付と時刻を指定して [Go] をクリックすると、選択したモニターフレームに指定した位置から記録画像が再生されます。

④ 「カメラコントロール」 ペイン [コントロール] タブ



カメラからの画像を操作できます。

OPTICAL

カメラを光学ズームモードにします。

DIGITAL

画像をモニター上で拡大／縮小して表示します。

広角ズーム／望遠ズーム



広角側／望遠側にズームします。

[W] はワイド（広角側）、[T] はテレ（望遠）になります。

「W」と「T」の間をクリックすると、絶対値にズームします。

MIC

RealShot Manager Advanced がインストールされたコンピューターのマイクから入力された音声を、メイン画面上で選択したカメラのスピーカーから出力します。音声出力が可能なカメラを選択すると、[MIC] ボタンが有効となり、ボタンを押すことによって音声出力がオン／オフします。

ご注意

- 選択された1つのカメラに対してのみ音声出力することが可能です。
- 複数のカメラに対して同時に音声を出力させることはできません。
- 音声出力できるカメラは、そのコンピューターと同一セグメント内に存在するカメラのみとなります。
- 音声出力のオン／オフは、カメラ側の設定画面（Web ブラウザ上）で行う必要があります。
- カメラをホスト名で指定する場合は、そのコンピューター上で解決可能な名前である必要があります。



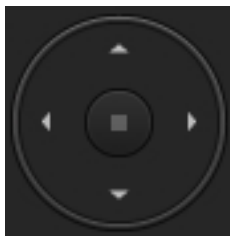
このボタンをクリックすると、マウスの操作でパン・チルト、ズーム、センタリングの操作ができますようになります。

また、以下のショートカットキーも利用できます。

ショートカットキー	操作
Ctrl + 左クリック	選択したポイントが中心となるように移動
Ctrl + 左クリックでドラッグ	赤い枠が表示され、マウスボタンを離すと枠内の画像をウィンドウいっぱい拡大表示
Ctrl + ホイールを前方に回す	ズームイン ¹⁾
Ctrl + ホイールを後方に回す	ズームアウト ¹⁾

1) デジタルズームでのズームイン／ズームアウトには対応していません。

パン/チルト



カメラを上下左右に動かします。

プリセット

選択したプリセット位置にカメラが移動します。

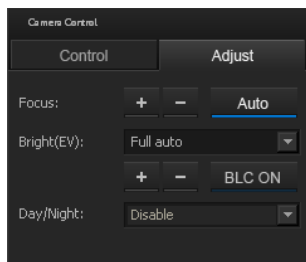
メモ

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合は、再生中も別のプリセット位置に変更できます。

ツアー

選択したカメラツアーを実行します。

[調整] タブ



カメラからの画像を調整できます。

フォーカス



[Auto] を選択すると、フォーカスが常時自動調整されます。

[-] [+] をクリックすると、自動状態が解除され、手動でフォーカスを調整できます。[-] 側に調整すると近くのものにピントが合い、[+] 側に調整すると遠くのものにピントが合います。

明るさ (EV)



[Full auto] を選択すると、明るさが常時自動調整されます。[BLC ON] をクリックするたびに、逆光補正がオン/オフします。

[シャッター優先] を選択すると、シャッター速度を固定して絞りを自動調節します。

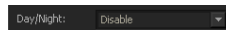
[絞り優先] を選択すると、絞りを固定してシャッター速度を自動調節します。

自動状態を解除すると、[-]、[+] がクリックできるようになります。[+] 側に調整すると明るめに、[-] 側に調整すると暗めになります。

メモ

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合、BLC の領域については、設置状況に合わせてカメラ側の設定画面 (Web ブラウザ上) で設定してください。

Day/Night



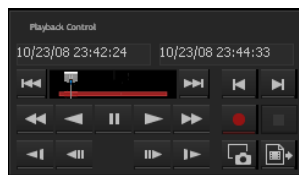
デイ/ナイト機能を持つカメラの場合に、デイ/ナイト機能を選択します。

[Day Mode] を選択すると、デイモードで動作します。[Night Mode] を選択すると、ナイトモードで動作します。

[Auto] を選択すると、通常はデイモードで動作します。暗いところでは自動的にナイトモードに切り替わります。

[Disable] を選択すると、デイ/ナイト機能が無効になります。

① 「再生コントロール」 ペイン



記録画像を再生するときに使います。

記録画像をファイルとしてエクスポートしたり、記録画像の一場面を、静止画ファイルとしてエクスポートすることもできます。

日時表示部

10/23/08 23:42:24 10/23/08 23:44:33

画像が記録されたときの日時が表示されます。



(前のアラーム) をクリックすると記録データ内の前のアラームに、 (次のアラーム) をクリックすると次のアラームにジャンプします。

スライダーをドラッグすることで、再生したい時刻に再生ポイントを移動できます。

(巻戻し)

巻き戻しをします。

また、ボタンをクリックするたびに、巻き戻し速度が次のように変わります。

→ 2倍 → 5倍 → 10倍 → 20倍 → 50倍

(逆再生)

逆再生します。(1倍速)

(一時停止)

再生を一時停止します。

(再生)

再生します。(1倍速)

メタデータが記録されていて、VMF (Video Motion Filter) が設定されている場合は、同時に再生されます。(1倍速再生時のみ)

音声付きのデータは、1倍速再生時のみ音声も再生されます。

(早送り)

早送りします。

また、ボタンをクリックするたびに、早送り速度が次のように変わります。

→ 2倍 → 5倍 → 10倍 → 20倍 → 50倍

(逆スロー再生)

逆スロー再生します。(1/5倍速)

(コマ戻し)

1フレーム戻します。

(コマ送り)

1フレーム進めます。

(スロー再生)

スロー再生します。(1/5倍速)

(前の記録)

1つ前のレコードにジャンプします。

(次の記録)

次のレコードにジャンプします。

(記録開始)

モニターフレームで選択したカメラの画像の記録を開始します。

(記録停止)

マニュアル記録を停止します。

記録を停止できるのは、マニュアル記録だけです。

(静止画のキャプチャ)

記録画像の一場面を静止画ファイルとしてエクスポートします。

静止画はJPEGでエクスポートされます。

詳しくは、「静止画としてエクスポートする」(141ページ)をご覧ください。

(記録画像のエクスポート)

動画は独自フォーマット(.camファイル)でエクスポートされます。エクスポートされた動画は、CAMファイル再生用アプリケーションで再生します。

④ [ALARM] ランプ



アラームが発生したときに点灯します。

アラーム履歴ペインにある[Clear]ボタンをクリックして履歴をクリアすると、[ALARM]ランプが消灯します。

[ERROR] ランプ



エラーが発生したときに点灯します。

[ERROR]ランプをクリックするとログウィンドウが開きます。エラーの内容を確認することにより[ERROR]ランプが消灯します。[ERROR]ランプが点灯したままですと、クライアントへのサーバーエラー通知が継続されます。

⑤ ペイン伸縮ボタン

ペイン部の表示/非表示を切り替えます。

㊦ 「アラーム履歴」 ペイン

Date and Time	Camera Name	Trigger Type	Trigger Name
2008-10-16 23:20:07	Camera001	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:13:07	Camera002	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:12:41	Camera001	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:11:12	Camera002	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:07:36	Camera001	VMD(Camera)	(ON)

アラームが発生したときの履歴が一覧表示されます。ペイン上部をマウスでドラッグすることで、ペインの大きさを変更できます。

Clear

履歴をクリアします。

㊦ モニターフレーム

それぞれのモニターフレームで、ライブ画像の表示や記録画像の再生ができます。

ライブ画像をモニタリングするときは、モニターフレームをクリックして選択し、[LIVE] をクリックします。

記録画像を再生するときは、再生したいモニターフレームをクリックして選択し、[PLAYBACK] をクリックします。

クリックアクションが設定されている場合

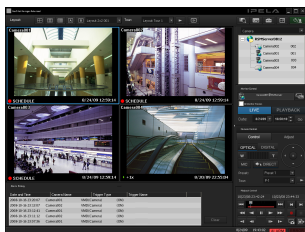
レイアウトに貼り込まれた画像やモニターフレームにアクションが設定されている場合、指定したオブジェクトの位置にマウスをかざすと、ポインターが変わります。

ポインターが変わったところでマウスをクリックすると、アクションが実行されます。

2番目のモニター（モニター 2）

モニターを2台接続した場合、モニターコネクター 2に接続したモニターには、1×1、2×2、3×2、3×3、4×4のいずれかに指定したモニターレイアウトが表示されます。モニター 2は、ホットスポット用モニターとしても使用できます。

モニター 1 の画面



モニター 2 の画面



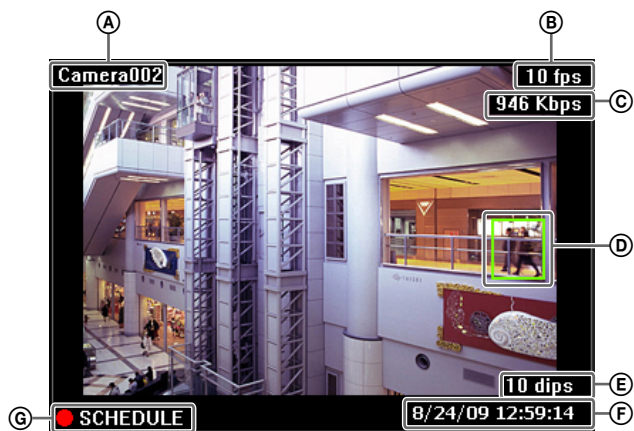
表示される画像は、モニター 1 で選択されたモニターフレームと同じものです。ただし、センサー入力や動体検知があった場合は、該当するカメラの画像が表示されます。2台のモニターを接続したときの動作は、次のようになります。

- 選択された画像、またはセンサー入力や動体検知があったカメラの画像が左上から右上、左下、右下の順に、空いているモニターフレームに表示されます。
- すでに同じ画像がモニターフレームに表示されている場合は、別のモニターフレームへの表示は行われません。
- ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合、アラームによるホットスポット動作でモニター 2 に表示される画像は、以下のようになります。
 - すでに同じカメラの画像が表示されている場合は、ディスプレイモードの切り換えは行われません。
 - 別のカメラの画像が表示されている場合やカメラがアサインされていない場合は、リストの先頭にあるプリセットが表示されます。

メモ

- モニター 2 では、設定操作を行うことはできません。
- モニター 2 の表示を行うと、モニター 1 の表示のパフォーマンスが低下することがあります。

モニターフレーム



㊦ カメラ名

カメラの名前が表示されます。

㊦ フレームレート

カメラから画像を取り込む速度が表示されます。

㊦ 帯域

ネットワーク接続で画像を転送するために使用される帯域の値が表示されます。

④ オブジェクト枠

Video Motion Detection (レコーダー) または VMF のオブジェクト枠が表示されます。

⑤ 表示フレーム数

カメラ画像がモニター上で更新される速度が表示されます。

⑥ 時刻

ライブ画像のモニタリング中や記録中には現在の日時、記録画像の再生中には記録時の日時が表示されます。

⑦ 状態

記録時には、記録種別 (MANUAL、ALARM、SCHEDULE、EVENT) を表示します。

記録画像の再生時には、再生操作の状態 (PAUSE など) や再生速度 (+ 1x、- 0.2x など) を表示します (正方向の再生速度には「+」、逆方向の再生速度には「-」が付きます)。

メモ

- ホットスポットに設定されているモニターフレームでは、以下の場合などに該当するカメラの画像が表示されます。
 - モニターフレームが選択されたとき
 - センサー入力があったとき
 - 動体検知や VMF パッケージなどのアラームが発生したとき
- モニターフレームに表示されているカメラで、センサー入力や動体検知などのアラームが発生したときに赤枠が表示されます。
- ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合、ホットスポットの画像は、リストの先頭にあるプリセット位置の画像となります。


モニターフレームを 1 × 1 表示にする

モニターフレーム上でダブルクリックすると、そのモニターフレームが 1 × 1 表示になります。再度ダブルクリックすると、元のレイアウトに戻ります。

メモ

1 × 1 表示に切り替えた後に別のレイアウトに切り替えたり、アクション、レイアウトツアーによってレイアウトの切り替えが行われた場合は、続けてダブルクリックしても元のレイアウトには戻りません。

各種情報を非表示にするには

 をクリックすると、モニターフレーム上の情報の表示/非表示が切り替わります。

カメラをコントロールする

パン・チルト機能を備えたカメラの場合は、[カメラコントロール] ペインやマウスを使って、パン、チルト、ズームの操作をしながらカメラからの画像をモニターできます。

[カメラコントロール] ペインの使いかたについては、「メイン画面の機能と使いかた」(121 ページ) をご覧ください。

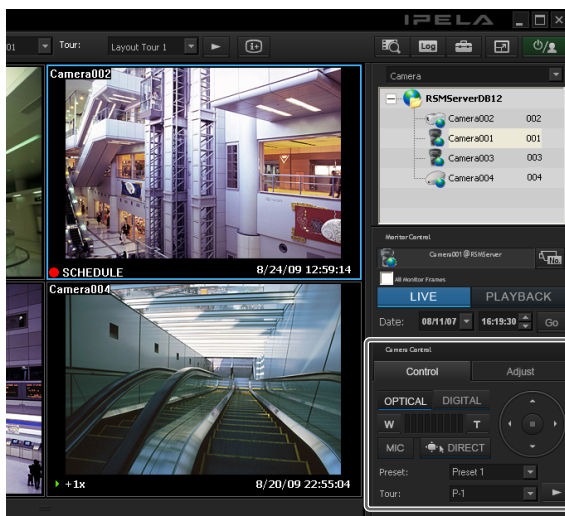
メモ

- カメラのコントロールは、ネットワークに対応したカメラにのみ有効です。
- 複数のモニターフレームを同時に選択した場合は、最後に選択したモニターフレームのカメラがコントロールの対象となります。

パン、チルト、ズームの操作をする


[カメラコントロール] ペインを使ってコントロールする

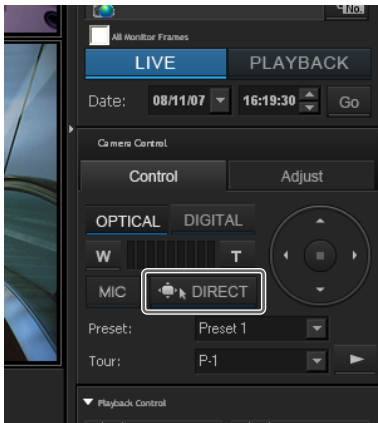
- 1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。
- 2 [カメラコントロール] ペインを使って、カメラをコントロールする。



マウスを使ってコントロールする

カメラモニターフレームに表示されている画像上でマウスを操作することにより、センタリングや、パン、チルト、ズームなどの操作ができます。

- 1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。
- 2 [カメラコントロール] ペインの  DIRECT をクリックする。



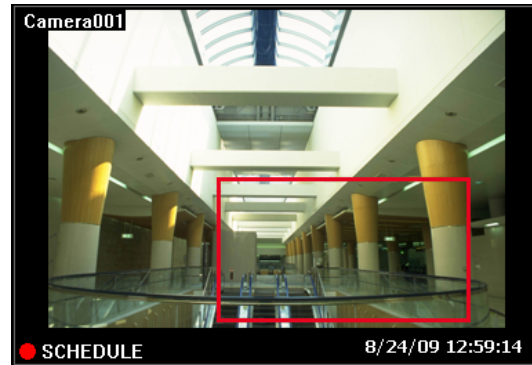
■ 画像をセンタリングするには

画像上でマウスをクリックすると、クリックした位置が中心になるようにカメラが移動します。



■ パン、チルト、ズームの操作を行うには

画像上でマウスをドラッグすると、赤い枠が表示されます。マウスから指を離すと、赤い枠内の画像が画面いっぱいに表示されるようにカメラが移動します。



■ ズームイン、ズームアウトの操作を行うには

ホイール付きのマウスをお使いの場合は、ホイールを回すと、ズームイン、ズームアウトができます。

- ホイールを前方に回すと、ズームイン¹⁾
 - ホイールを後方に回すと、ズームアウト¹⁾
- 1) デジタルでのズームイン/ズームアウトには対応していません。

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの画像をコントロールする

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合は、以下のように操作します。

[カメラコントロールペイン] を使ってコントロールする

- 1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。


モニターフレームには、プリセットリストの先頭の画像が表示されます。

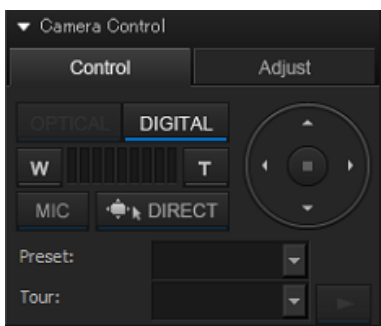
- 2 必要に応じて、プリセットを変更する。

- 3 [カメラコントロール] ペインを使って、カメラをコントロールする。

マウスを使ってコントロールする

カメラモニターフレームに表示されている画像上でマウスを操作することにより、パン、チルト、ズームなどの操作ができます。ディスプレイモードによって、できる操作が異なります。

- 1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。
- 2 必要に応じて、プリセットを変更する。
- 3 [カメラコントロール] ペインの  DIRECT をクリックする。



■ パン、チルトの操作を行うには

画像上をマウスでドラッグすると、その方向に画像の角度が変更されます。マウスを止めると、画像の移動も停止します。

メモ

パノラマビューの場合は、パン操作のみ行えます。

■ ズームイン、ズームアウトの操作を行うには

ホイール付きのマウスをお使いの場合は、ホイールを回すと、ズームイン、ズームアウトができます。

- ホイールを前方に回すと、ズームイン¹⁾
- ホイールを後方に回すと、ズームアウト¹⁾

1) デジタルでのズームイン/ズームアウトには対応していません。

カメラのプリセットを使う

カメラに記憶されているプリセット位置にカメラを移動できます。

メモ

新しいプリセットを設定することもできます。設定方法は、「プリセット位置を設定する」(48 ページ)をご覧ください。

- 1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。
- 2 [カメラコントロール] ペインの [プリセット] で、プリセットを選択する。



カメラがプリセットの位置に移動します。


カメラツアーを実行する

プリセットに指定されているパン、チルト、ズーム位置にカメラを順に移動させる「ツアー」を実行できます。カメラは、あらかじめ設定されている時間だけ、各プリセット位置に留まります。

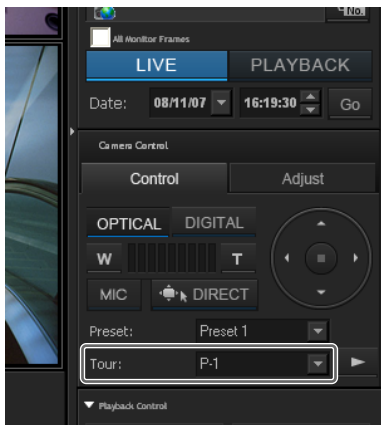
また、シャドーツアー機能を使って記録したカメラ動作を実行することもできます。

メモ

カメラツアー機能やシャドーツアー機能を使うには、あらかじめカメラツアーやシャドーツアーを設定しておく必要があります。設定方法は、「カメラツアーを設定する」(50ページ)、「シャドーツアーを設定する」(52ページ)をご覧ください。

- 1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。
- 2 [カメラコントロール] ペインの [ツアー] で、カメラツアーを選択し、 (カメラツアーの開始) をクリックする。

P-1 ~ がカメラツアー、S-1 ~ S-4 がシャドーツアーです。



カメラツアーが実行されます。

画像を記録・検索・再生する

ライブ画像を記録したり、記録済みの画像データや音声データを検索して再生できます。

ここでは、以下の操作について説明します。

- ライブ画像を記録する (130 ページ)
現在カメラが撮影している画像を記録できます。
- 記録画像を再生する (131 ページ)
指定した時間分を自動的に巻き戻して再生するクイック再生や日時を指定しての再生、アラーム履歴からの再生するなど、簡単な操作で記録画像を再生できます。
- 記録画像を検索する (131 ページ)
日時や記録種別を指定して、記録画像を検索できます。
- 検索結果から記録画像を再生する (133 ページ)
検索結果から記録画像を再生できます。

ご注意

記録画像にプリセット情報は含まれません。記録後にプリセットを変更または削除すると、記録時のプリセットで再生することはできません。

メモ

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合、全方位の画像が記録されます。

ライブ画像を記録する


現在カメラが撮影している画像を記録できます。

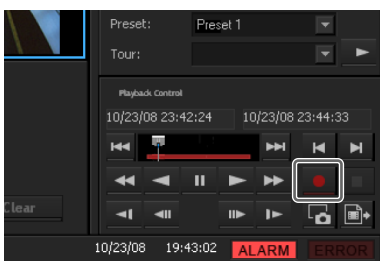
- 1 ライブ画像を記録したいモニターフレームを選択する。

メモ

ライブ画像が表示されていない場合は、「モニターコントロール」ペインの [LIVE] をクリックしてください。



- 2 「再生コントロール」ペインの  (記録開始) をクリックする。



記録が開始されます。

メモ

レイアウトを変更しても、記録は継続されます。

- 3 記録を停止するときは、 (記録停止) をクリックする。

記録が停止します。

記録画像を再生する

指定した時間分を自動的に巻き戻して再生するクイック再生や、再生位置を日時で指定したり、アラーム履歴から再生するなど、簡単な操作で記録画像を再生できます。

クイック再生

モニターフレームをクリックして選択し、[PLAYBACK] をクリックすると、あらかじめ設定されている時間分だけ巻き戻して自動的に記録画像が再生されます。

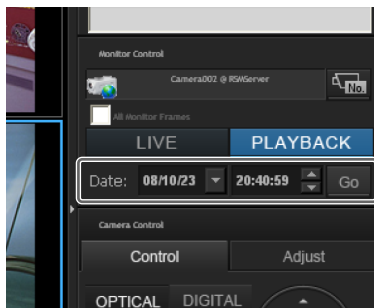
メモ

クイック再生の巻き戻し時間は、「GUI 設定」画面 (117 ページ) で設定できます。

日時を指定して再生する

記録画像の再生位置を日時で指定できます。

- 1 記録画像を再生したいカメラが割り当てられているモニターフレームをクリックして選択する。
- 2 「モニターコントロール」ペインの [日時] で日付と時刻を指定し、[Go] をクリックする。



指定した時刻のフレームが表示されます。

アラーム履歴から再生する

- 1 録画像を再生したいモニターフレームをクリックして選択する。
- 2 「アラーム履歴」ペインで、アラーム履歴をダブルクリックする。

Date and Time	Camera Name	Trigger Type	Trigger Name
2008-10-16 23:20:07	Camera001	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:13:07	Camera002	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:12:41	Camera001	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:11:12	Camera002	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:07:36	Camera001	VMD(Camera)	(ON)

記録画像が再生されます。

メモ

ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合、リストの先頭にあるプリセットで再生されます。

記録画像を検索する

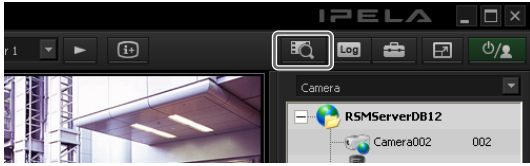
検索には、次の種類があります。

- **ノーマル検索**
記録種別 (スケジュール記録、マニュアル記録、アラーム記録、イベント記録) を指定して検索できます。
- **オブジェクト検索**
すでに記録されている画像に対して、VMD (レコーダー) の動体検知機能や VMF の機能を使った検索ができます。

ノーマル検索

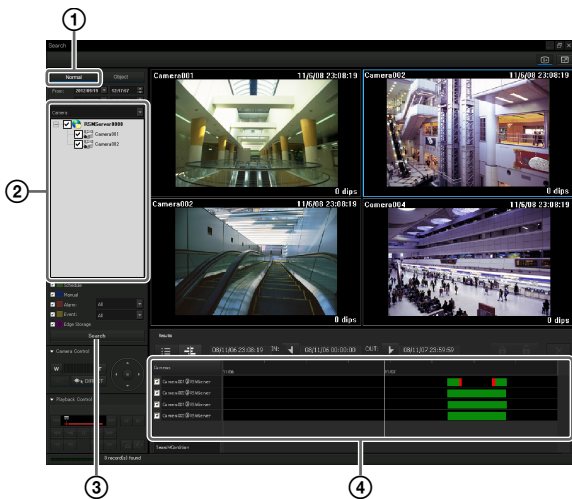
記録種別（スケジュール記録、マニュアル記録、アラーム記録、イベント記録）を指定して検索できます。

- 1 メイン画面上部の （記録画像の検索）をクリックする。



「検索」画面が表示されます。

- 2 検索条件を指定し、[検索] をクリックする。



各項目の詳細は、「検索」画面（ノーマル）の設定項目（133 ページ）をご覧ください。

- ① [ノーマル] をクリックする。
- ② 検索条件を指定する。
- ③ [検索] をクリックする。

検索結果が一覧表示されます (④)。
検索結果から記録画像を再生できます。詳しくは、「検索結果から記録画像を再生する」（133 ページ）をご覧ください。

オブジェクト検索

すでに記録されている画像に対して、VMD（レコーダー）の動体検知機能や VMF の機能を使った検索ができます。

- 1 「検索」画面で、検索条件を指定し、[検索] をクリックする。



ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合



各項目の詳細は、「検索」画面（オブジェクト）の設定項目（134 ページ）をご覧ください。

- ① [オブジェクト] をクリックする。
- ② [VMF] または [VMD (Recorder)] を選択する。
- ③ 検索条件を指定する。
- ④ [検索] をクリックする。
検索結果が一覧表示されます (⑤)。

検索結果から記録画像を再生する

検索結果から記録画像の再生ができます。



- 1 「検索」画面で、記録画像を検索する。
- 2 記録画像を再生する。

画面例) リスト表示




各項目の詳細は、「検索結果」画面（リスト表示）（136 ページ）、「検索結果」画面（タイムライン表示）（136 ページ）をご覧ください。

- ① 必要に応じて、タイムライン表示またはリスト表示に切り替える。

（リストモード）をクリックするとリスト表示に、（タイムラインモード）をクリックするとタイムライン表示に切り替わります。

- ② 再生したい記録画像にチェックマークを付ける。

- ③ （再生）をクリックする。
モニターフレームに記録画像が再生されます。
「画像コントロール」ペインや「再生コントロール」ペインで、画像の拡大／縮小や早送り、巻き戻しなどの操作ができます。

「検索」画面の詳細

「検索」画面（ノーマル）の設定項目

ノーマル検索時の検索条件を指定します。

各項目を設定し、[検索] をクリックすると、指定した条件で検索が実行されます。



① 【ノーマル】タブ

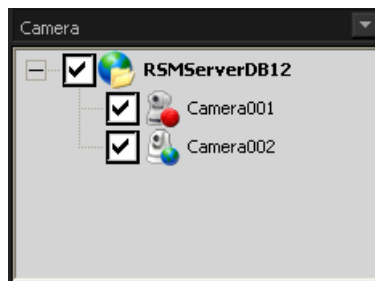
記録種別（スケジュール記録、マニュアル記録、アラーム記録、イベント記録）を指定して検索するときを選択します。

② 日時指定部



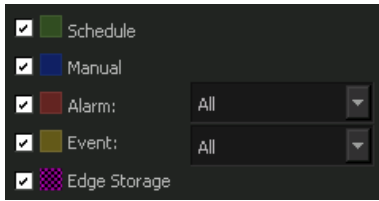
検索対象の日時の範囲を指定します。

③ デバイス指定部



検索対象のデバイスを指定します。
検索対象のデバイスにチェックマークを付けます。

④ 記録種別



検索対象の記録種別にチェックマークを付けます。
[アラーム記録] または [イベント記録] にチェックマークを付けたときは、ドロップダウンメニューから記録のトリガーを選択します。

⑤ [検索] ボタン

指定した条件で検索を実行します。

「検索」画面 (オブジェクト) の設定項目

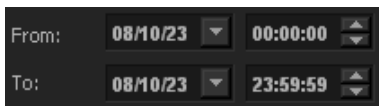
オブジェクト検索時の検索条件を指定します。
各項目を設定し、[検索] をクリックすると、指定した条件で検索が実行されます。



① [オブジェクト] タブ

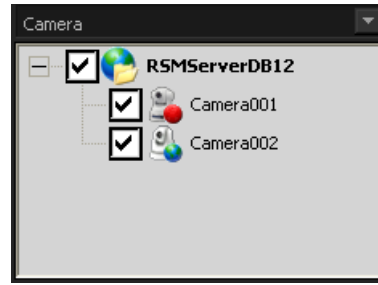
VMD (レコーダー) の動体検知または動体/不動体の検出条件であるフィルター (VMF: Video Motion Filter) をかけて該当する記録を検索するときに選択します。

② 日時指定部



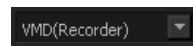
検索対象の日時の範囲を指定します。

③ デバイス指定部



検索対象のデバイスを指定します。選択できるデバイスやチャンネルは1つだけです。
検索対象に使用するデバイスにチェックマークを付けます。

④ オブジェクト検索種別



検索対象の動体検知の種類を選択します。

⑤ オブジェクト検索設定

[編集] をクリックすると、[オブジェクト検索種別] で選択した動体検知の種類に応じて、検索条件を詳細に設定するためのダイアログが表示されます。

⑥ [検索] ボタン

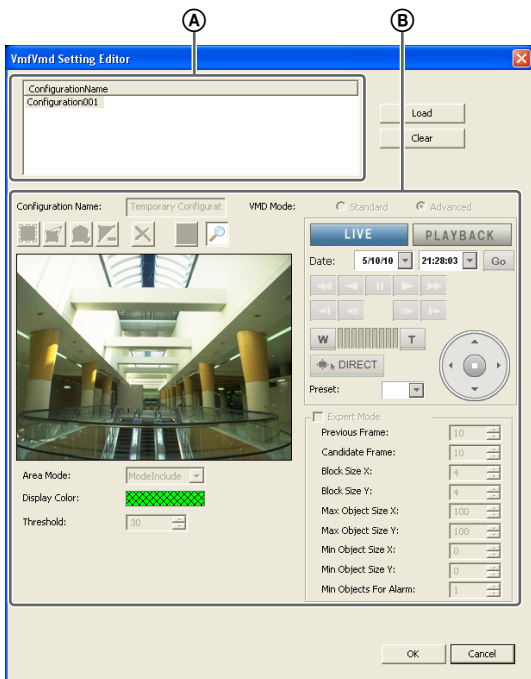
指定した条件で検索を実行します。

「オブジェクト検索設定」ダイアログ (VMD) の設定項目

VMD (レコーダー) の動体検知機能を使って検索するときの検索条件を詳細に指定します。

本ダイアログは、「検索」画面の [オブジェクト検索種別] (134 ページ) で、[VMD] を選択し、[編集] をクリックしたときに表示されます。

各項目を設定したら、[OK] をクリックします。



① 設定名

検索に使用する設定を選択し、[読み込み] をクリックします。

読み込んだ設定内容が、②の各項目に反映されます。

② 動体検知領域設定部

動体検知領域を設定します。

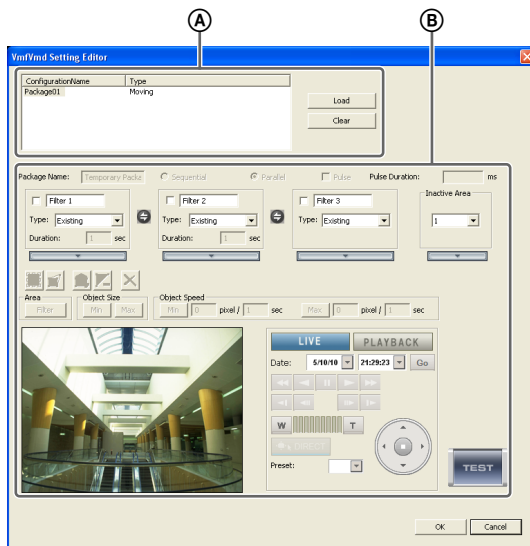
設定方法は [デバイス設定] 画面で [VMD (レコーダー)] を設定するときと同様です。各項目の詳細は、「[[VMD] タブ (VMD (レコーダー)) の設定項目」 (69 ページ) をご覧ください。

「オブジェクト検索設定」ダイアログ (VMF) の設定項目

動体/不動体の検出条件であるフィルター (VMF : Video Motion Filter) をかけて該当する記録を検索するときの検索条件を詳細に指定します。

本ダイアログは、「検索」画面の [オブジェクト検索種別] (134 ページ) で、[VMF] を選択し、[編集] をクリックしたときに表示されます。

各項目を設定したら、[OK] をクリックします。



① 設定名

検索に使用する VMF パッケージを選択し、[読み込み] をクリックします。

読み込んだ設定内容が、②の各項目に反映されます。

② VMF パッケージ設定部

VMF パッケージの内容を設定します。

設定方法は「デバイス設定」画面で [VMF] を設定するときと同様です。各項目の詳細は、「[[VMD] タブ (VMF) の設定項目」 (76 ページ) をご覧ください。

検索結果表示部（リスト表示）

リスト表示では、検索結果の一覧が表示されます。項目によっては、一覧のタイトル部分をクリックすると、その項目でソートできます。クリックするたびに、降順／昇順にソートされます。



A (リストモード)

リスト表示に切り替えます。

B (保護)

選択した記録を保護します。

(保護解除)

選択した記録の保護を解除します。

(削除)

選択した記録を削除します。

C 検索結果の一覧

記録の再生を行うときは、該当するカメラにチェックマークを付けます。一覧には、以下の情報が表示されます。

カメラ

カメラ名が表示されます。
この項目はソートできます。

種別

記録の種類（マニュアル／スケジュール／アラーム／イベント）が表示されます。
この項目はソートできます。

トリガー

記録のトリガーが表示されます。
この項目はソートできます。

開始

記録の開始時刻が表示されます。
この項目はソートできます。

有効開始

再生開始可能な時刻が表示されます。
クリーンアップやデータ上書きにより、記録の先頭から順に古いデータが削除されている場合があります。

終了

記録の終了時刻が表示されます。

期間

記録データの長さが表示されます。

保護

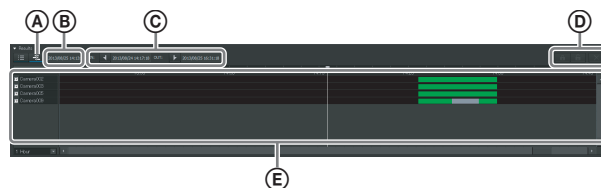
記録データが保護されているときは「保護」と表示されます。

検索結果表示部（タイムライン表示）

タイムライン表示では、検索結果の一覧が記録の種類ごとに色分けされて表示されます。

メモ

VIDEO LOSS のために記録がない期間は、灰色で表示されます。



A (タイムラインモード)



タイムライン表示に切り替えます。

B タイムラインの時刻表示

現在、タイムラインのどの位置（時刻）にいるのかが表示されます。

C (マークイン) / (マークアウト)

検索された記録をエクスポートする場合に、その一部分を指定できます。

 (マークイン) /  (マークアウト) をクリックすると、現在の再生位置に開始点／終了点が設定されます。

マークイン／マークアウトの位置は、ドラッグ&ドロップで移動させることもできます。

D (保護)

選択した記録を保護します。

(保護解除)

選択した記録の保護を解除します。

(削除)

選択した記録を削除します。

⑤ 検索結果の一覧

記録の再生を行うときは、該当するカメラにチェックマークを付けます。

一覧には、以下の情報が表示されます。

カメラ

記録したカメラ名が表示されます。

白い線（ウォーカー）

現在、タイムラインのどの位置（時刻）にいるのかを示します。

白い線をドラッグして位置を移動することもできます。

また、タイムラインの目盛（リストのタイトル部分）をクリックしても、白い線を移動できます（クリックした位置に白い線が移動します）。

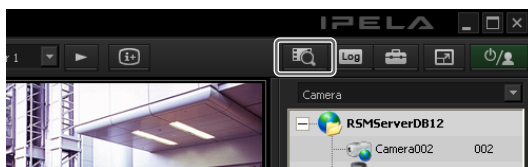
記録画像を削除する

削除したい記録画像を検索し、手動で削除できます。

メモ

常にディスクの空き容量を確保しておくために、スケジュールを設定して記録画像を削除することもできます。詳しくは、「記録データの削除に関する設定をする」（85ページ）をご覧ください。


- 1 メイン画面上部の （記録画像の検索）をクリックする。



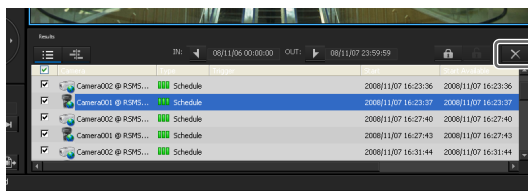
「検索」画面が表示されます。

- 2 検索条件を指定し、[検索] をクリックする。

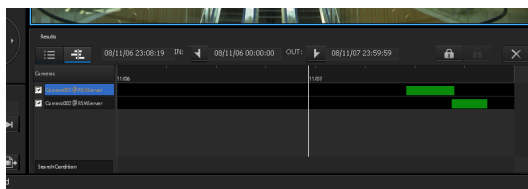
記録画像の検索については、「記録画像を検索する」（131ページ）をご覧ください。

- 3 削除したい記録画像を選択し、（削除）をクリックする。

リスト表示の場合



タイムライン表示の場合



メモ

プロテクトされている記録画像は削除できません。

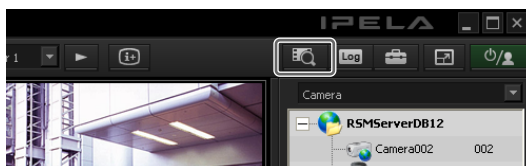
確認メッセージが表示されます。

- 4 [はい] をクリックする。
記録画像が削除されます。

記録画像を保護する

クリーンアップやデータ上書きや誤操作により記録画像が削除されないように保護することができます。


- 1 メイン画面上部の  (記録画像の検索) をクリックする。



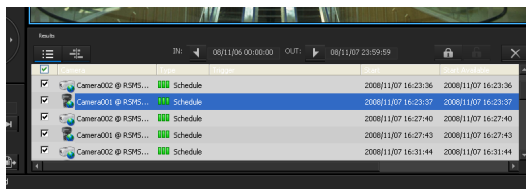
「検索」画面が表示されます。

- 2 検索条件を指定し、[検索] をクリックする。

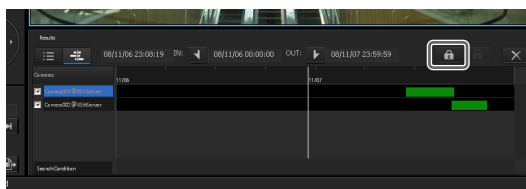
記録画像の検索については、「記録画像を検索する」(131 ページ) をご覧ください。

- 3 保護したい記録画像を選択し、 (保護) をクリックする。

リスト表示の場合




タイムライン表示の場合



記録画像が保護されます。

リスト表示の場合は、保護された記録に「保護」と表示されます。

画像の保護を解除するには

上記の手順3で保護を解除したい記録画像を選択し、 (保護解除) をクリックします。

記録画像をエクスポートする

保存されている記録画像をファイルとしてエクスポートできます。

動画は独自フォーマット (.cam ファイル)、静止画は JPEG でエクスポートされます。エクスポートされた動画は、CAM ファイル再生用アプリケーションで再生します。

メモ

- Windows XP または Windows Server 2003 でネットワークドライブをお使いの場合、クライアントからネットワークドライブ上にある記録画像をエクスポートすることはできません。Windows XP または Windows Server 2003 でネットワークドライブ上にある記録画像をエクスポートするときには、サーバーから操作を行ってください。
- ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合は、「全方位の画像+モニターフレームに表示されている画像のアンクル情報」がエクスポートされます。

記録画像をエクスポートする


保存されている記録画像をファイルとしてエクスポートできます。記録画像のエクスポートは、メイン画面または「検索」画面から行えます。記録画像の一部を指定してエクスポートすることもできます。

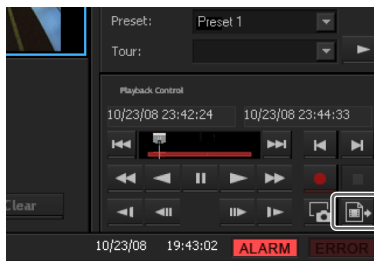
また、記録画像をエクスポートする際に、パスワードで保護することもできます。

メイン画面からエクスポートする

- 1 任意のモニターフレームを選択し、エクスポートしたいカメラの画像を表示する。

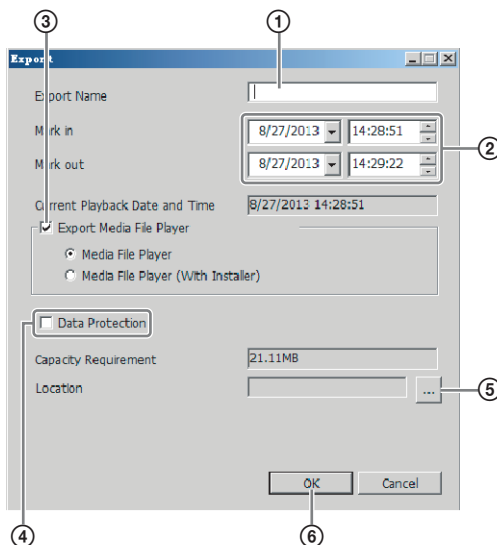
再生中の記録画像をエクスポートしたいときは、再生を一時停止してから、以降の手順を行ってください。

- 2 [再生コントロール] ペインの  (記録画像のエクスポート) をクリックする。



「エクスポート」ダイアログが表示されます。

- 3 各項目を設定し、[OK] をクリックする。



各項目の詳細は、「「エクスポート」ダイアログの設定項目」(141 ページ) をご覧ください。

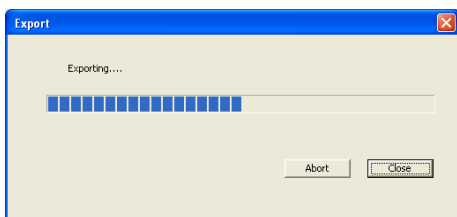
- ① エクスポート名を入力する。
- ② 必要に応じて、エクスポートする記録画像の開始点(マークイン)や終了点(マークアウト)を指定する。
- ③ エクスポートしたファイルを開覧するための「Media File Player」も一緒にエクスポートするときにチェックマークを付ける。
- ④ 記録画像をパスワードで保護する場合は、[データ保護] にチェックマークを付ける。
- ⑤ エクスポート先のメディアを選択する。
- ⑥ [OK] をクリックする。
[データ保護] にチェックマークを付けた場合は、パスワードを入力するダイアログが表示されます。

- ⑦ 設定するパスワードを入力し、[OK] をクリックする。
パスワード保護されたファイルは、Media File Player で再生する際にパスワードの入力が必要となります。


メモ

- 静止画は、パスワード保護の対象外です。
- Media File Player で複数のファイルを同時再生するには、共通のパスワードを設定する必要があります。
- RealShot Manager Lite には、パスワードの保護機能はありません。

エクスポートが開始されます。
エクスポート中は以下の画面が表示され、進行状況を確認できます。

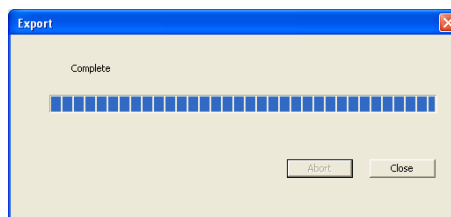


メモ

- メディアの空き容量が足りない場合は、警告のメッセージが表示され、エクスポートが中止されます。
- エクスポート中に [閉じる] をクリックすると、エクスポートを続行しながらメイン画面に戻ることができます。
- [中断] をクリックすると、エクスポートは途中で終了しますが、その時点までの記録画像はエクスポートされています。
- エクスポート中にメイン画面に戻っているときに  (記録画像のエクスポート) をクリックすると、「エクスポート中」画面が表示されます。エクスポート中に、ほかのエクスポートを開始することはできません。
- 「エクスポート」ダイアログの [必要容量] に表示される容量は目安です。空き容量が [必要容量] に表示された容量よりも多かった場合であっても、まれにメディアの空き容量不足となり、エクスポートが失敗することがあります。
- 記録中のファイルをエクスポートすると、正常に再生できないことがあります。記録中のレコードをエクスポートする場合は、終了点 (マークアウト) を現在時刻より離れた時刻に指定してエクスポートしてください。

エクスポートが終了すると、以下のように表示されます。

- 4 [閉じる] をクリックする。

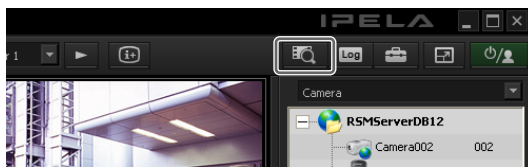


「エクスポート中」画面が閉じます。

「検索」画面からエクスポートする

「検索」画面では、エクスポートしたい記録画像を検索し、開始点 (マークイン) と終了点 (マークアウト) を指定してエクスポートできます。

- 1 メイン画面上部の  (記録画像の検索) をクリックする。

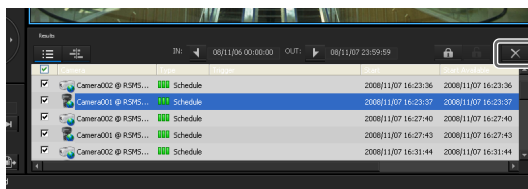


「検索」画面が表示されます。

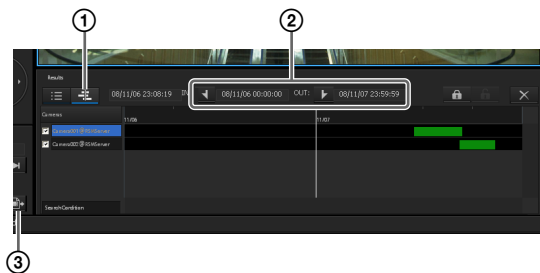
- 2 検索条件を指定し、[検索] をクリックする。





記録画像の検索については、「記録画像を検索する」(131 ページ) をご覧ください。

- 3 検索結果の一覧で、エクスポートしたい記録画像をクリックして選択する。




- 4 タイムライン表示にし、開始点（マークイン）と終了点（マークアウト）を指定してエクスポートする。

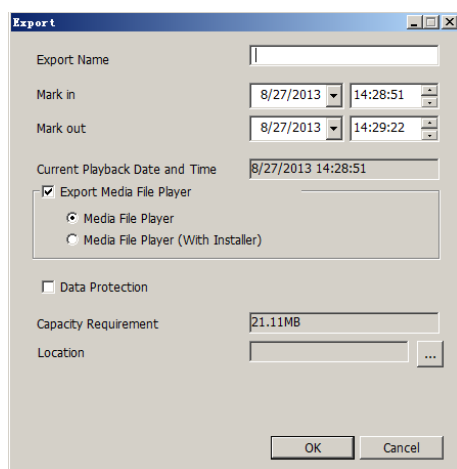


- ①  (タイムライン) をクリックし、タイムライン表示にする。
- ② タイムライン上で、開始点（マークイン）と終了点（マークアウト）指定する。
 (マークイン) /  (マークアウト) をクリックすると、現在の再生位置に開始点／終了点が設定されます。
 マークイン／マークアウトの位置は、ドラッグ&ドロップで移動させることもできます。
- ③  (記録画像のエクスポート) をクリックする。

「エクスポート」ダイアログが表示されます。以降は、「記録画像をエクスポートする」の手順3 (139 ページ) と同様です。

「エクスポート」ダイアログの設定項目

本ダイアログは、メイン画面 (121 ページ) で  (記録画像のエクスポート) をクリックしたときに表示されます。各項目を設定したら、[OK] をクリックします。



エクスポート名

エクスポート名を入力します。

マークイン

エクスポートする記録画像の開始点を入力します。開始点は「検索」画面のタイムライン上でも設定できます。「検索」画面のタイムライン上にマークインが設定されている場合は、その値が自動的に表示されます。必要に応じて、手動で値を調整できます。

マークアウト

エクスポートする記録画像の終了点を入力します。終了点は「検索」画面のタイムライン上でも設定できます。「検索」画面のタイムライン上にマークアウトが設定されている場合は、その値が自動的に表示されます。必要に応じて、手動で値を調整できます。

現在の再生日時

現在モニターフレームに表示されている画像が記録された日時が表示されます。

Media File Player をエクスポートする

エクスポートしたファイルを開覧するための「Media File Player」も一緒にエクスポートするときにチェックマークを付けます。

必要容量

指定した記録画像をエクスポートするために必要となる容量が表示されます。

場所

エクスポート先のメディアを選択します。

OK

エクスポートを実行します。

キャンセル


エクスポートをキャンセルし、ダイアログを閉じます。

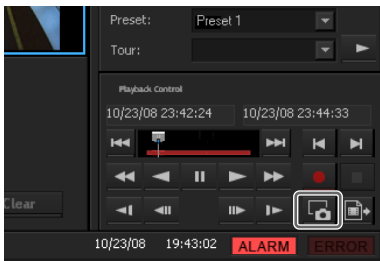
静止画としてエクスポートする

記録画像またはライブ画像の一場面をキャプチャーし、静止画ファイルとしてエクスポートできます。ソニー製 360 度全方位型ネットワークカメラの場合も、モニターフレームに表示されている画像が静止画ファイルとしてエクスポートされます。

1 任意のモニターフレームを選択し、エクスポートしたい場面のある記録画像を再生する。

2 エクスポートしたい場面で一時停止する。

- 3 [再生コントロール] ペインの  (静止画のキャプチャ) をクリックする。



ご注意

静止画ファイルは、インストールフォルダーにある「SnapShots」フォルダーに保存されます。

システムの管理をする

日常のシステム管理に必要な操作を説明します。

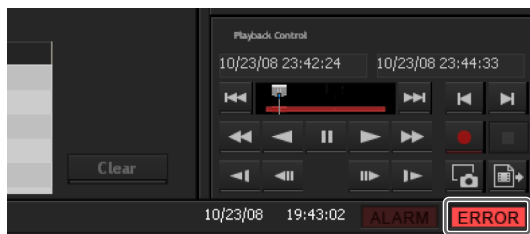
- エラーステータスを監視する (142 ページ)
- ログファイルをエクスポートする (143 ページ)

エラーステータスを監視する

サーバーでエラーが発生したときは、メイン画面の ERROR ランプで確認できます。

メイン画面の ERROR ランプ

EMERGENCY レベルのエラーを検知すると、メイン画面右下の ERROR ランプが点灯します。

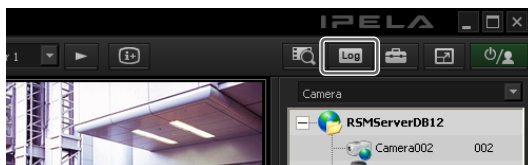


エラーの内容を確認するには

ERROR ランプをクリックすると、「ログ」ダイアログが開き、ログを確認できます。

また、以下の方法でもログを確認できます。

- 1 メイン画面上部の  をクリックする。



「ログ」ダイアログが表示されます。

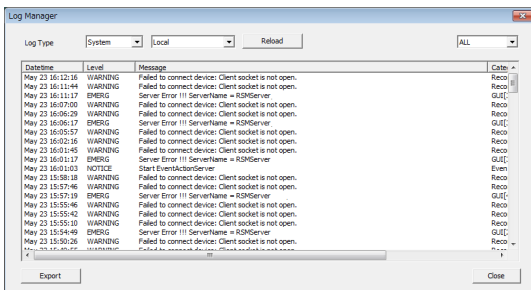
2 エラーの内容を確認する。

[ログの種類] からシステムログ、イベント/アラームログ、オペレーションログを選択できます。ログレベルを設定すると、表示するログを絞り込めます。

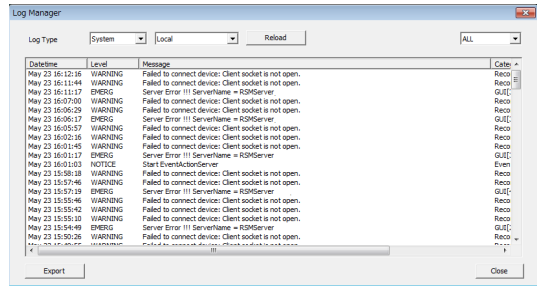
メモ

システムログを選択したときは、右上のドロップダウンメニューから確認したい項目のレベルを設定できます。[ALL] を選択すると、すべての項目が表示されます。

レベルの高い項目順に、EMERGENCY > ERROR > WARNING > NOTICE > ALL となります。

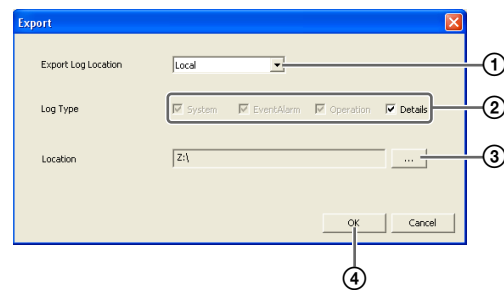


2 [エクスポート] をクリックする。



[エクスポート] ダイアログが表示されます。

3 エクスポートしたいログを指定し、[OK] をクリックする。



① ローカルのログか、サーバーのログを選択する。

② エクスポートするログにチェックマークを付ける。

メモ

- 「[Administrator Menu Setting] 権限のあるユーザーのみ、[Details] を選択することが可能です。権限については、「ユーザーを登録する」(113ページ)をご覧ください。
- [Details] でエクスポートされるファイルは、「管理メニュー」の「システム情報エクスポート」でエクスポートされるファイルと同じです。
- クライアントの場合は、[ログの場所] で [Local] 以外を選択したときは、[ログの種類] で [Details] は選択できません。

③ エクスポート先を選択する。

④ [OK] をクリックする。

エクスポートが開始されます。エクスポート中は以下の画面が表示され、進行状況を確認できます。

ログファイルをエクスポートする

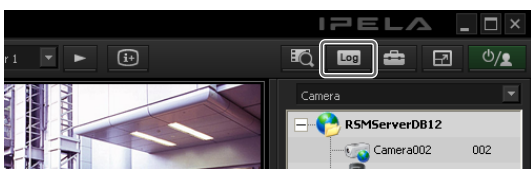
以下のログファイルをエクスポートできます。

- システムログ
- イベント/アラームログ
- オペレーションログ
- 詳細ログおよびシステム情報

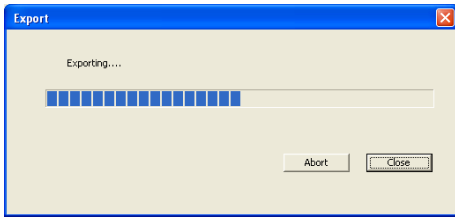
メモ

フィルタリングは反映されません。

1 メイン画面上部の [Log] をクリックする。



[ログ] ダイアログが表示されます。

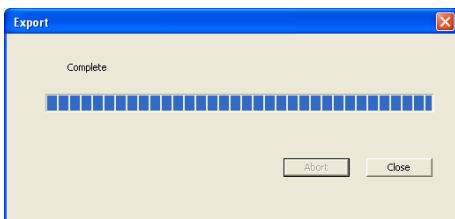


メモ

メディアの空き容量が足りない場合は、警告のメッセージが表示され、エクスポートが中止されます。

エクスポートが終了すると、以下のように表示されます。

4 [閉じる] をクリックする。



「エクスポート中」画面が閉じます。



ソフトウェアをアンインストールするには

ソフトウェアをアンインストールする場合は、以下の順に行ってください。

RealShot Manager Advanced をアンインストールする



PostgreSQL をアンインストールする



データを削除する

アンインストールする前に

- アンインストールは、管理者権限のあるユーザーアカウントで Windows にログオンして行ってください。
- 他のプログラムが起動している場合は、すべて終了させてください。

ここでは例として、Windows XP での手順を説明します。

RealShot Manager Advanced をアンインストールする

一般的なソフトウェアと同様に、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールしてください。

PostgreSQL をアンインストールする

一般的なソフトウェアと同様に、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールしてください。

データを削除する

PostgreSQL や RealShot Manager Advanced をアンインストールしてもデータは削除されませんので、手動で行ってください。

- 1 RealShot Manager Advanced のインストールフォルダーを削除する。
- 2 記録データの記録先フォルダーを削除する。

トラブルシューティング

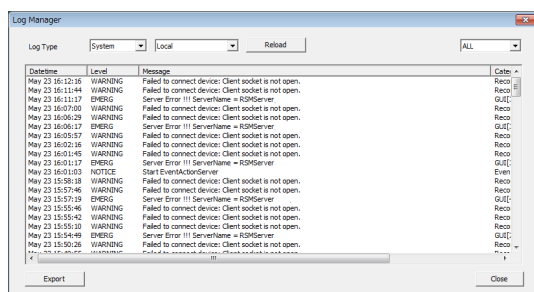
ログについて

RealShot Manager Advanced では、「ログ」ウィンドウで最新のログメッセージを見ることができます。

「ログ」ウィンドウ

メイン画面の **Log** (ログの表示) をクリックすると表示されます。

各メッセージには、日付やログの発生元のカメラまたはアプリケーションが表示されます。[message] の欄には、ログが発生した理由が表示されます。



詳しくは、「エラーステータスを監視する」(142 ページ) をご覧ください。

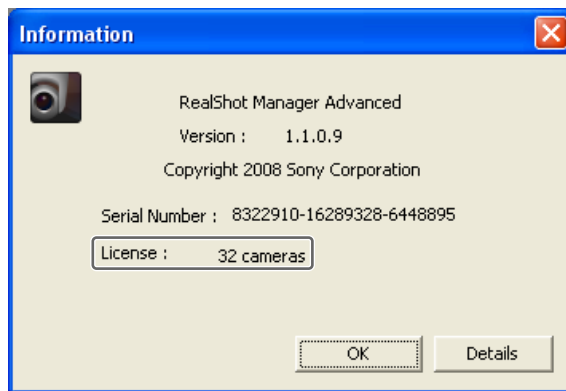
エラーメッセージ

ライセンスエラー

有効なソフトウェアライセンスがインストールされていない状態で RealShot Manager Advanced を起動すると、「30 日試用版」または RealShot Manager Lite で起動されます。

ライセンスが正しくインストールされていることを確認するには

ログオン画面で [情報] を選択し、表示されるダイアログに表示される使用可能なカメラ数と購入したライセンスが一致していれば、ライセンスが正しくインストールされています。



ご注意

ライセンスファイルを RealShot Manager Advanced のインストールフォルダーにコピーした後、コンピューターの再起動が必要です。

モニターフレームに「未接続」と表示される

このメッセージは、ネットワークを介してカメラと通信できないときに表示されます。次の項目を確認してください。

- カメラの電源がオフになっている。
→ カメラの電源をオンにしてください。
- RealShot Manager Advanced がインストールされているコンピューターとカメラ間の接続が確立されていない。
→ 接続設定を確認してください。詳しくは、「[デバイス設定] 画面の設定項目」(40 ページ) をご覧ください。
- RealShot Manager Advanced におけるカメラの設定が正しくない。
→ 「[デバイス設定] 画面の設定項目」(40 ページ) を参照し、カメラの設定を確認してください。

- カメラにおけるカメラの設定が正しくない。
→それぞれのカメラの取扱説明書をご覧ください。
- プロキシサーバーを介してネットワークに接続している場合、カメラの詳細登録が正しくない。
→プロキシサーバーの詳細設定を確認してください。詳しくは、「[デバイス設定]画面の設定項目」(40ページ)をご覧ください。

ネットワーク接続を確認するには (ping を使って確認する)

ping コマンドを使って、カメラがネットワークに接続されているか、コンピューターからカメラが見えるかテストできます。

1 Windows で「コマンドプロンプト」を開く。

[スタート] をクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選んで「cmd」と入力するか、Windows キー + R キーで「ファイル名を指定して実行」を開き「cmd」と入力します。

2 次のように入力する。

ping <カメラの IP アドレス>

正しく接続されているとき

「Reply from 192.168.0.110:bytes=32time<1ms TTL=128」の下に、以下のようなメッセージが表示されます。

```
C:\>ping 192.168.0.110
Pinging 192.168.0.110 with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.110: bytes=32 time<1ms TTL=128
Reply from 192.168.0.110: bytes=32 time<1ms TTL=128
Reply from 192.168.0.110: bytes=32 time<1ms TTL=128
Reply from 192.168.0.110: bytes=32 time<1ms TTL=128

Ping statistics for 192.168.0.110:
Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
Approximate round trip times in milli-seconds:
Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

接続されていないとき

以下のように、「Request timed out.」が表示されます。

```
C:\>ping 192.168.0.100
Pinging 192.168.0.100 with 32 bytes of data:
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.

Ping statistics for 192.168.0.100:
Packets: Sent = 4, Received = 0, Lost = 4 (100% loss),
```

カメラと RealShot Manager Advanced がインストールされているコンピューターとの間の接続に、ルーターやパッチパネルなど、他のデバイスを介しているときは、そのデバイスが正しく機能しているか確認してください。

その他

最大フレームレートで表示・記録できない

ネットワーク関連に問題があったり、カメラ側の設定や RealShot Manager Advanced の設定値が正しくない場合は、以下のようなことが考えられます。

- ネットワークの接続環境や RealShot Manager Advanced がインストールされているコンピューターに対して、カメラの解像度や画質に設定が高すぎる。
→「カメラの映像設定をする」(44ページ)を参照し、カメラの設定を確認してください。
- カメラのローカル設定で、最大値が制限されている。
→それぞれのカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 同時に複数のユーザーが画像を転送している。
→ユーザーからのリクエストが多くなると、画像を転送するフレームレートとの最大値が低下することがあります。

画面に表示される画像の画質が非常に悪い

次の原因が考えられます。

- カメラの焦点が合っていない、またはレンズが汚れている。
- カメラの設定で、低解像度、低画質が選択されている。

カメラの焦点を調整するには

カメラの焦点を調整する機能がついている機種の場合は、RealShot Manager Advanced のメイン画面から、「カメラコントロール」ペインの「調整」タブで調整できます。詳しくは、「[[調整] タブ」(124 ページ) をご覧ください。

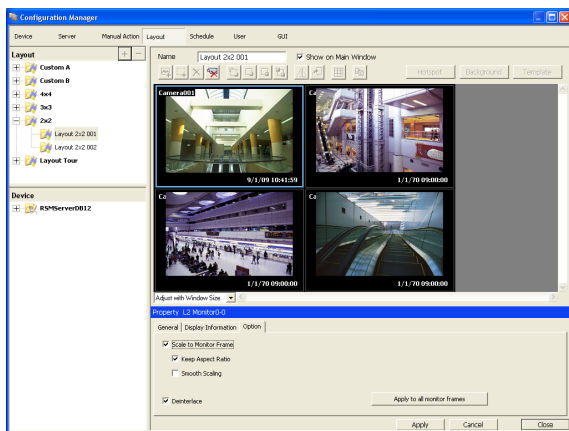
解像度と画質について

RealShot Manager Advanced のカメラ設定で低解像度に設定されているときに、大きなモニターフレームで表示すると、画質が悪くなります。

例えば、カメラの解像度が 160×120 画素に設定されていて、モニターフレームが 800×600 に設定されている場合、画質が非常に悪くなります。

その場合は、次の方法で調整してください。

- 「レイアウト」画面の「オプション」タブで、拡大縮小の方法を変更します。詳しくは、「レイアウト設定」画面の「[[オプション] タブ」(63 ページ) をご覧ください。



索引

あ

アクション	102
アナログカメラ	57
アラーム記録	90
アラーム出力	99
アンインストール	145

い

一括登録	34
イベント記録	90
イベント／アラームアクション	106

え

映像	44
エクスポート	30, 139, 143
エラーステータス	142
エラーメッセージ	146

お

オーディオ	58
音声	58

か

解像度	45
カメラ一括登録	41
カメラコントロール	127
カメラツアー	50, 130
カメラ妨害検知	79
簡単設定	34
管理メニュー	22

き

起動する	16
記録	130
記録画像の削除	137
記録画像の保護	138
記録データの削除	85

く

クイック再生	117
クリーンアップ	86
クリックアクション	126

け

権限	113
検索	130

こ

構成データ	28
-------	----

構成データの復元	29
構成データの保存	28
コーデック	45
コントロール	57

さ

サーバー設定	26
再生	130
削除	137

し

システムアラート	111
システム情報	30
システム情報エクスポート	30
シャドーツアー	52, 130
終了する	16, 17
詳細設定	33

す

スケジュール	88
ストレージ	81

せ

静止画	141
セカンドモニター	66
セットアップメニュー	23
センサー入力	96

つ

ツアー	51, 52
-----	--------

て

データ上書き	85
デバイスグループ	39
デバイス設定	34
デバイス登録	34

と

動体検知	68
トラブルシューティング	146

は

バージョン	21
パスワード	20

ふ

不動体検知	68
プリセット	129
プリセット位置	48
フレームレート	45

ほ

保護	138
----	-----

ま

マスク	52, 55
マニュアルアクション	102

め

メイン画面	121
メール通知	110
メタデータ	74

も

モニターレイアウト	59
モニタリング	119

ゆ

ユーザー登録	113
ユーザーレベル	113

れ

レイアウト設定	60
レイアウトツアー	67, 120

ろ

ログオフ	21
ログオン	16
ログファイル	143

E

Edge Storage	80
ERROR ランプ	142

G

GUI	117
-----	-----

L

Language	23
----------	----

M

Monitor	23
---------	----

N

NAT 設定	27
--------	----

P

PTZ	127
-----	-----

S

Server Name	24
-------------	----

V

Video Motion Filter	74
VMD (カメラ)	71
VMD (レコーダー)	69
VMF	74
VMF (カメラ)	72

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>